松山市文化財調査報告書59

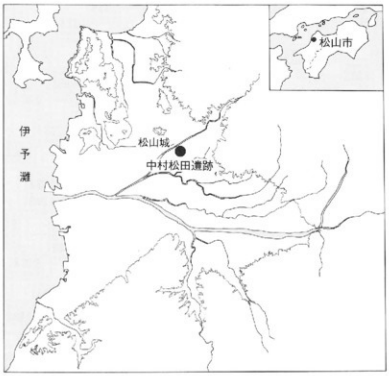
中村松田遺跡

1997

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

なかむらまつだ

中村松田遺跡



1997

松山市教育委員会
財団法人松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター

巻頭図版　SB 4 出土鳥形土製品

序

高縄半島に源を発し、松山平野の北東部を西流する石手川、その流域には、弥生時代から古墳時代に及ぶ集落や古墳が数多く分布しています。

昭和62年度に宅地開発に伴い緊急調査した中村松田遺跡は、弥生時代における集落である小坂・釜ノ口遺跡のおよそ200m北端に位置します。調査では、弥生時代後期の竪穴式住居や溝が検出され、多量の弥生土器が出土しています。特に、弥生時代の鳥形土製品は愛媛県において初めての出土であり、注目される資料といえます。

また、古墳時代から近世までの土器・石器・瓦が出土したことにより、複合遺跡であることが明らかとなっています。

こうした成果をあげ、報告書を刊行できますのも、埋蔵文化財に対する深いご理解と多大のご協力をいただきました地権者、並びに関係各位のお陰と厚くお礼申し上げます。

なお、本書が、埋蔵文化財調査研究の一助となり、多方面にわたり広くご活用していただけることを心から願っています。

平成9年3月31日

財団法人　松山市生涯学習振興財団

理事長　田中誠一

例　言

1．本書は、松山市教育委員会が昭和62年３月～同年５月に、松山市中村１丁目65－２で実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。

2．遺構は、呼称を略号で記述した。竪穴式住居址：ＳＢ、溝：ＳＤ、土坑：ＳＫ、掘立柱建物：掘立、柱穴：ＳＰである。

3．遺物の実測・製図、遺構の作図・製図は、梅木謙一の指示のもと、水口あをい、山下満佐子、平岡直美、村上規子、伊藤みわこ、竹内真琴、長岡千尋、中平久美子、山下純代、渡辺いづみが行った。

4．写真図版は、梅木と大西朋子が協議し、作成は大西朋子が行った。

5．遺構図と遺物図の縮尺は、縮分値をスケール下に記した。

6．本書に使用した方位はすべて磁北である。

7．本書にかかわる遺物や記録物は、松山市立埋蔵文化財センターで保管している。

8．調査に際しては、下條信行先生（愛媛大学）に指導を賜った。記して感謝申し上げます。

9．本書の執筆と編集は梅木謙一が行った。作成に際しては西尾幸則氏と池田学氏に助言をこい、水口あをいの協力を得た。浄書は、白石公信と平岡直美が行った。

本文目次

第Ⅰ章　はじめに

1．調査の経過 …… 1

2．環境 …… 3

第Ⅱ章　遺構と遺物

1．土層 …… 5

2．弥生時代 …… 7

3．古墳時代・古代 …… 61

4．中世・近世 …… 66

第Ⅲ章　自然科学分析

1．中村松田遺跡出土の炭化材樹種同定 …… （株、古環境研究所） …… 97

第Ⅳ章　調査の成果と課題 …… 100

挿図目次

第1図　松山平野の主要遺跡分布図（縮尺 1/50,000）…… 2
第2図　調査地周辺の遺跡分布図（縮尺 1/25,000）…… 4
第3図　調査地位置図（縮尺 1/2,000）…… 5
第4図　遺構配置図・土層図（縮尺 1/300・1/20）…… 6
第5図　ＳＢ4測量図（縮尺 1/40）…… 7
第6図　ＳＢ4出土遺物実測図(1)（縮尺 1/4）…… 9
第7図　ＳＢ4出土遺物実測図(2)（縮尺 1/4）…… 10
第8図　ＳＢ4出土遺物実測図(3)（縮尺 1/4）…… 11
第9図　ＳＢ4出土遺物実測図(4)（縮尺 1/4）…… 12
第10図　ＳＢ4出土遺物実測図(5)（縮尺 1/4）…… 13
第11図　ＳＢ4出土遺物実測図(6)（縮尺 1/4）…… 15
第12図　ＳＢ4出土遺物実測図(7)（縮尺 1/4）…… 16
第13図　ＳＢ4出土遺物実測図(8)（縮尺 1/4）…… 17
第14図　ＳＢ4出土遺物実測図(9)（縮尺 1/4）…… 18
第15図　ＳＢ4出土遺物実測図(10)（縮尺 1/4）…… 19
第16図　ＳＢ4出土遺物実測図(11)（縮尺 1/4）…… 20
第17図　ＳＢ4出土遺物実測図(12)（縮尺 1/4）…… 21
第18図　ＳＢ4出土遺物実測図(13)（縮尺 1/4）…… 22
第19図　ＳＢ4出土遺物実測図(14)（縮尺 1/3）…… 23
第20図　ＳＢ1測量図・遺物出土状況（縮尺 1/40）…… 25
第21図　ＳＢ1出土遺物実測図（縮尺 1/4）…… 26
第22図　ＳＢ2出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 28
第23図　ＳＢ2測量図（縮尺 1/40）…… 29
第24図　ＳＢ3測量図（縮尺 1/40）…… 32
第25図　ＳＢ3出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 33
第26図　ＳＢ5測量図（縮尺 1/40）…… 35
第27図　ＳＢ5出土遺物実測図（縮尺 1/4）…… 36
第28図　ＳＢ7測量図（縮尺 1/40）…… 37
第29図　ＳＢ7出土遺物実測図（縮尺 1/4）…… 38
第30図　ＳＢ8測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/40・1/4）…… 39
第31図　ＳＫ1・2・3測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/40・1/4）…… 41
第32図　ＳＫ4測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/40・1/4）…… 42
第33図　ＳＫ5測量図・出土遺物実測図(1)（縮尺 1/40・1/4）…… 44
第34図　ＳＫ5出土遺物実測図(2)（縮尺 1/3・1/4）…… 45
第35図　ＳＫ8・9・10・11測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/40・1/4）…… 46
第36図　ＳＫ12・13測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/40・1/4）…… 47

第37図　ＳＤ１測量図（縮尺 1/40・1/100）…… 49
第38図　ＳＤ１出土遺物実測図(1)（縮尺 1/4）…… 50
第39図　ＳＤ１出土遺物実測図(2)（縮尺 1/4）…… 51
第40図　ＳＤ１出土遺物実測図(3)（縮尺 1/4）…… 52
第41図　ＳＤ１出土遺物実測図(4)（縮尺 1/4）…… 53
第42図　ＳＤ１出土遺物実測図(5)（縮尺 1/4）…… 55
第43図　ＳＤ１出土遺物実測図(6)（縮尺 1/4）…… 56
第44図　ＳＤ１出土遺物実測図(7)（縮尺 1/4）…… 57
第45図　Ａ区出土遺物実測図（縮尺 1/4）…… 59
第46図　Ｂ区出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/4）…… 60
第47図　出土地点不明遺物実測図（縮尺 1/4）…… 61
第48図　掘立６測量図・出土遺物実測図（縮尺 1/3・1/60）…… 62
第49図　包含層出土遺物実測図（古代）(1)（縮尺 1/3）…… 63
第50図　包含層出土遺物実測図（古代）(2)（縮尺 1/3）…… 64
第51図　包含層出土遺物実測図（古代）(3)（縮尺 1/3）…… 65
第52図　包含層出土遺物実測図（中近世）(1)（縮尺 1/3）…… 66
第53図　包含層出土遺物実測図（中近世）(2)（縮尺 1/3）…… 67
第54図　包含層出土遺物実測図（中近世）(3)（縮尺 1/3）…… 68
第55図　中村松田遺跡出土炭化材の顕微鏡写真 …… 99

表　目　次

表１　竪穴式住居址一覧 …… 69
表２　掘立柱建物址一覧
表３　土坑一覧
表４　溝一覧
表５　ＳＢ４出土遺物観察表（土製品）…… 70
表６　ＳＢ４出土遺物観察表（石製品）…… 77
表７　ＳＢ１出土遺物観察表（土製品）
表８　ＳＢ２出土遺物観察表（土製品）…… 78
表９　ＳＢ２出土遺物観察表（石製品）…… 79
表10　ＳＢ３出土遺物観察表（土製品）…… 80
表11　ＳＢ３出土遺物観察表（石製品）
表12　ＳＢ５出土遺物観察表（土製品）…… 81
表13　ＳＢ７出土遺物観察表（土製品）…… 82
表14　ＳＢ８出土遺物観察表（土製品）
表15　ＳＫ１～５出土遺物観察表（土製品）
表16　ＳＫ５出土遺物観察表（石製品）…… 84

表17　ＳＫ８～12出土遺物観察表（土製品）…… 84
表18　ＳＤ１出土遺物観察表（土製品）…… 85
表19　Ａ・Ｂ区出土遺物観察表（土製品）…… 91
表20　Ｂ区出土遺物観察表（石製品）…… 92
表21　地点不明出土遺物観察表（土製品）
表22　掘立６出土遺物観察表（土製品）…… 93
表23　包含層（古代）出土遺物観察表（土製品）
表24　包含層（古代）出土遺物観察表（石製品）…… 95
表25　包含層（中近世）出土遺物観察表（土製品）
表26　中村松田遺跡出土炭化材の樹種同定結果…… 97

写真図版目次

巻頭図版　ＳＢ４出土の鳥形土製品
図版１　１　Ａ区遺構検出状況（南より）
　　２　Ｂ区遺構検出状況（南より）
図版２　１　ＳＢ４遺物出土状況①（南東より）
　　２　ＳＢ４遺物出土状況②（北東より）
図版３　１　ＳＢ４遺物出土状況③（北東より）
　　２　ＳＢ１遺物出土状況（南西より）
図版４　１　ＳＢ１完掘状況（北東より）
　　２　ＳＢ２完掘状況（東より）
図版５　１　ＳＢ３完掘状況（北より）
　　２　ＳＢ５完掘状況（北より）
図版６　１　ＳＢ５・掘立６完掘状況（南より）
　　２　ＳＢ７完掘状況（北東より）
図版７　１　ＳＢ８完掘状況（北より）
　　２　ＳＫ９～13完掘状況（北より）
図版８　１　ＳＤ１遺物出土状況（南より）
　　２　ＳＤ２完掘状況（東より）
図版９　１　ＳＢ４出土遺物①
図版10　１　ＳＢ４出土遺物②
図版11　１　ＳＢ４出土遺物③
図版12　１　ＳＢ４出土遺物④
図版13　１　ＳＢ４出土遺物⑤
図版14　１　ＳＤ１出土遺物　Ａ区出土遺物　Ｂ区出土遺物　包含層（古代）出土遺物

第Ⅰ章　はじめに

1．調査の経過

（1）調査の経緯

昭和62年２月、池川安氏・関谷光博氏より、松山市中村１丁目65－２の宅地開発にあたり、埋蔵文化財の確認願いが松山市教育委員会文化教育課に提出された。

当該地は、松山市の指定する『108　中村町遺跡』内にある。当地域は古墳時代の集落地帯であり東200ｍに素鷲小学校構内遺跡等が確認されている（第１図）。

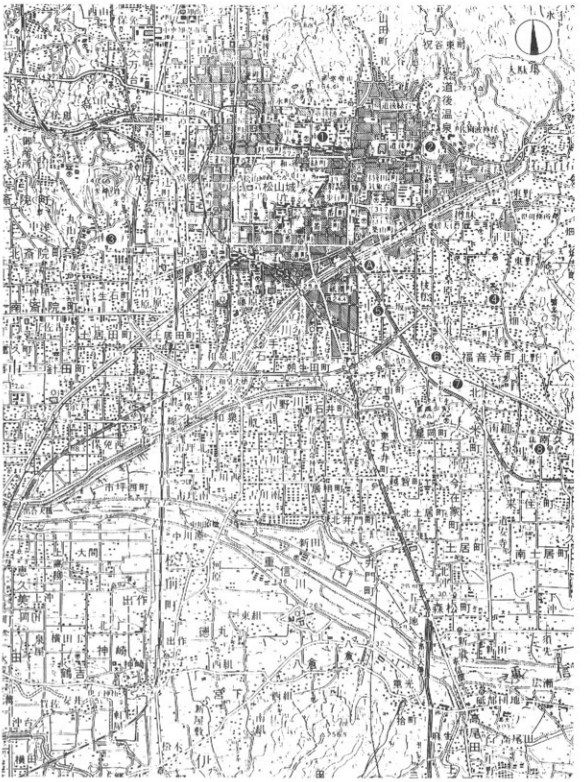
よって、文化教育課は申請地における埋蔵文化財の有無と、遺跡の範囲やその性格を確認するために昭和62年度に立会調査を実施した。調査の結果、当該地に遺跡が存在していることが明らかになった。この結果を受け、宅地開発に伴って消失する遺跡に対して記録保存を行うため、文化教育課は申請者の協力のもと、昭和62年３月～５月の間に本格的な発掘調査を実施した。調査は、中村町における古墳時代集落の構造解明を主目的としたものである。

（2）調査組織

調査地　松山市中村１丁目65－２
遺跡名　中村松出遺跡
調査期間　昭和62年３月11日～昭和62年５月３日
調査面積　1,400㎡
調査協力　池川安氏、関谷光博氏、㈱不動産センター
調査担当　西尾幸則（現、松山市教育委員会文化教育課）
　　池田　学（平成５年　退職）

（3）刊行組織〔平成９年３月　現在〕

松山市教育委員会	教育長	池田　尚郷
生涯教育部	部長	三好　俊彦
	次長	丹下　正勝
文化教育課	課長	松平　泰定
㈶松山市生涯学習振興財団	理事長	田中　誠一
	事務局長	池田　秀雄
	事務局次長	丹下　正勝
埋蔵文化財センター	所長	河口　雄三
	次長	田所　延行
	調査係長	田城　武志
	調査主任	栗田　正芳（文化教育課職員）
	担当	梅木　謙一



❹中村松田遺跡　❶文京遺跡　❷湯築城遺跡　❸古照遺跡　❹三島神社古墳　❺釜ノ口遺跡７次
❻筋違Ｈ遺跡　❼福音小構内遺跡　❽来住廃寺

第1図　松山平野の主要遺跡分布図（S=1:50,000）

2．環　境

松山平野は、瀬戸内海に大きくつきだした高縄半島の西のつけ根にある。平野の規模は、西部瀬戸内地方では最も広い面積をほこる。平野は、重信川や石手川をはじめとする大小河川の堆積作用によってできた扇状地と沖積地からなる。海岸線は15㎞、海岸から重信川扇状部までは21㎞、面積は概ね320㎢である。海岸までは7.5㎞である。

中村松田遺跡は、平野の北東部にあり、石手川扇状地の扇端部に立地する。

周辺には、弥生時代から古代の集落が展開している。以下、周辺遺跡について時代をおって記述する（第２図）。

先土器～縄文時代

近年、石手川南岸地域には、ＡＴ火山灰の堆積が確認されている。特に、束本遺跡４次調査では、ＡＴ火山灰の１次堆積層を検出し、考古学に限らず地理学的研究にとっても大きな成果を得ている。ただし、束本遺跡ではＡＴ火山灰に関連する遺物の出土はみなかった。

遺物では、釜ノ口遺跡より、有舌尖頭器１点が出土している。

この時代の遺構や遺物は少ないが、束本遺跡一帯の調査は注目されるところである。

弥生時代

中村松田遺跡の南500ｍには、平野を代表する弥生時代遺跡の釜ノ口遺跡がある。釜ノ口遺跡は現在までに８次の調査が実施され、後期の集落遺跡であることが分かっている。８回の調査で検出した遺構には、竪穴式住居址12棟、土坑６基、溝７条がある。竪穴式住居址は、主柱の基部が遺存するものが多くみられ、このうちには縦板をもつものもある。土坑には、松山平野では数少ない貯蔵穴と比定できるものがあり、土坑中からは種子や木製品が伴出している。

また、４次調査では多量の土器が出土し、弥生土器の編年的研究には重要な資料である。

古墳時代

中村松田遺跡の東方約200ｍには素鵞小学校遺跡がある。５～６世紀を主体とする遺跡で、竪穴式住居址１棟と掘立柱建物９棟が検出されている。竪穴式住居址からは、土師器と須恵器が出土し、特に須恵器では非陶邑系のものがあり注目される。

さて、中村町から小坂町（釜ノ口遺跡）の一帯は、古墳時代は集落地帯である。一帯には墳墓はなく、候補地としては東方の束野や畑寺、もしくは南方の天山・東山が墓域としてあげられる。

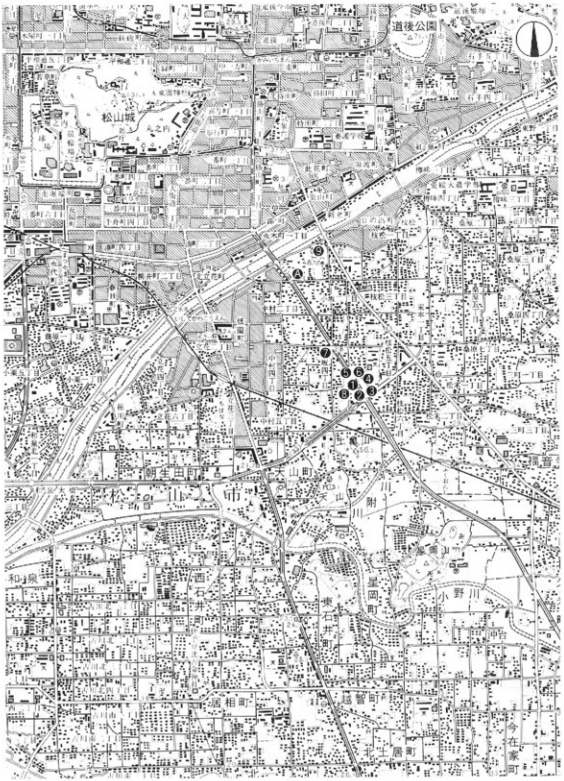
〔文献〕

高尾和長 編　1996 『束本遺跡４次調査・枝松遺跡４次調査』　松山市教育委員会、財松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター

森　光晴・長井数秋ほか　1973 『釜ノ口遺跡調査報告書』　松山市教育委員会

松山市　1987 「釜ノ口遺跡 第４～５次」「素鵞小学校遺跡」『松山市史料集』

森　光晴　1986 「小坂釜ノ口遺跡 第２～５次」『愛媛県史 資料編 考古』　愛媛県



Ⓐ中村松田遺跡　❶釜ノ口遺跡1次　❷釜ノ口遺跡2次　❸釜ノ口遺跡3次　❹釜ノ口遺跡4次　❺釜ノ口遺跡5次
❻釜ノ口遺跡6次　❼釜ノ口遺跡7次　❽釜ノ口遺跡8次　❾素鷺小学校構内遺跡

第2図　調査地周辺の遺跡分布図（S=1:25,000）

第Ⅱ章　遺構と遺物

1．土　層（第4図）

調査地は、石手川扇状地の端部にあり、標高28.2～28.6m（地表面）に立地する。

調査は、廃土置き場と安全管理のために北と南に分けて行い、北をA区、南をB区と呼称した。

基本層位は、第Ⅰ層表土、第Ⅱ層明褐色土、第Ⅲ層黒褐色土、第Ⅳ層地山である。

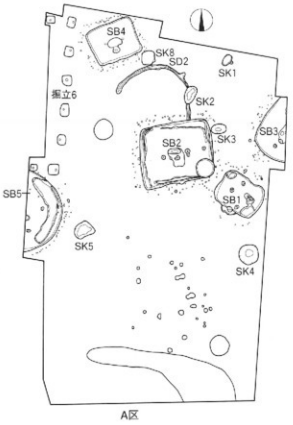
第Ⅰ層は、コンクリートの造成土と近現代の耕作土で、堆積は10～20cmである。第Ⅱ層と第Ⅲ層は白色微砂を含み、第Ⅱ層は18～40cm、第Ⅲ層は30～44cmの堆積となる。

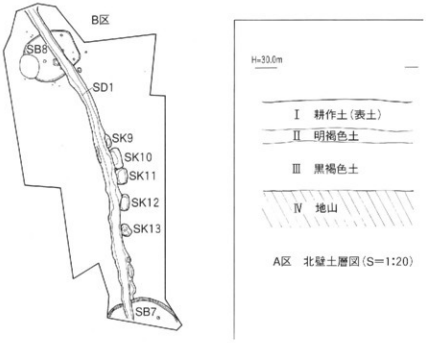
遺物は第Ⅲ層から8世紀代の須恵器が出土している。

第Ⅳ層上面で検出した遺構には、竪穴式住居址7棟、掘立柱建物址1棟、土坑13基、溝2条がある（第4図）。遺構の時期は、奈良時代と考えられる掘立柱建物以外は、全て弥生時代後期に比定される。

遺物には、弥生土器・石器、古代の須恵器・土師器、中～近世の土師器・陶器・貿易陶磁器がある。

第3図　調査地位置図（S=1:2,000）





第4図 遺構配置図・土層図

2．弥生時代

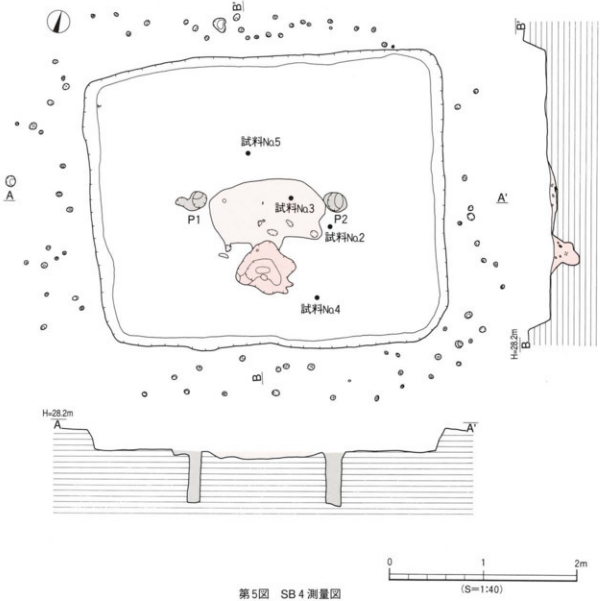
弥生時代の遺構には、竪穴式住居址７棟、土坑11基、溝２条がある。

（1）竪穴式住居址

ＳＢ４（第５図、図版２・３）

Ａ区の北西隅にある。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺3.90×短辺3.73ｍ、深さ24㎝、面積14.55㎡である。屋内施設には、炉と主柱穴がある。

主柱穴は２本で、炉を挟むようにある。Ｐ１は柱穴径18～20㎝、柱痕径15～17㎝、深さ57㎝、Ｐ２は柱穴径20～27㎝、柱痕径15～20㎝、深さ55㎝で、２基の規模は酷似する。炉は、中央部から南の範囲にある。中央には、隅丸長方形を呈した凹地があり、規模は長辺120㎝、短辺65㎝、深さ６㎝で、炭が検出された。一方、南側にあるものは二段に掘られ、平面形態は隅丸三角形



第5図　SB４測量図

を呈する。規模は長辺65cm、短辺55cm、深さ33cmである。南部分は北より深い掘り方となっている。住居の周囲には、径6～10cm、深さ2～10cmの小穴が多数みられる。

遺物は検出面から床面付近まで土器・礫・石器が混在して多量に出土した。特別なものでは、鳥形土製品がある。土器・石器は完形品が稀薄で、大型の破片が主体となる。

出土遺物（第6～19図、図版9～13）

弥生土器は、甕形土器66点、壺形土器67点、鉢形土器17点、高坏形土器17点、器台形土器5点、支脚形土器2点、土製品4点が出土している。

甕形土器（第6～8図、図版9）

甕形土器には、法量に大・中・小の三つがある。

大型品（1～3）　口径が20cmを越えるものである。

1は胴部が長く、器高が高いものである。ゆるやかに外反する口縁部をもつ。胴部は胴中位やや上が張る。2・3は、器高値が口径値をわずかに凌ぎ、肩部が張るものである。

中型品（4～17）　口径が16～20cm未満のものである。

4～6は、胴部の中位に最大径をもつものである。口縁部の外反はゆるやかで、内面に明瞭な稜はつかない。7～10は、肩部が張るもので、口縁部の外反は直線的で内面に稜をもつ。11～17は、肩部が著しく張るもので、口縁部は湾曲して外反し、内面に明瞭な稜をもつものが多い。

小型品（18～23）　口径が12～16cm未満のものである。

18～20は肩部の張りが弱いもので、21～23は肩部がやや張るものである。

底部（24～30）　24～26は大型品、27・28は中型品、29・30は小型品である。立ち上がりは直立ぎみで、上げ底を呈するものが主体である。法量が小さいほど、くびれの上げ底が多い。

異形品（31）　31は口径が27.2cmで、ゆるやかに外反する口縁部をもつ。口縁部外面は、わずかに厚く、指頭痕をもつ。

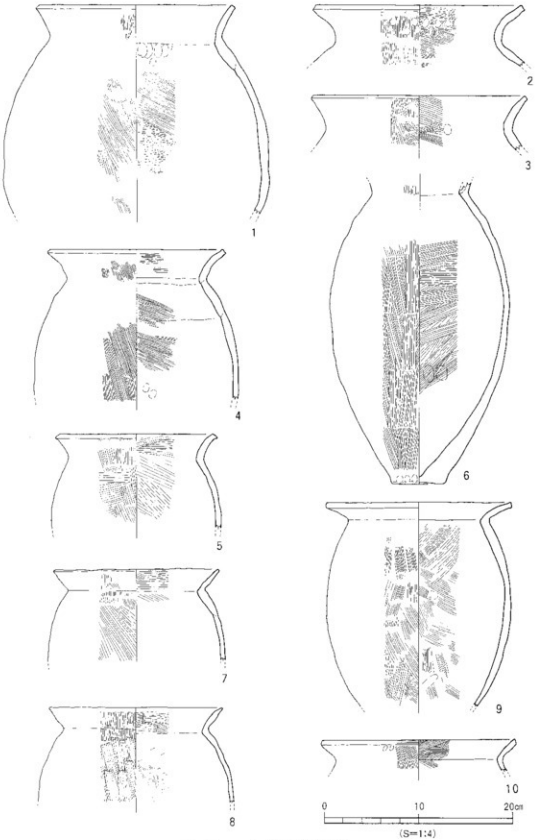
壺形土器（第9～14図、図版10・11）

壺形土器には、複合口縁壺と複合口縁でない単純な口縁をもつ壺（以下「単純口縁ないし単純口縁壺」と略記する）に大別される。

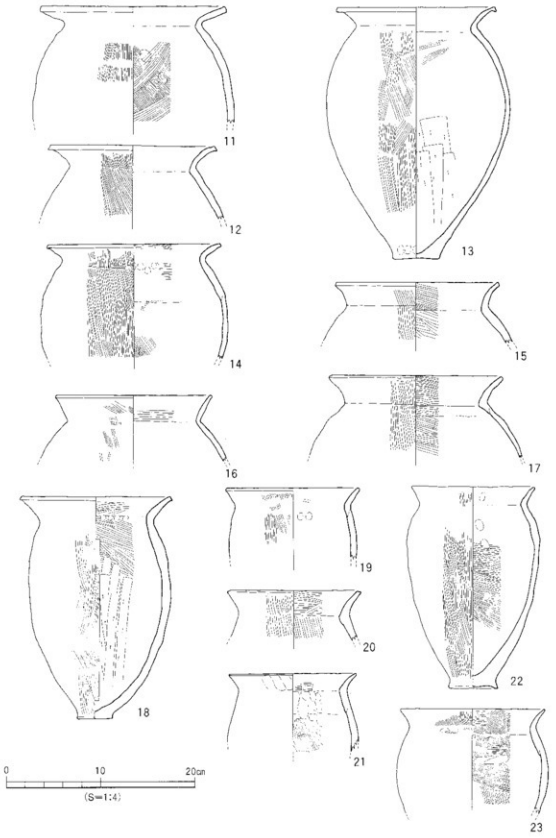
1）複合口縁壺（32～47）　器高が50cm以上になる大型品とそれ以下の中・小型品がある。

大型品（32～36）　32は複合口縁の接合部を欠くもので、ほぼ完形品となる。胴部は肩部が強く張り、頸部は直立し、口縁部は短く外反した後に内傾する複合口縁となる。底部は中央部がやや薄く平底となる。頸部には斜格子目文入りの凸帯をもち、口縁部には櫛描き波状文を施す。胴部は幅広の粗いヘラ磨きがされる。33は直立する長い頸部に、複合口縁接合部が大きく突出するものである。口縁部には櫛描き直線文と波状文をもつ。34～36は口縁接合部が「く」の字状を呈するものである。34は外傾外反する長い頸部をもつものである。口縁部には文様がない。35は外傾外反する頸部をもつものである。口縁部は無文で頸部下端には刻目凸帯をもつ。36は複合口縁部片で、内傾後大きく外反する口縁部となる。やや異形である。

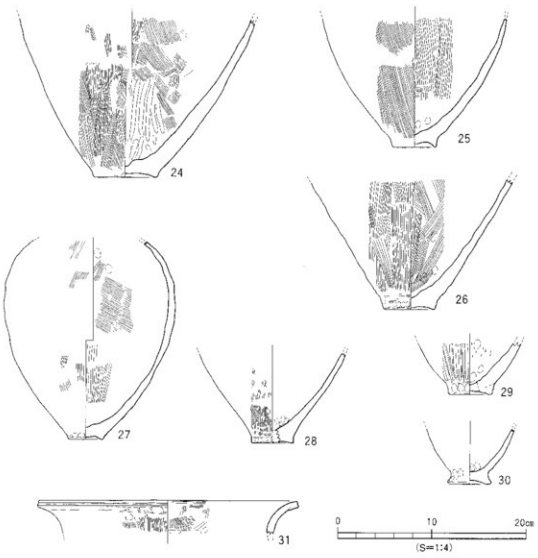
中型品（37～44・47）　37～40はやや法量が大きいもので、直立ないし外傾する長い頸部をもつものである。38は口縁端部が外傾して立ち上がっている。37～40の複合口縁接合部は「く」の字状を呈し、口縁部には文様を施さない。42は復元完形品である。胴部は肩部が強く張り、



第6図　SB 4 出土遺物実測図 (1)



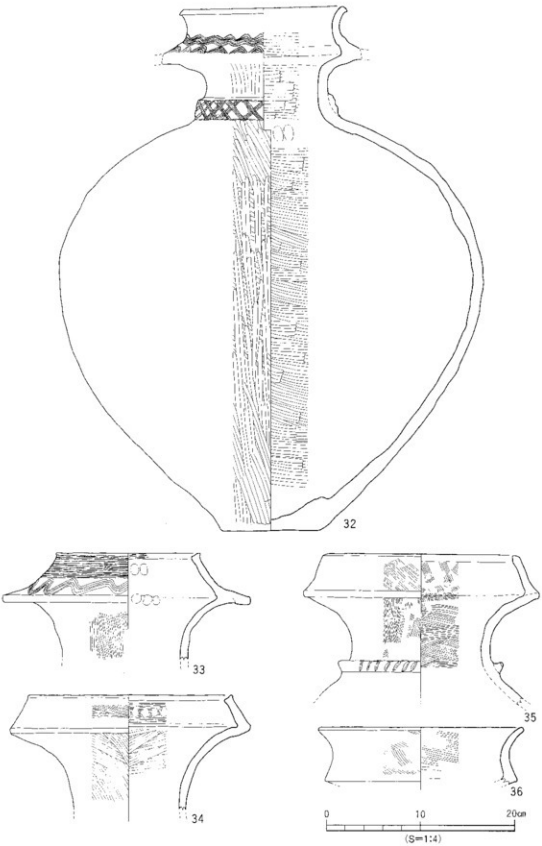
第7図　SB4出土遺物実測図(2)



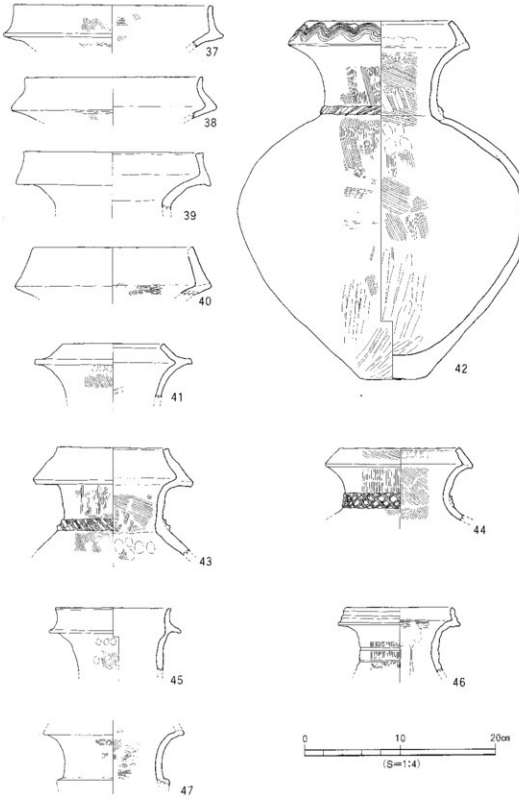
第8図　SB４出土遺物実測図（3）

頸部は長く外傾・外反する。底部は厚く曖昧な立ち上がりをもつ平底である。複合口縁の接合部は「く」の字状を呈し、口縁部には櫛描き波状文をもつ。頸部下端には刻目凸帯がめぐる。41～44はやや小型品で、41は外傾する長い頸部。43・44は外傾～外反する頸部をもつ。複合口縁の接合部は41が大きく突出し、43・44は「く」の字状を呈する。また、43・44は頸部に斜格子目文入りの凸帯をめぐらしている。47は複合口縁部が剥落したものである。直立～外反する頸部には、下端に三角凸帯をめぐらす。

小型品（45・46）　45は直立する長い頸部をもつ。複合口縁の接合部は大きく突出し、やや下方におく。複合口縁部は内傾後外傾して立ち上がる。口縁部は無文。46は内傾後外反して立ち上がる頸部をもつ。口縁部は「く」の字状に立ち上がり、口縁部には沈線文を施す。頸部にも沈線を２条めぐらす。胎土・焼成が他の土器と異なるものである。



第9図　SB４出土遺物実測図（4）



第10図　SB４出土遺物実測図（5）

2）単純口縁壺（48～61）　頸部には長さに二種がある。

①頸部は短く屈曲し、上外方に外反する口縁部をもつものである（48～51）。

48は小型品で、肩部に張りをもつ。49～51は肩部の張りが弱く、胴部中位やや上に最大径をもつ。

②口頸部が①より長いものである（52～57）。

52～55は直立する頸部に、外傾する口縁部をもつ。56・57は口縁部が大きく外反する。50は口縁端部にナデ凹みをもつ。

③著しく長い頸部をもつものである（58～61）。

58は口縁部外面に2条の沈線をもつ。59・60は復元完形品である。59は頸部下端に刺突文をもつ。

頸部～底部（62～88）

胴部片（62～68）　62～66は単純口縁である。頸部は長く、胴部最大径は肩部にあるもの（62～64）と胴中位付近にある（65・66）がみられる。67は複合口縁壺である。68は類例がなく、口頸部の形状は確定できない。

頸部片（69～81）　頸部には著しく長いもの69～72と、直立ないし外傾するやや長い頸部をもつもの73・74がある。頸部に凸帯をもつものは複合口縁壺になる。75～80は頸部下端の小片である。75～79は頸部に刻目凸帯、80は木口押圧による無軸羽状文を施している。81は頸部から胴上半部の破片である。断面三角形の凸帯と櫛描き波状文をもつ。形態・文様とも在地の土器にみない形状である。

底部片（82～86）　82～84は大型品である。傾斜する曖昧な立ち上がりをもつ。85・86は中型品である。85は胴部下半に膨らみをもつ。

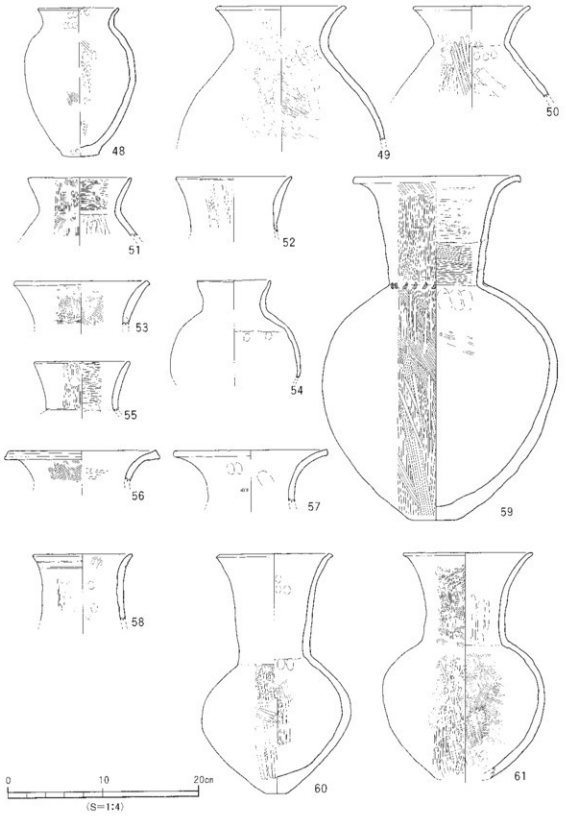
その他（87～89）　87は2条1組の沈線（焼成前）が弧を描いている。88は肩部にヘラによる木葉文状の沈線（焼成前）がある。89は肩部に凸帯と小さい浮文を多数もつ。

鉢形土器（第15図、図版12）

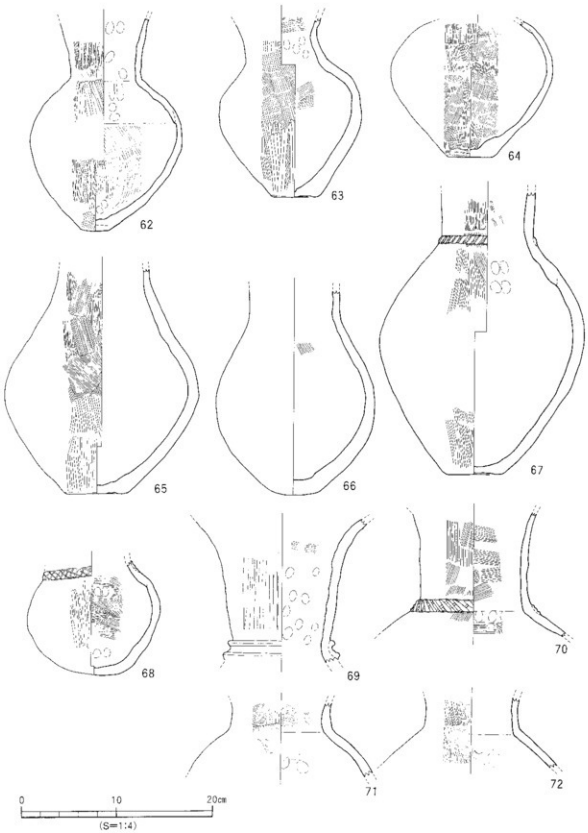
90・91は大型品である。90は復元完形品で、「く」の字状口縁と立ち上がりのある上げ底部をもつ。92～96は口縁部が外反する中・小型品である。95は頸部がしまり、口縁部が大きく外反する。97～99は直口口縁をもつものである。底部は上げ底と丸みをもつ平底がある。100～102は底部片である。103～106は脚台付鉢で、106の裾部には円孔が施されている。

高坏形土器（第16図、図版12）

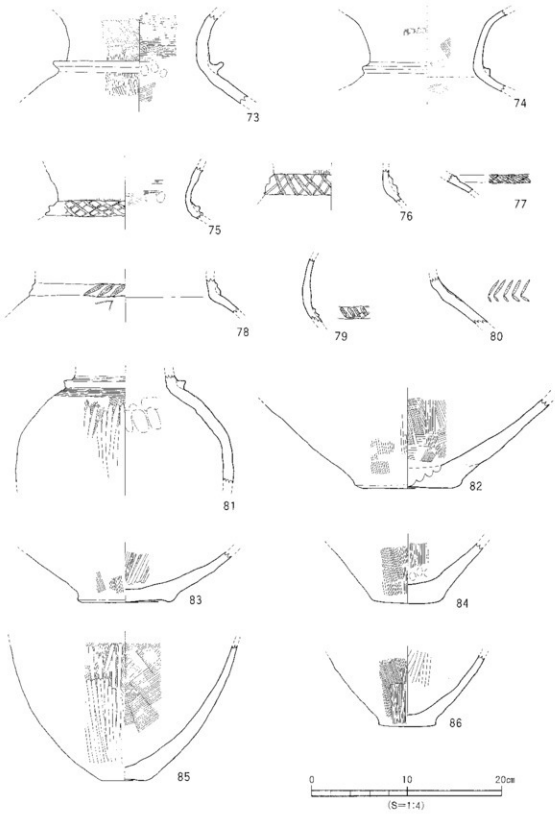
107～118は、中・大型品である。107は口縁端部を欠くもので、坏口縁部はゆるやかに大きく開く。脚部は長く、柱裾部境には円孔を施す。108～110は坏部片で、坏底部と坏口縁部との境は稜をもつ。111～118は脚部で、柱下部から裾部に円孔を施している。119～124は小型品である。119は復元完形品で、坏部は大きく外反する口縁部をもつ。脚部には円孔を2段もつ。120・122・123は脚部に円孔をもつ。124は復元完形品で、坏口縁部は短く、わずかに外反する。脚部は「ハ」の字状に単純に開くものである。



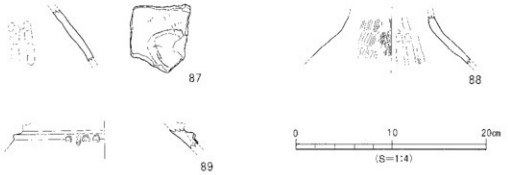
第11図　SB 4 出土遺物実測図 (6)



第12図　SB 4 出土遺物実測図 (7)



第13図　SB４出土遺物実測図（8）



第14図　SB 4 出土遺物実測図 (9)

器台形土器（第17図、図版12）

①柱部が長く円筒状を呈するものである（125～130）。

125・126は受部片で、口縁端部は垂下する。端面には、125は波状文、126は沈線文を施す。127～129は柱部及び脚部片である。柱部には円孔を多段に施す。130は器壁が薄く、丁寧な作りである。口縁端部は上下に拡張し、端面には棒状浮文２ヶ１組を６ヶ所（推定）に配す。柱部には円孔を施す。

②口径値と器壁値の差が少ないもので、①に比べ器高が低いものである（131～133）。

器壁が厚く、柱部には多数の円孔をもつ。法量差がみられる。

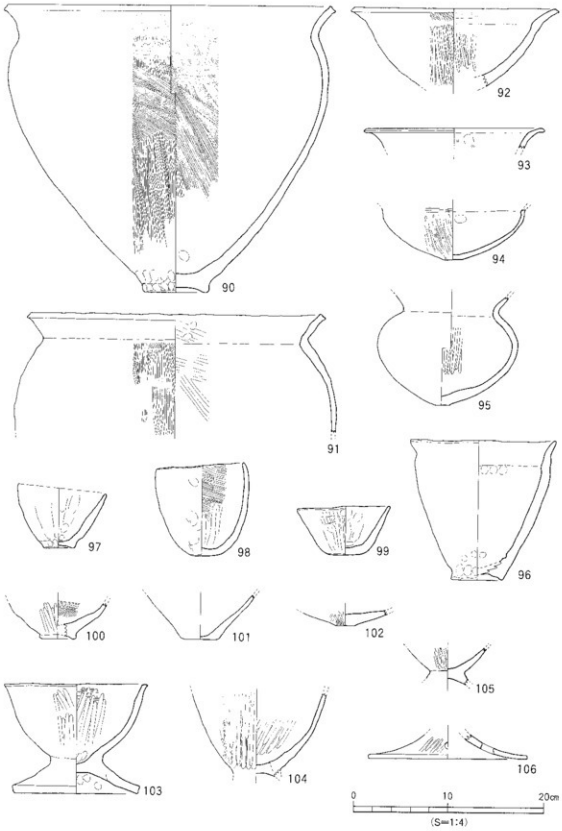
③異形品（134）柱部は内傾し、器壁が薄いものである。円孔はない。

支脚形土器（第18図）

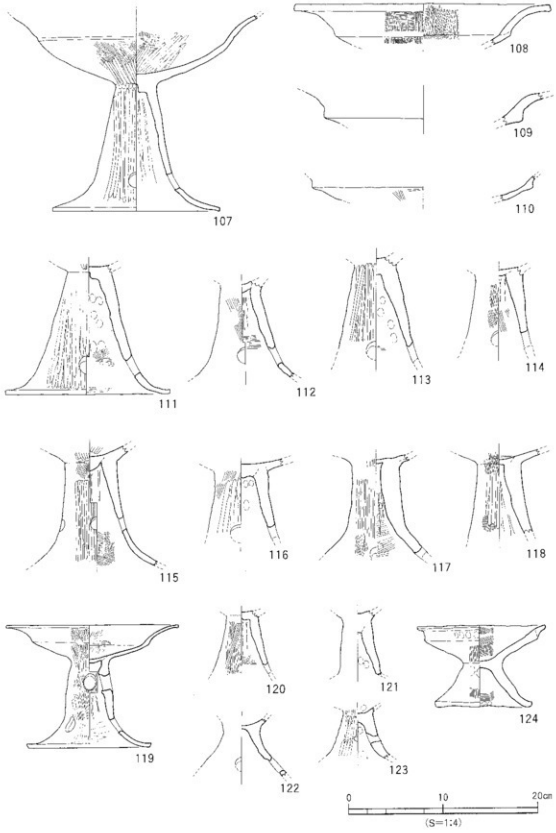
135・136は、受部の一部が「U」字状に傾斜するものである。器壁は厚く、作りは粗雑である。

土製品（第18図、図版13）

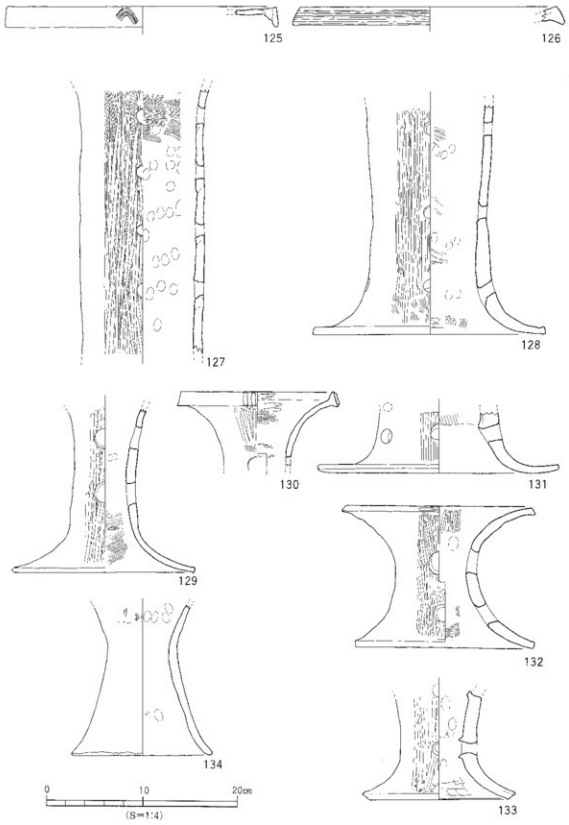
138・140はミニチュア品である。137は壺形土器、138は小型の鉢形土器、140は無頸壺に似た形状を呈する。139は鳥形ないしは袋状土製品と呼ばれるものである。上部には外反する大きな口をもつ。また、反対部分には現状で小さい穴があいているが、欠損しているため、当初より「冂」として作られていたのかは判断しがたい。胴部は中空で、逆三角形を呈し、膨らみをもつ。底部はくびれ底となり、わずかに上げ底を呈する。上部には粘土接合痕が顕著に認められる。



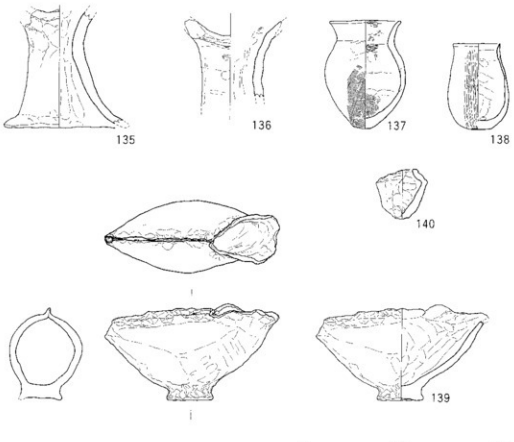
第15図　SB 4 出土遺物実測図 (10)



第16図　SB 4 出土遺物実測図 (11)



第17図　SB 4 出土遺物実測図 (12)



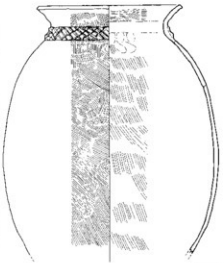
第18図　SB４出土遺物実測図(13)

石器（第19図、図版13）

石器は、出土量が少ない。製品及び未製品が５点である。

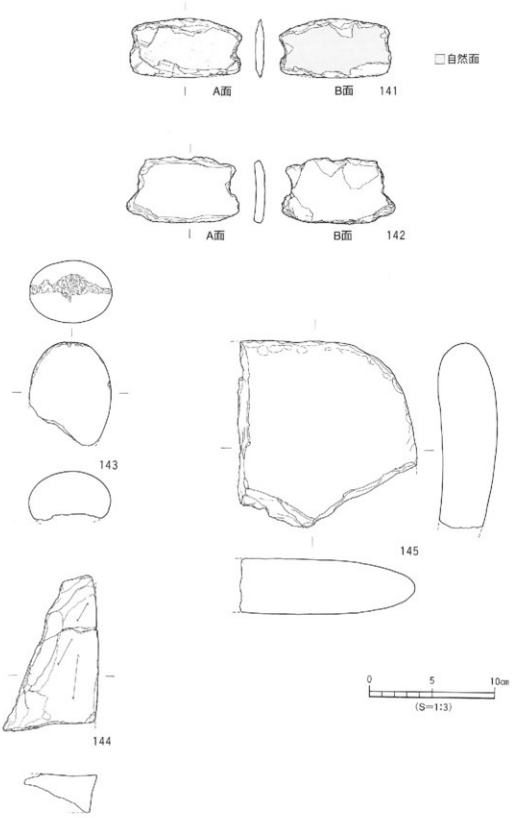
141・142は石庖丁の未製品である。141はＡ面が研磨、Ｂ面は粗い研磨をするが自然面を残すものとなっている。刃部は研磨するが、仕上げるまでにはいたらない。両側には抉りがみられる。石材は、結晶片岩である。142はＡ・Ｂ面とも研磨するが、Ｂ面は粗いものである。刃部はつくりだしていない。両側には抉りがあるが、仕上げるにはいたらない。石材は結晶片岩である。

143は敲打具で、３分の１を欠損する。部分的に使用痕がみられる。石質は砂岩である。144は砥石で、砥面は3面にみられる。145は作業台で、わずかに凹面をもつ。石材は砂岩である。



(追加資料)壺形土器…頸部に斜格子目の細目凸帯をもつ。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後葉に比定する。



第19図　SB４出土遺物実測図（14）

ＳＢ１（第20図、図版３・４）

Ａ区の東中央部にある。平面形態は隅丸長方形で、規模は長軸3.60ｍ、短軸2.79ｍ、深さ13㎝、面積10.04㎡である。主柱穴は２本で、東側の主柱Ｐ２には支柱が伴う。主柱Ｐ１は上場36㎝、下場30～32㎝、深さ56㎝である。主柱Ｐ２は上場25㎝、下場19㎝、深さ40㎝、支柱Ｐ３は上場28㎝、下場15㎝、深さ17㎝である。

床面には、円形及び不定形な掘り方が７基ある。Ｋ１とＫ４は壁沿いにあるもので、Ｋ１の規模は56×74㎝、深さ７㎝、Ｋ４は82×115㎝、深さ６㎝である。Ｋ３は、支柱Ｐ３を囲むようにあり、規模は57×65㎝、深さ３㎝を測る。Ｋ２・Ｋ５は壁体に近い位置にあり、Ｋ２は上場径30㎝、下場径24㎝、深さ８㎝、Ｋ５は40×30㎝、深さ７㎝を測る。また、南壁には突出部をもつ。規模は長さ116㎝、突出部長42㎝、深さ５㎝である。さらにＫ７を切るようにＫ６があり、規模は径33×35㎝、深さ10㎝を測る。Ｋ７は、深さが10㎝以上と浅いものである。

このほか、住居址の周囲には、径10㎝前後、深さ６～18㎝の小穴が検出された。

住居の埋土は明黒褐色土を主体とし、粘質をもつ土である。

出土物には、土器、礫、木炭、粘土塊がある。土器は、個体の半分以上が残るものは数点で、小片の出土が多い。礫は大きさが10～20㎝大のものが４点ある。木炭は散在し、最長で40㎝大のものが数点みられた。粘土塊は住居の南西隅部にあり、大きさは10～20㎝大のものが４ヶ検出された。

出土遺物（第21図）

甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、器台形土器がある。

甕形土器は146～150である。146・147は「く」の字状の口縁部をもつもので、146は肩部の張りが弱く、147は肩部が強く張る。148～150は底部で、曖昧な立ち上がりをもつ上げ底を呈する。

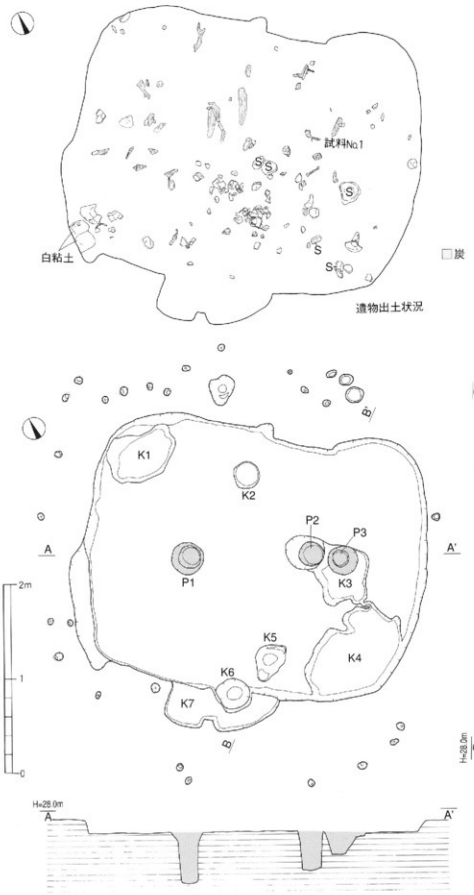
壺形土器は151～159である。151・152は複合口縁壺である。複合口縁部には文様を施さない。153・154は外反する口頸部をもつのである。155～157は複合口縁壺の頸部で、155は「ノ」の字状の刻目凸帯、156・157は斜格子目の刻目凸帯をもつ。158・159は底部で、曖昧な立ち上がりをもつ平底である。

鉢形土器は160・161である。160は復元完形品で、外反する口縁部に、小さく突出する平底の底部をもつ。161は脚付鉢である。脚部に円孔をもつ。

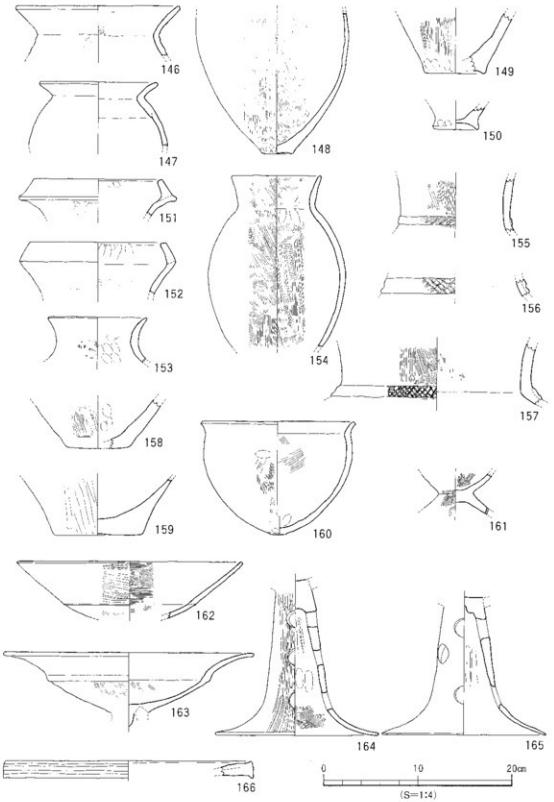
高坏は162～165である。162は口縁部が直線的に開く。163は口縁部が大きく外反する。164・165は脚部で、円孔が二段あり、164は円孔がタテ一列に配され、165は交互に施される。

器台形土器は166である。口縁端部はやや拡張され、２条の沈線をもつ。

時期：出土遺物の特徴より、弥生時代後期後葉に比定する。



第20図　SB 1 測量図・遺物出土状況



第21図　SB１出土遺物実測図

ＳＢ２（第22・23図、図版４）

Ａ区の中央北にあり、近現代の遺構に切られる。平面形態は長方形で、拡張されている。規模は拡張前が4.90×3.85ｍ、拡張後が5.79×4.77ｍである。床面は、拡張前後では深さに違いがない。主柱は２基で、西側主柱のＰ１は継続、東側主柱はＰ２からＰ３へ移動する。Ｐ１は掘り方径36㎝、柱痕径16㎝、深さ30㎝である。Ｐ２は掘り方径28㎝、柱痕径22㎝、深さ31㎝、Ｐ３は柱穴径34㎝、柱痕径22㎝、深さ45㎝である。

炉は中央にあり、炉堤を構築している。北にあるＫ１には、北と西に幅５㎝、高さ５㎝の土堤がある。Ｋ１は隅丸長方形を呈し、規模は100×40㎝、深さ５㎝である。断面形態は擂鉢状を呈し、炭が検出された。南のＫ２には、北に幅７～20㎝、高さ５㎝の「Ｕ」字状の土堤をもつ。Ｋ２は隅丸三角形状を呈し、規模は50～34㎝、深さ10㎝を測る。Ｋ２の南には楕円形状に65×36㎝、深さ1.1㎝の焼土（赤褐色）の分布がみられる。

壁沿いには、拡張後に築造された壁体溝が北を除く三方にある。

このほか、床面には北壁中央に、径30㎝の円形の凹みがみられ、西壁体の外側には径22×17㎝、深さ33㎝の柱穴がある。さらに住居壁体の外側には径８～16㎝、深さ２～10㎝の小穴が多数ある。

住居からは、土器・石器・礫が散在して出土した。土器には、弥生土器の小片と上層からの混入物としての古代～中世の土師器と須恵器がある。礫は、角礫で10㎝大のものが30点あまりある。

出土遺物（第22図）

甕形土器、壺形土器、鉢形土器、器台形土器、ミニチュア品、石器が出土している。

甕形土器は167～173である。167～171は「く」の字状の口縁部を呈する。169は、口縁部から胴上半部に叩き痕を明瞭に残している。172・173は底部片でくびれの上げ底を呈している。

壺形土器は174・175である。174は細長頸壺で、頸部に細沈線文をもつ。175は底部で、丸みのある平底を呈する。

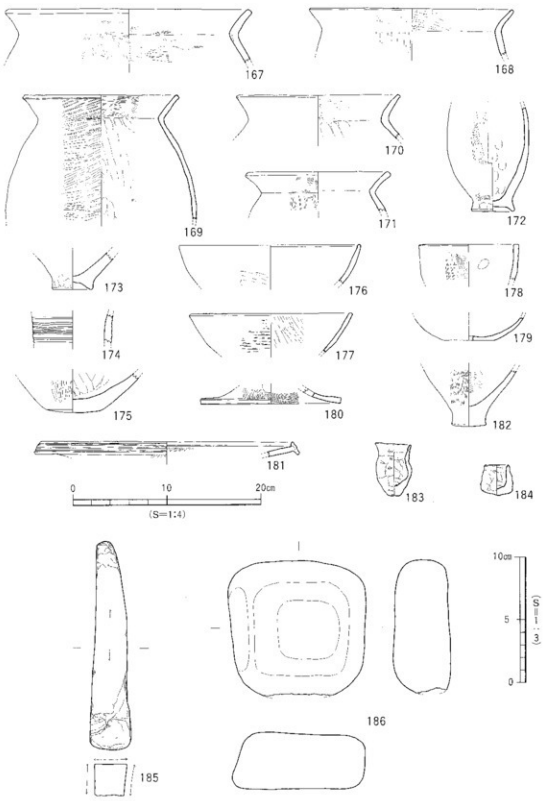
鉢形土器は176～180である。176～178は直口口縁となる。180は脚付鉢で、裾部に円孔をもつ。

器台形土器は181である。181は口縁端部を拡張し、端面には３条の沈線をもつ。

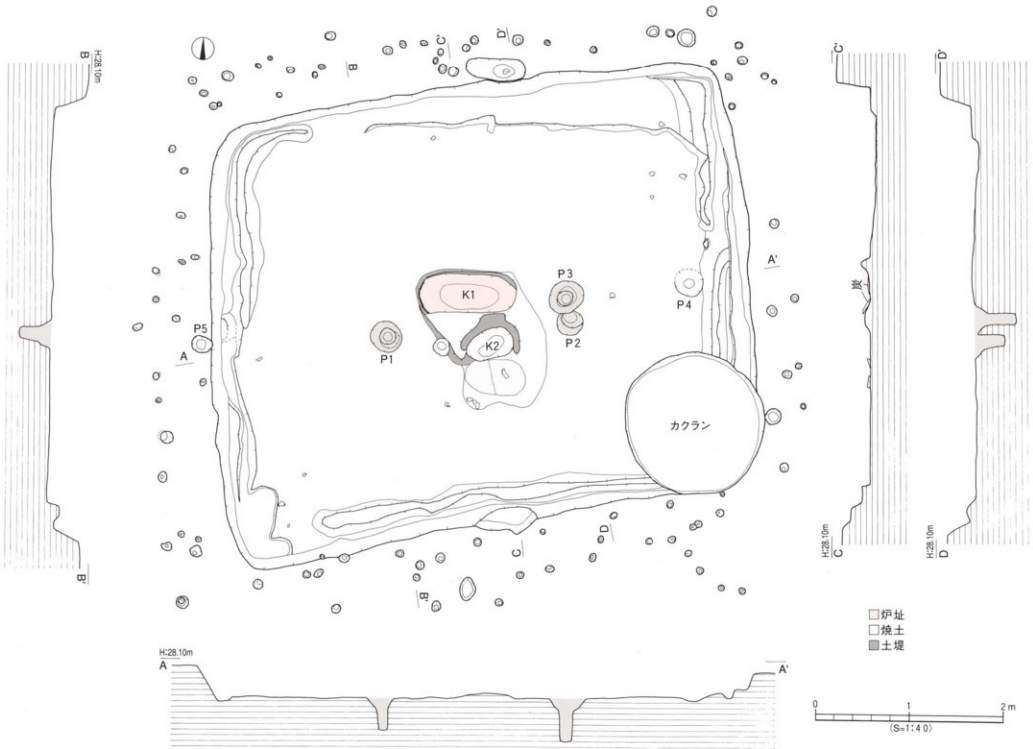
182～184は土製品で、182は鉢形土器の底部とも考えられるが断定できない。183・184はミニチュア品で、183は口縁部が外反し、184は直口口縁となる。

石器は185・186の２点である。185は砥石で、砥面が３面ある。重さは243.9ｇである。186は擦り石で、重さ984ｇである。

時期：出土遺物より、弥生時代終末期に比定する。



第22図　SB２出土遺物実測図



第23図　SB２測量図

ＳＢ３（第24図、図版５）

Ａ区の東北部にある。住居址の東半分は調査区外につづく。平面形態は隅丸長方形を呈し、規模は3.98×2.85m、深さ13cm、推定面積11.34㎡である。

室内施設には炉、主柱穴などがある。炉は中央にあり、平面形態は隅丸長方形状を呈している。規模は、検出値で長辺110cm以上、短辺48cm、深さ３cmである。南西部は１段低くなる。炉の南には浅い凹地があり、径30cm、深さ13cmの柱穴Ｐ２がある。

主柱穴は、２本と推定される。西側の主柱穴Ｐ１は、径30cm、深さ25cmを測る。

このほか、住居址の北東隅には、不整形な高まり部分をもつ。高さは３～４cmと、あまり高くない。高まり部分には小穴が２基ある。Ｐ３は径10cm、深さ３cm、Ｐ４は径20cm、深さ４cmを測る。住居址の周囲には径８～14cm、深さ３～10cmの小穴がある。このうち、住居址南西隅の外30cmには、径27cm、深さ37cmの柱穴Ｐ５が検出されている。

住居の埋土は、茶褐色～黒褐色の粘質土で、白色微砂を含んでいる。また、床面近くには、部分的に黒色粘質土がみられる。

出土物には、土器・石器・礫がある。土器は破片が多く、礫は角礫が数点出土している。

出土遺物（第25図）

甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、支脚形土器、土製品、石器が出土している。

甕形土器は194である。194は胴下半部～底部の破片で、底部は平底となる。

壺形土器は187～193である。187は複合口縁壺で複合口縁部には文様を施さない。188は口縁端部が垂下し、端面には櫛描き波状文をもつ。189は細長頸壺で、頸部には細沈線をもつ。190は複合口縁壺の頸部で、頸部下端に「ノ」の字状の刻目凸帯をもつ。191～193は底部で、193は明瞭な立ち上がりをもつ。

鉢形土器は195～199である。195～197は口縁部が外反し、198は直口口縁となる。198には叩き痕が残る。199は脚付鉢で、裾部に円孔をもつ。

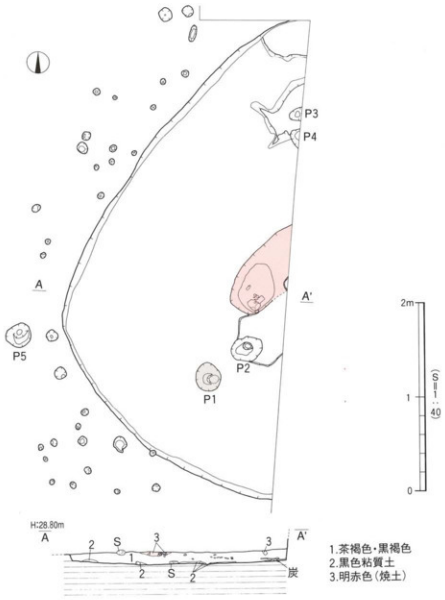
高坏形土器は200で、屈曲部は段となり、口縁部は大きく開く。

支脚形土器は201で、受部は一部が傾斜する。

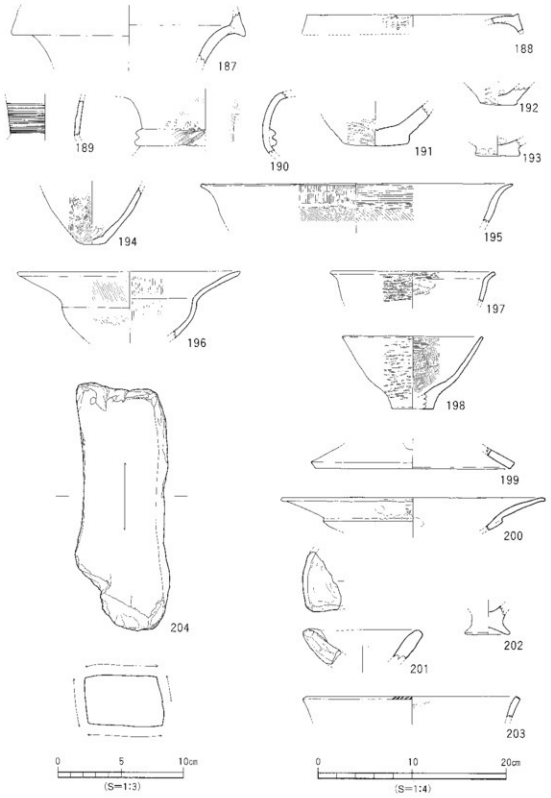
土製品には202・203がある。202は台付の底部をもつもので、203は口縁端部に刻目をもつ。両者とも器形は不明である。

石器は204である。204は砥石で、砥面が４面あり、重さは1,190ｇである。

時期：出土遺物より、弥生時代終末期に比定する。



第24図　SB 3 測量図



第25図　SB 3 出土遺物実測図

ＳＢ５（第26図、図版５・６）

Ａ区の西壁中央にある。住居址の西半分は、調査区外へ続く。平面形態は円形で、規模は検出値で南北6.49ｍ、東西2.67ｍ、深さ33㎝、なお、推定直径は6.5ｍ、推定面積は34.19㎡である。

室内施設には主柱穴、帯状の浅い掘り込み、円形掘り込みをもつ。主柱穴はＰ１・２・３と考えられ、Ｐ１は径32㎝、深さ20㎝、Ｐ２は径22～28㎝、深さ30㎝、Ｐ３は径10㎝、深さ40㎝である。Ｐ２からは10㎝大の礫が１点検出された。壁体沿いには、幅１ｍ、長さ5.8ｍ、深さ12～13㎝の浅い帯状の掘りこみがある。掘りこみの埋土には茶褐色シルトと、黒褐色と茶褐色のシルトが混合する土が検出されている。また、住居址の中央付近には、径45㎝、深さ15㎝の円形の掘り込みがある。

住居址の周囲には、径５～15㎝、深さ６～17㎝の小穴が多数みられる。

住居の埋土は、黒褐色シルトに白色微砂を含む土が主体を占め、床面付近には黒褐色と茶褐色の混合土が少量みられる。浅い掘り込みを埋めた埋土とは異なるものである。

出土物には、土器と礫があり、土器には大きな破片が３点、礫には10㎝大の角礫が数点ある。

出土遺物（第27図）

甕形土器、壺形土器、高坏形土器、器台形土器、土製品が出土している。

甕形土器は205～210である。205～208は「く」の字状の口縁部をもつ中型品である。205・206は肩部の張りが弱く、207は頸部が締まり、肩部が強く張る。208は叩き痕が明瞭に残る。209・210は平底の底部片で、209は叩き痕が残る。

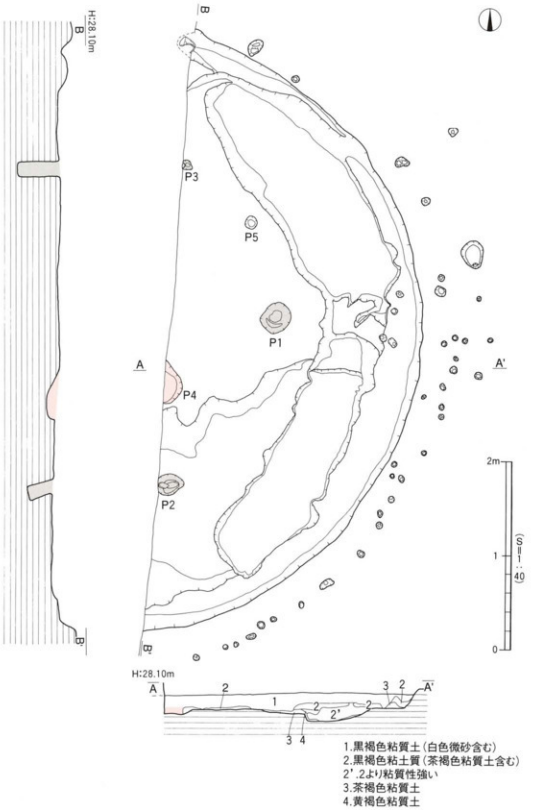
壺形土器は211～216である。211は複合口縁壺で、複合口縁部は内傾後外反し無文となる。212はゆるやかに外反する口縁部をもつものである。口頸部境には沈線をもつ。213は長頸壺で、頸部下端に沈線文をもつ。214～216は底部で、214は胴下半がふくらみ上げ底、215は胴下半が直線的に立ち上がり、平底、216は胴下半に張りをもたず小さく突出する平底となる。

高坏形土器は217～219である。217は坏部で、屈曲部は稜をもち、大きく外反する口縁部となる。218・219は脚部で、裾部はゆるやかに開き、219は脚端部はやや幅広の面となる。

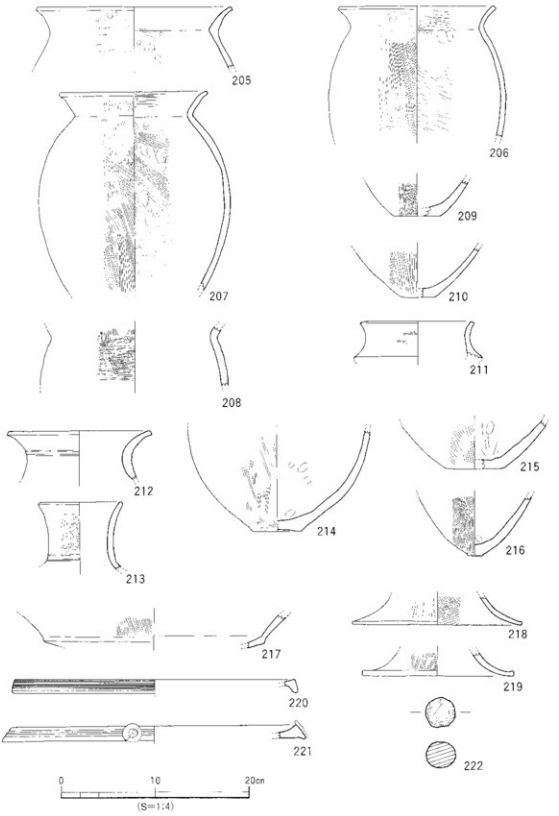
器台形土器は220・221である。220は口縁端部が垂下し、端面には細沈線文をもつ。221は口縁端部が上下に拡張され、端面には竹管文入りの円形浮文と沈線文をもつ。

土製品には222の土玉が１点ある。中実で、直径2.7㎝である。

時期：出土遺物より、弥生時代終末期に比定する。


H:28.10m
B
B'
P3
P5
P1
A
A'
P4
P2
2m
1
0
S=1/40
H:28.10m
A
A'
1
2
2'
3
4
1.黒褐色粘質土(白色微砂含む)
2.黒褐色粘土質(茶褐色粘質土含む)
2'.2より粘質性強い
3.茶褐色粘質土
4.黄褐色粘質土

第26図　SB 5 測量図



第27図　SB５出土遺物実測図

ＳＢ７（第28図、図版６）

Ｂ区の南端にある。住居址の南半部は調査区外へ続き、さらにＳＤ１により一部を切られる。平面形態は円形で、検出長は東西5.60ｍ、南北1.96ｍ、深さ20㎝を測る。なお、推定直径は6.7ｍ、推定面積は35.23㎡となる。室内施設には、主柱穴と壁体溝を検出している。主柱穴Ｐ１は径25㎝、深さ60㎝、Ｐ２は径26㎝、深さ61㎝である。周壁溝は、幅17～29㎝、深さ２～４㎝である。出土物は土器が出土している。

出土遺物（第29図）

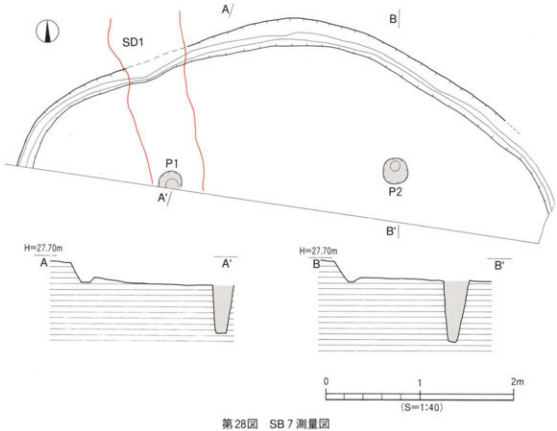
甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器が出土している。

甕形土器は223～225である。223は「く」の字状の口縁部を呈するものである。224・225は底部で、224は平底、225は上げ底となる。壺形土器は226～229である。226・227は複合口縁壺で、複合口縁部は無文である。228は胴部中位に張りもつ。229は底部で平底となる。鉢形土器は230で、口縁部は短く外反する。高坏形土器は231・232である。231は坏部で、口縁部は短く外反する。232は脚部で脚端部には面をもち、裾部には円孔が施されている。

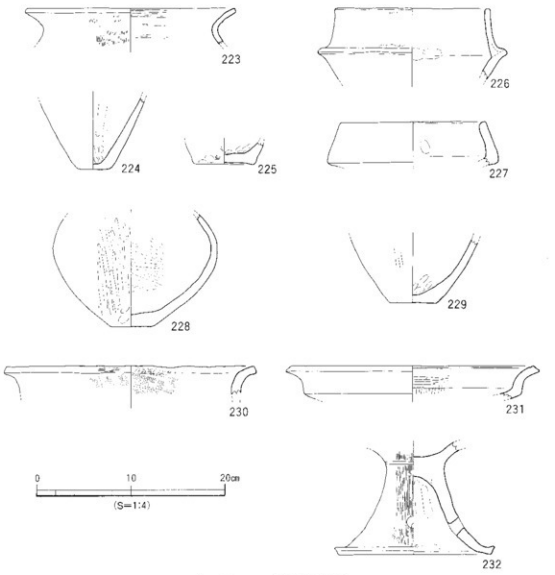
時期：出土遺物より、弥生時代後期後葉に比定する。

ＳＢ８（第30図、図版７）

Ｂ区の北端にある。近現代坑とＳＤ１に切られる。平面形態は隅丸長方形で、規模は長辺4.10ｍ、短辺3.6ｍ、深さ10㎝、面積13.19㎡である。室内施設には、主柱穴、炉、壁体溝、浅



第28図　SB７測量図



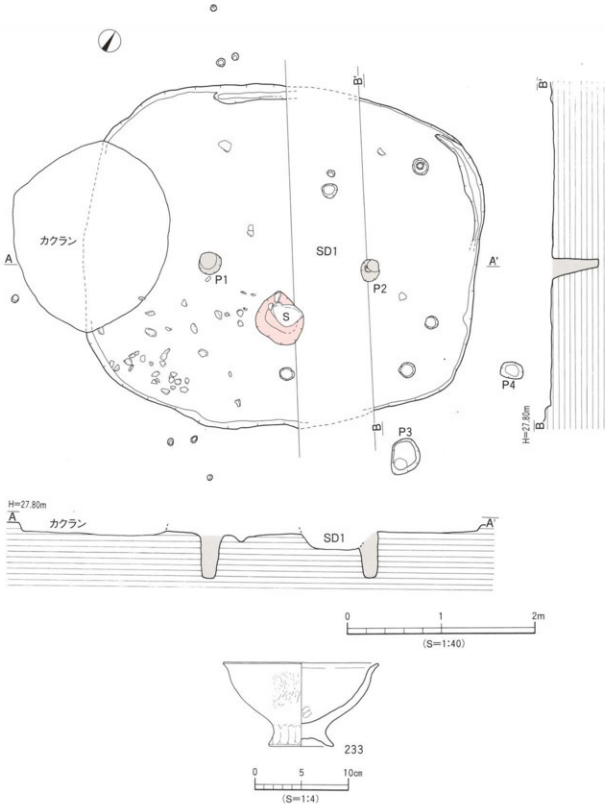
第29図　SB７出土遺物実測図

い掘り込みをもつ。主柱穴は、Ｐ１は径20～24㎝、深さ45㎝、Ｐ２は径24㎝、深さ49㎝である。炉は、楕円形状を呈し、長辺56㎝、短辺44㎝、深さ５㎝である。炉内からは、25×30㎝大の角礫、５×８㎝大の小礫、土器片が出土した。壁体溝は、幅７～12㎝、深さ１～３㎝である。床面には、円形の浅い掘り込みが６基ある。平面形態は円形で、径は７～19㎝、深さは３～５㎝である。住居の周囲には８基の小穴がある。南東部にあるＰ３（径30～40㎝、深さ11㎝）以外は、掘り込みは径10㎝、深さ２～９㎝と浅いものである。遺物は南西部で土器片が散在している。土器には復元完形の鉢形土器１点がある。

出土遺物（第30図）

実測可能な遺物は１点で、鉢形土器の復元完形品がある。233は鉢形土器で、底部は大きく、くびれの上げ底となる。口縁部はゆるやかに外反する。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後葉に比定する。



第30図　SB 8 測量図・出土遺物実測図

（2）土　坑

ＳＫ１（第31図）

Ａ区の北東部にあり、柱穴に切られている。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長軸0.97ｍ、短軸0.60ｍ、深さ19㎝である。埋土は黒褐色シルトである。

出土物は土器片が少量ある。234は鉢形土器で、直口口縁となる。235・236は脚部片で、235は裾部が直線的に開き、236は脚裾部がゆるやかに外反するものである。235は脚付鉢になると考えられるが、236は器形が想定できない。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後半と比定する。

ＳＫ２（第31図）

Ａ区の北部にあり、ＳＤ２をきる。平面形態は楕円形を呈し、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長軸1.2ｍ、短軸0.72ｍ、深さ46㎝である。埋土は暗茶褐色シルトである。出土物はない。

時期：形状・規模・埋土は他の土坑と大差ないことより、弥生時代後期後葉に比定しておく。

ＳＫ３（第31図）

Ａ区の中央やや北にある。平面形態は楕円形を呈し、東部がやや広くなる。断面形態は逆台形状を呈する。規模は長軸1.46ｍ、短軸0.74ｍ、深さ15㎝である。埋土は黒色シルトである。

出土物は、土器片が少量ある。237は小型の細長頸壺である。口縁部はわずかに外傾し、端部は丸みをもつ。238は高坏形土器の口縁部片である。端部は上下にわずかに拡張する。口縁端部を拡張する特徴より、裾部が２段になる装飾性の強い高坏形土器と思われる。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後半に比定する。

ＳＫ４（第32図）

Ａ区の東部にある。平面形態は円形である。規模は直径1.49～1.54ｍ、深さ1.15ｍである。出土物は、土坑の下部から10数個体分の土器片が出土した。

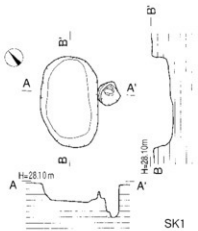
出土遺物には、甕形土器、壺形土器、高坏形土器がある。

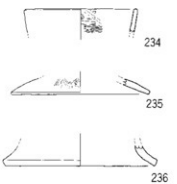
甕形土器は239～243である。239～242の口縁部は「く」の字状を呈し、239・240は肩部の張りが弱く、241は肩部が強く張るものである。243の底部は平底となる。

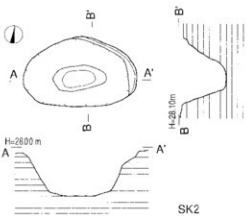
壺形土器は244～247である。244は複合口縁壺で、複合口縁部には文様はない。245は外反する口縁部をもつものである。口縁端部は面をもつ。246・247は底部で、平底を呈す。

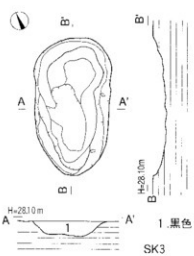
高坏形土器は248～252である。248・249は円筒状の柱部に、ゆるやかに開く裾部をもつものである。柱部には円孔をもつ。また、248～250は坏底部が充塡技法となる。251・252は脚裾部片である。251は直線的に開く裾部をもつ。252は裾部が２段になるもので、上・下段には円孔をもつ。

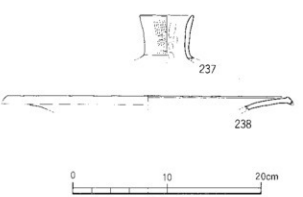
時期：出土遺物より、弥生時代後期後葉から終末期に比定する。



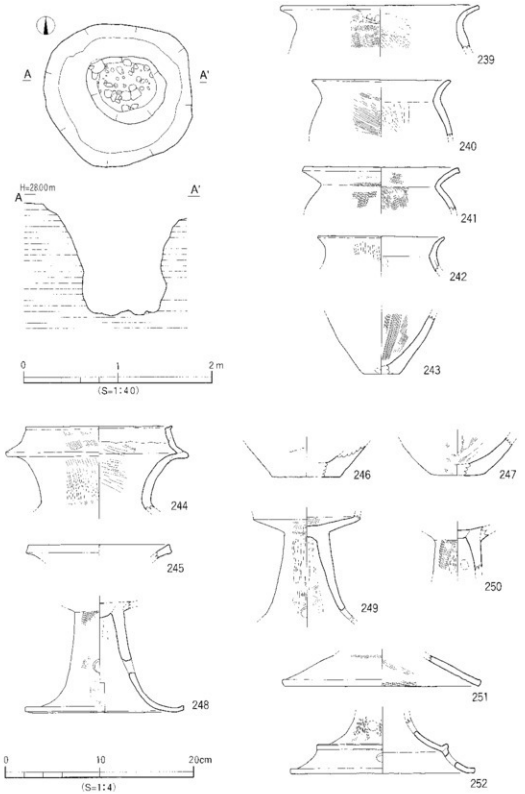








第31図　SK1・2・3 測量図・出土遺物実測図



第32図　SK 4 測量図・出土遺物実測図

ＳＫ５（第33・34図）

Ａ区の中央部、やや西にある。平面形態は楕円形状を呈し、断面形態は逆台形状を呈する。床面には小さい穴が１ヶある。規模は長軸1.62ｍ、短軸1.23ｍ、深さ19㎝である。出土物は、約20個体分の土器片と石器が数点出土している。

出土遺物には、甕形土器、壺形土器、鉢形土器、高坏形土器、器台形土器、支脚形土器、石器がある。253～256は甕形土器である。253は頸部のしまりが強い。254は叩き痕が残る。256は底部で、平底となる。257～264は壺形土器である。257～260は大型品、261・262は中型品の底部である。263は甕形土器の可能性もある。264は頸部片で、頸部下端には羽状文状の刻目凸帯をもつ。265・266は鉢形土器で、265は直口口縁に、平底の底部をもつ。266は立ち上がりをもつ上げ底となる。267は高坏形土器で、裾部が２段になるものである。268は器台形土器で、柱部には沈線文と円孔をもつ。269～271は支脚形土器である。271は受部が一部「Ｕ」の字状に傾斜するものである。272・273は石器である。272は敲石で、片面に凹みをもつ。重さは480ｇである。273は砥石で、砥面が４面ある。うち２面には溝がみられる。重さ1,210ｇ。

時期：出土遺物より、弥生時代終末期に比定する。

ＳＫ８（第35図）

Ａ区の北部にある。平面形態は楕円形状で、断面形態は袋状を呈する。規模は、上場では長軸1.15ｍ、短軸0.99ｍ、下場では長軸1.58ｍ、短軸1.12ｍを測る。最も狭い部分では、直径0.90～1.20ｍとなる。深さは53㎝である。出土物は少ない。274は鉢形土器である。口縁部は外反し、端部は面をもつ。このほかに、甕形土器の胴部片に叩き痕がみられるものがある。

時期：出土遺物より、弥生時代終末期に比定する。

ＳＫ９（第35図、図版７）

Ｂ区の中央にあり、ＳＤ１に切られる。平面形態は隅丸方形状で、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長辺0.98ｍ、短辺0.85ｍ、深さ19㎝である。出土物は、土器片が数点ある。

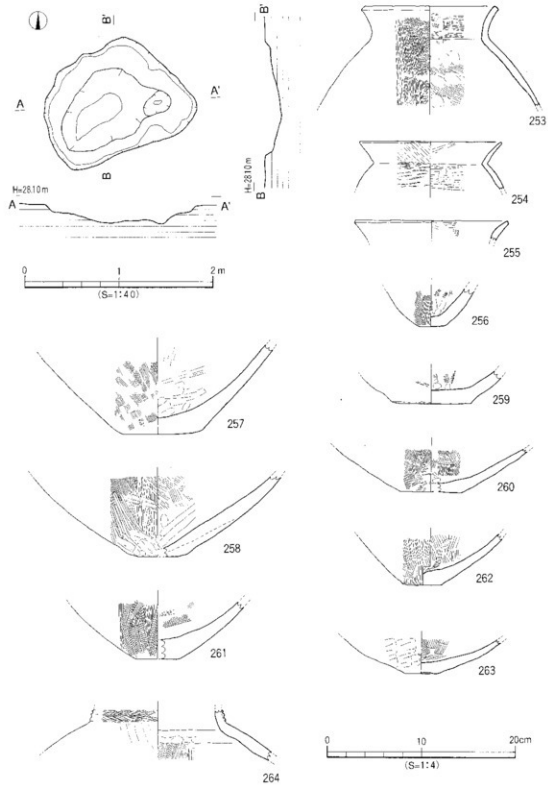
時期：形状・規模が他の土坑と大差ないことより、弥生時代後期後半に比定する。

ＳＫ10（第35図、図版７）

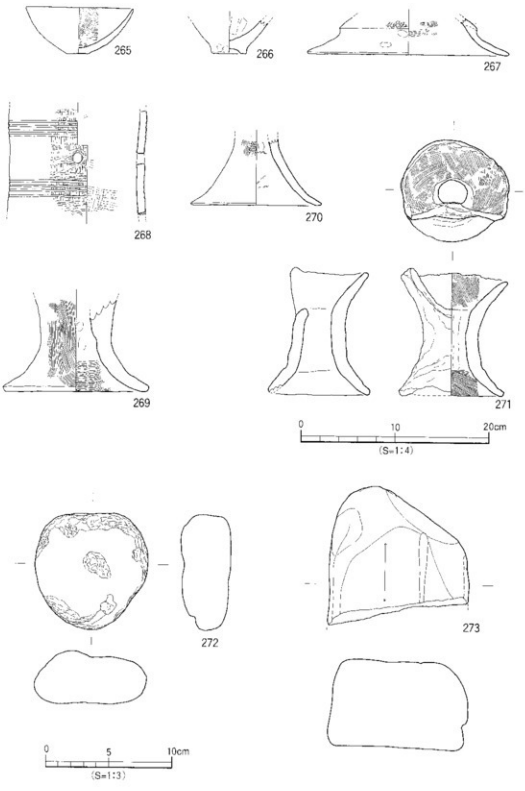
Ｂ区の中央にあり、ＳＤ１に切られる。２つの土坑が切り合っている可能性がある。東にあり古いと考えられるものをＳＫ10ａ、西にあり新しいと考えられるものをＳＫ10ｂとして記述する。ＳＫ10ａは、平面形態は長方形で、断面形態は逆台形状を呈する。規模は長辺1.70ｍ、短辺0.73ｍ、深さ16㎝である。ＳＫ10ｂは、平面形態は長方形で、断面形態は東壁が垂直、西壁が傾斜する不整形状となる。規模は、長辺1.18ｍ、短辺0.62ｍ、深さ29㎝である。土坑内からは角礫が３点出土している。

出土物は図化可能なものが３点あるが、ａ・ｂどちらかのものかは不明である。275は甕形土器の底部、276は壺形土器の底部である。277は高坏形土器の脚部片で、柱部には円孔をもつ。

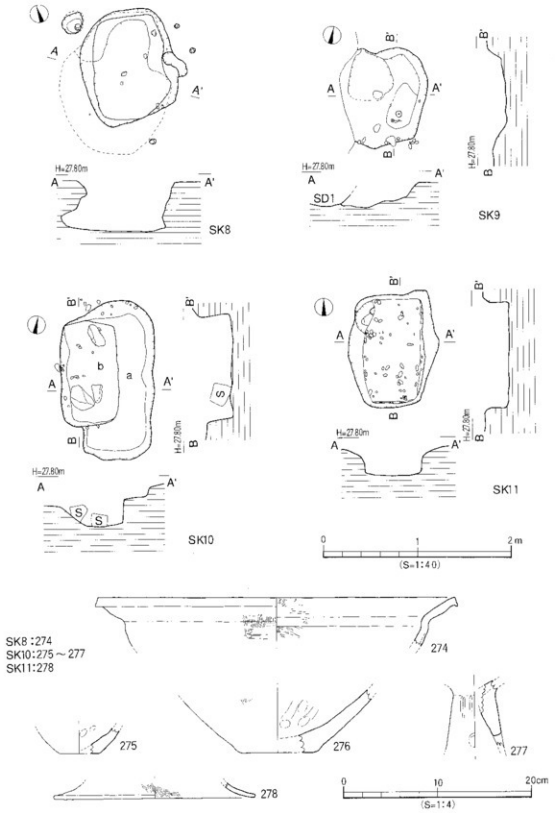
時期：ａ・ｂは切り合い関係にあるが、遺物の出土状況が不確定であり、各々の時期は特定できない。２つに時期差が大きくないと考えなければ、弥生時代後期後半となる。



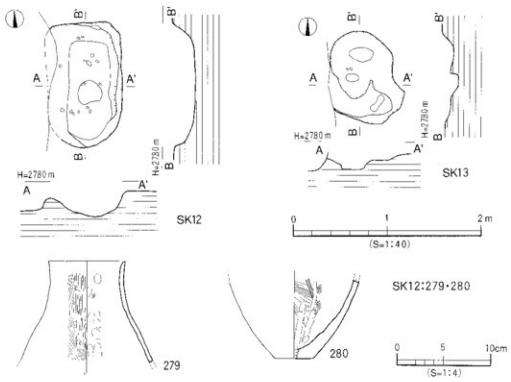
第33図　SK5測量図・出土遺物実測図(1)



第34図　SK５出土遺物実測図（２）



第35図　SK8・9・10・11測量図・出土遺物実測図



第36図　SK12・13 測量図・出土遺物実測図

ＳＫ11（第35図、図版７）

Ｂ区の中央部にあり、ＳＤ１に切られる。平面形態は長方形である。断面は、ゆるやかに傾斜した後、垂直に落ちる。規模は長辺1.19ｍ、短辺0.97ｍ、深さ26㎝である。出土物には土器片がある。278は高坏形土器の脚部片で、ゆるやかに開く裾部をもつ。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後半に比定する。

ＳＫ12（第36図、図版７）

Ｂ区の中央部にあり、ＳＤ１に切られる。平面形態は長方形で、断面形態は不整な逆台形状を呈する。規模は長辺1.33ｍ、短辺0.79ｍ、深さ28㎝である。出土物には土器片がある。279・280は壺形土器である。279は頸部が内傾後直立して立ち上がるもので、口縁部は端部がわずかに外傾する。280は底部で、平底を呈している。

時期：出土遺物より、弥生時代後期後葉に比定する。

ＳＫ13（第36図、図版７）

Ｂ区の中央部やや南にある。ＳＤ１に切られる。平面形態は不整な楕円形状を呈する。断面形態は逆台形状を呈するが、床面中央に円形の掘り込みにより凹んでいる。規模は長軸1.02ｍ、短軸0.70ｍ、深さ19㎝である。中央には径24㎝、深さ８㎝の凹みがある。出土物はない。

時期：ＳＤ１に切られ、他の土坑と形状・規模が大差ないことより、弥生時代後期後葉に比定する。

（3）溝

ＳＤ１（第37図、図版１・８）

Ｂ区にあり、ＳＢ７・８、ＳＫ９～13を切る。規模は、検出長25.5ｍ、幅0.6～1.0ｍ、深さ32㎝を測る。断面形態は、下場が曖昧な逆台形状を呈する。溝内には遺物が多量に出土し、土器や石器の大型破片がある。

出土遺物（第38～44図、図版14）

甕形土器18点、壺形土器21点、鉢形土器10点、高坏形土器４点、器台形土器４点、支脚形土器１点が出土している（支脚形土器以外は口縁部数）。

甕形土器（281～311）法量には、大・中・小型品がある。

大型品は、281～283である。281・282は、器高値が口径値をやや凌ぐもので形状は鉢形土器に似ている。283は頸部が締り著しく長い胴部をもつ。

中型品は、284～294で、口縁部は「く」の字状を呈するものである。284～286は胴部中位のやや上が張り、口縁部は内面に弱い稜をもって外反する。287～292は肩部がやや張り、口縁部は内面に稜をもって外反する。292は肩部上位に「ノ」の字状の押圧文刻をもち、他の出土品とは異なる形状を呈している。293・294は肩部が強く張るものである。

小型品は、295～298である。295・296は胴部の張りが弱く、297・298は肩部から胴部中位がわずかに張るものである。

底部には、上げ底（299～304）と平底（305～309）がある。上げ底には、器壁が著しく厚いもの299・300と底部径が広いもの301～304がある。平底のものは、胴下半部と底部の境は不明瞭となるが、わずかに傾斜する立ち上がりをもっている。

310と311は異形品である。310は口縁部が「く」の字状を呈し、口縁端部がナデ凹んでいる。311は頸部に「ノ」の字状の刻目凸帯をもつものである。出土量は各１点である。

壺形土器（312～351）複合口縁壺（312～328）と単純口縁壺（329～335）に大別できる。

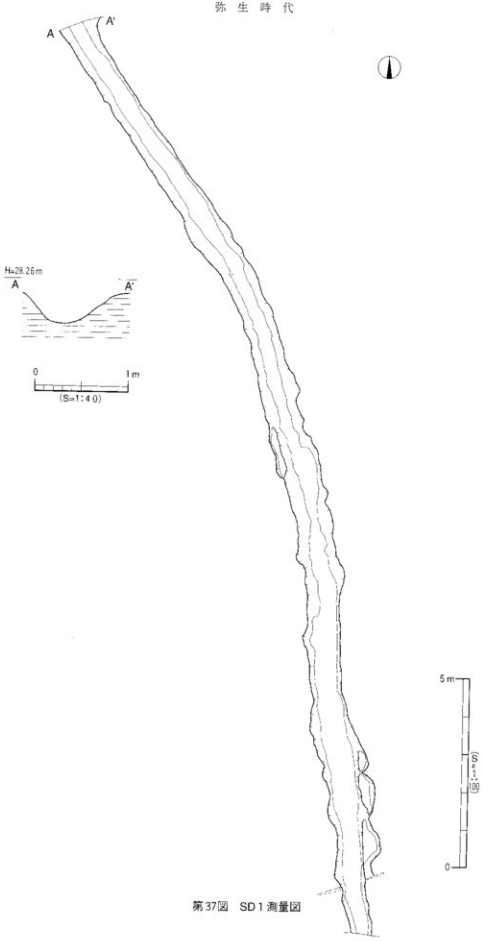
１）複合口縁壺（312～328）312～317は大型品で、312・313は接合部が著しく突出するものである。312には櫛描き直線文と波状文が施されている。315～317は接合部が、「く」の字状を呈するものである。314には櫛描き直線文、317には櫛描き波状文が施されている。

318～324は中～小型品である。接合部は「く」の字状を呈するもので、324は櫛描き波状文をもつ。325～328は複合口縁壺の頸部片である。頸部には貼付凸帯があり、326～328は凸帯上刻目を施している。

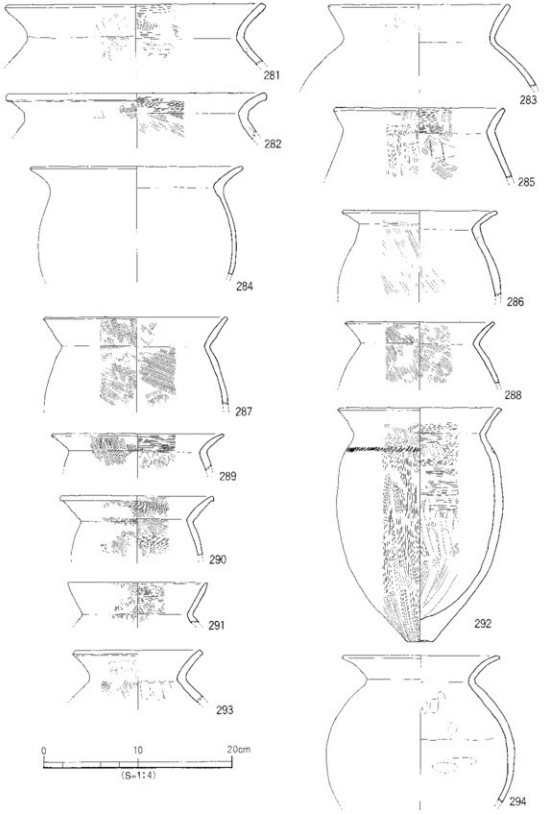
２）単純口縁壺（329～335）329～333の頸部は長く直立ないし外傾し、口縁部は口縁端部がわずかに外反する。

334は口頸部が内湾して立ち上がるもので、335は直立するものである。

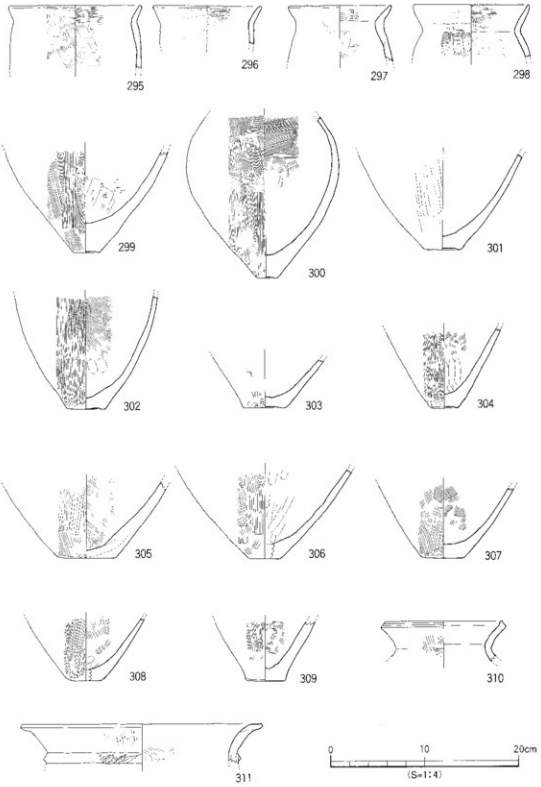
336～341は口縁部及び頸部が欠損するものである。頸部下端から肩部上位には施文をもつものがあり、336は刻目凸帯、337は沈線文と押圧文列、338は刺突文列を施している。339は胴中位が張り、底部が大きく突出している。340は頸胴部境が不明瞭で、肩部が張るものである。341は胴部が扁平球で、底部は小さく突出し平底となる。



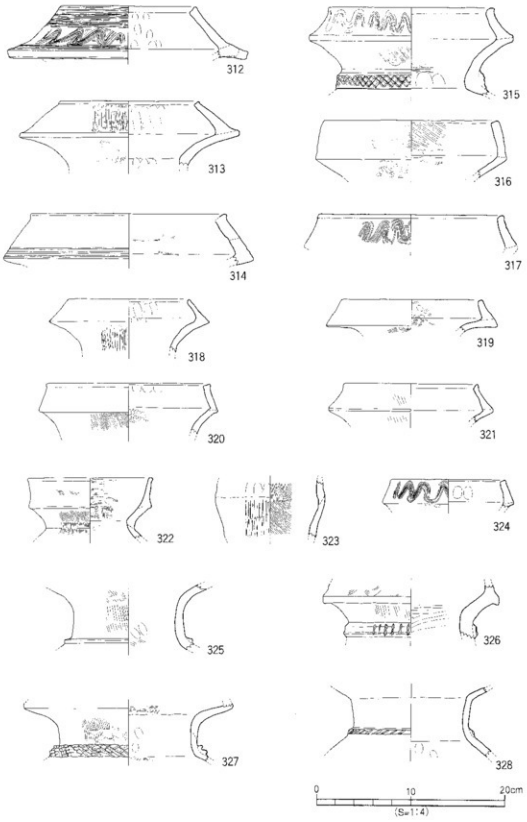
第37図　SD1 測量図



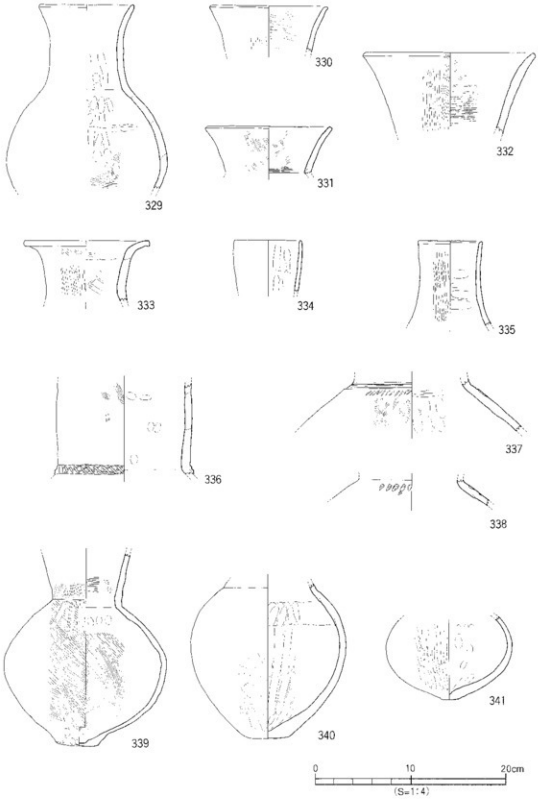
第38図　SD１出土遺物実測図(1)



第39図　SD１出土遺物実測図(2)



第40図　SD１出土遺物実測図(3)



第41図　SD１出土遺物実測図(4)

342～349は底部片である。342～346は大型品で、底部は緩味な立ち上がりをもち、平底となる。ただし、外面中央部がわずかな凹みをもつものもみられる（345・346）。347～349は中・小型品で、底部は平底ないし上げ底となる。

350と351は同一体の可能性があり、さらに形状・胎土が他の土器と異なるものである。350の口縁部には、沈線文と刻目の棒状浮文がみられる。

鉢形土器（352～372）口縁部が外反する（折り曲がる）もの352～359と、直口口縁のもの360・361がある。

口縁部が外反するものは、肩部の張りが弱いもの352～357と、肩部の張りが強いもの358・359がある。直口口縁では、径が広いもの360と、狭いもの361がある。

362～372は鉢形土器の底部片である。362～364はたちあがりが直立し、底径が広いものである。365はたちあがりが緩味で、366～368はくびれる底部となる。

369～372は脚台付の鉢形土器である。372には裾部に有軸羽文充填の三角文が施されている。

高坏形土器（373～382）高坏には脚裾部が単純に開くものと、2段に開くものがある。

373～379は柱部から脚端部までが連続し単純に開く高坏形土器である。373～376は坏部で、ゆるやかに開く口縁部をもつ。屈曲部は稜をもち、段状になるもの（375・376）もみられる。377～379は脚部で、柱部から裾部には円孔を施している。

380～382は柱部がエンタシス状、裾部が2段となる高坏形土器である。380は柱部で、器壁は厚く、柱部中位の膨らみは少ない。381・382は裾部片で、円孔と刻目及び竹管文をもつ。

器台形土器（383～387）383～386は受部片で、383・384は口縁端部が垂下するものである。385は口縁端部には刻目をもつ。387は柱部片で、円孔を3段もつ。

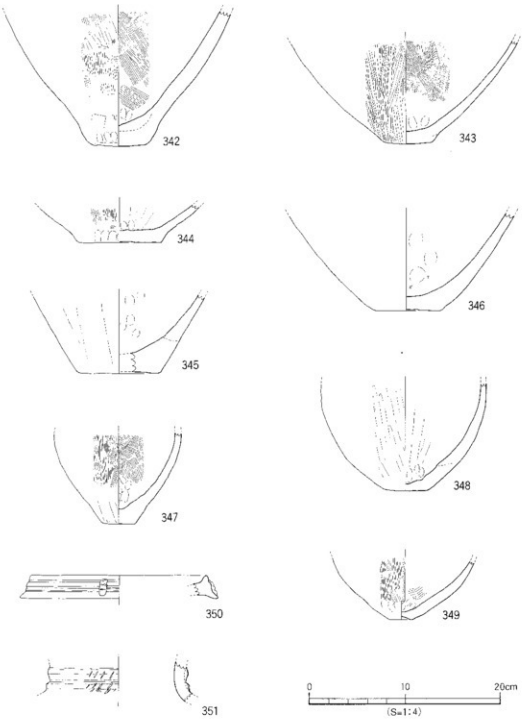
支脚形土器（388）388はゆるやかに開く裾部である。器壁が厚い。

時期：出土遺物の特徴より、弥生時代終末期に比定する。

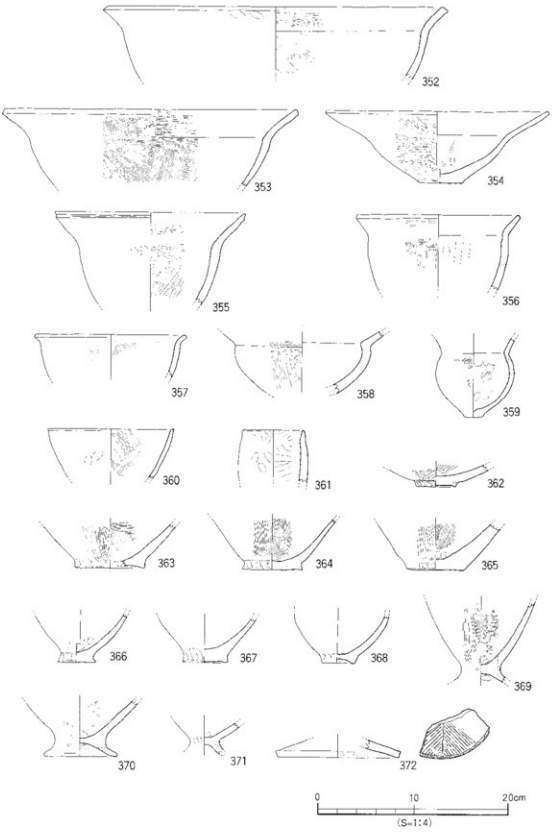
ＳＤ２（第４図、図版８）

Ａ区の北部にあり、ＳＢ２、ＳＫ２に切られる。検出時での平面形態は円形状を呈している。断面形態は逆台形状を呈する。規模は幅0.25～0.31m、深さ４～７cmである。出土物はない。

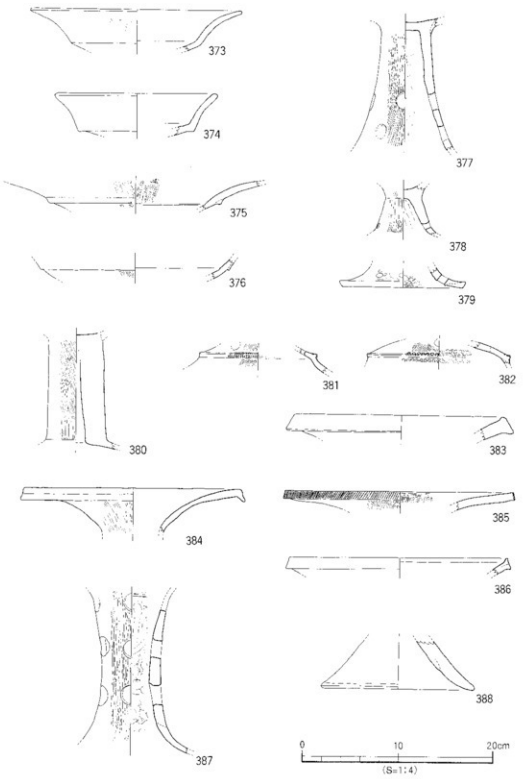
時期：ＳＫ２とＳＢ２に切られることより、弥生時代後期後半以前に比定される。



第42図　SD 1 出土遺物実測図(5)



第43図　SD１出土遺物実測図(6)



第44図　SD１出土遺物実測図(７)

（4）その他の遺物

ここでは、グリット出土品と出土地点が明確でない遺物を掲載する。

1）グリット出土品

遺構の検出作業中や表土の掘削中に出土したもの、廃土から取り上げたものである。

A区出土品（第45図、図版14）

389～393は甕形土器である。このうち出土地点より390はＳＢ５、392はＳＫ５、393はＳＢ２ないしＳＫ５に帰属する可能性をもつ。389は中型品で、肩部が張り、外面上は叩き痕を残す。390は中型品で、肩部が著しく張り、口縁部は短く外反するものである。391・392は小型品で、肩部の張りは弱いものである。胴部外面には叩き痕を残す。393は直立する内湾ぎみの口縁部をもつ。鉢形土器の可能性がある。394・395は壺形土器である。394はＳＢ５ないしＳＫ５、395はＳＢ２・３ないしＳＫ３に帰属するものである。394は細長頸壺の口縁部片である。口縁外面には多条の細沈線文をもつ。395は復元完形品で、口縁部は大きく開き、端部はナデ凹みをもつ。胴部は中位に最大径をもち球形を呈する。底部はやや厚く突出する平底となる。396・397は尖る。397は大型品で、大きく外反する口縁をもつ。口縁端部はナデによる面をもつ。胴部外面には叩き痕が残る。398～401は器台形土器である。398と400はＳＢ２・３ないしＳＫ３に帰属するものである。398～400は口縁端部が垂下し、399は櫛描き波状文と竹管入りの円形浮文をもつ。400は端面に半截竹管文を３段もつ。401は端部が面となり、上面には櫛描き波状文をもつ。402は支脚形土器で、胴部は中空で、受部は傾斜する。

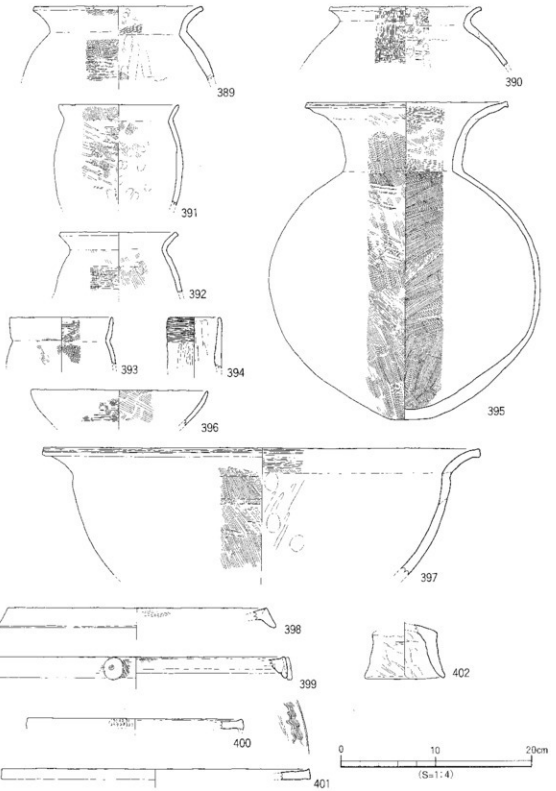
B区出土品（第46図、図版14）

403・404は小型の甕形土器である。403は肩部の張りは弱く、長胴を呈する。底部はやや厚い平底となる。405～407は壺形土器で、406はＳＤ１ないしＳＢ７に帰属するものである。405・406は複合口縁壺で、405は複合口縁部は直立ぎみにたちあがる。406は大型で、波状文状の文様が施される。407は中～大型品の底部片である。408・409は鉢形土器でＳＤ１ないしＳＢ７に帰属するものである。口縁部は外反し、408は中型品、409は小型品である。器壁が薄い。410は高坏形土器の脚部である。柱部は長く、円孔を３段に配す。411は器台形土器で、ＳＢ７ないしＳＤ１に帰属する。口縁端部は垂下し、端面には半截竹管文３段と半截竹管入りの円形浮文をもつ。412は支脚形土器の裾部片である。器壁が厚く、端部は幅広の面となる。413・414は石器で、石鏃丁の未製品である。413の石材は結晶片岩で、重さは36.2ｇ、414の石材は安山岩系で、重さは63.8ｇである。414はＡ面に自然面を残す。

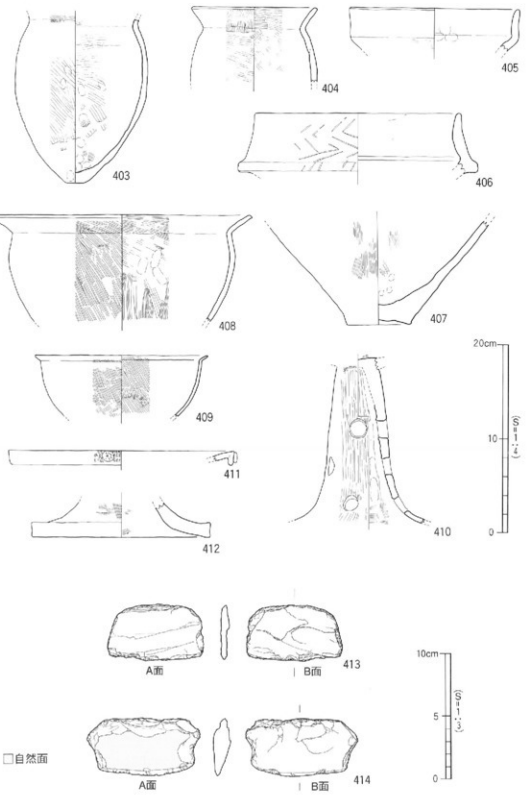
2）出土地点不明品（第47図）

出土地点が全く不明なものである。

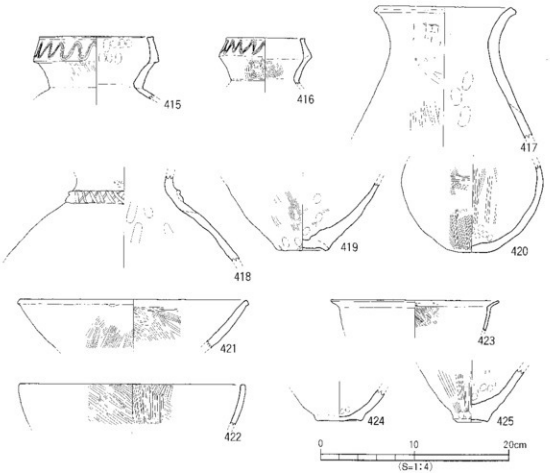
415～420は壺形土器である。415・416・418は複合口縁壺、417は単口縁壺である。419・420は胴下半～底部で、419は上げ底、420は球形を呈す。421～425は鉢形土器である。421・422は直口口縁、423は折り曲げ口縁である。424・425は鉢形土器の底部である。上げ底を呈している。



第45図　A区出土遺物実測図



第46図　B区出土遺物実測図



第47図　出土地点不明遺物実測図

3．古墳時代・古代

遺構には、掘立柱建物１棟があり、遺物には須恵器と土師器片がコンテナ３箱分ある。

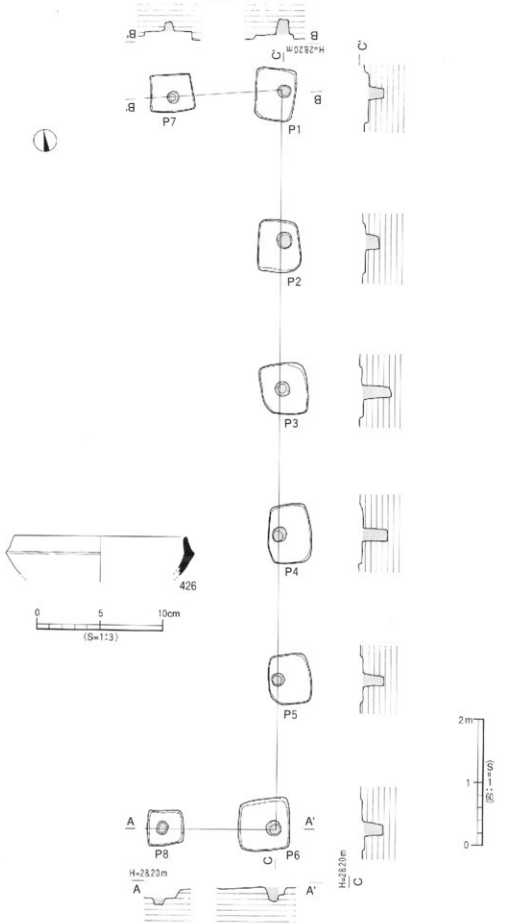
（1）掘立柱建物址

掘立６（第48図、図版６）

A区の北西部にあり、建物の西は調査区外へ続く。南北は５間、東西は２間以上となる。方位は、東に10度（磁北）傾斜する。南北柱間は232～236cmで、232cmが最も多い。東西柱間は176cmと180cmである。南北の柱穴は、平面形態が長方形で、規模は長辺75～95cm、短辺68～74cm、深さ４～６cmである。また、南北列の柱痕は直径20～30cm、深さ18～49cmである。東西列では、Ｐ７は長方形を呈し、長辺60～70cm、短辺60cm、深さ10cmで、柱痕は径18cm、深さ24cmである。Ｐ８は正方形に近く、長・短辺は56～57cm、深さ13cm、柱痕径19～24cm、深さ26cmである。柱間や平面規模は南北列の柱穴が大きい傾向をもつ。ただし、柱痕の大きさには差がない。

出土物は、柱掘り方の埋土中より須恵器片と弥生土器片が出土している。426はＰ４出土の須恵器である。小片で、磨滅が著しい。坏身と思われる。

時期：出土遺物は後世の混入品である。柱穴の平面形態や規模、包含層出土物より古代の建物と考えられる。



第48図　掘立６測量図・出土遺物実測図

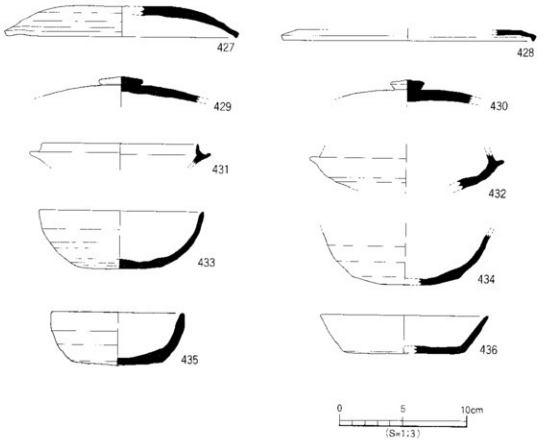
（2）包含層出土遺物（第49～51図、図版14）……第Ⅱ・Ⅲ層から出土した遺物である。

須恵器：427～430は、8世紀前半の坏蓋である。431～434は6世紀末から7世紀前半の坏身と無台の坏である。435は7世紀後半、436は8世紀の無台の坏である。437～449は高台付の坏である。437～446は中～大型品で、高台は坏底部のやや内側につき、接地面は内側部が接するものが多い。447～449は小型品で、高台は坏底部の外側につき、接地面は全面が接する傾向にある。450は皿で、8世紀前半から中葉のものである。451は高台付の壺と思われるもので、8世紀代。452・453は高坏で、452は7世紀、453は8世紀のものである。454は甕で、8世紀代。455は鉄鉢状の鉢で、8世紀前半。

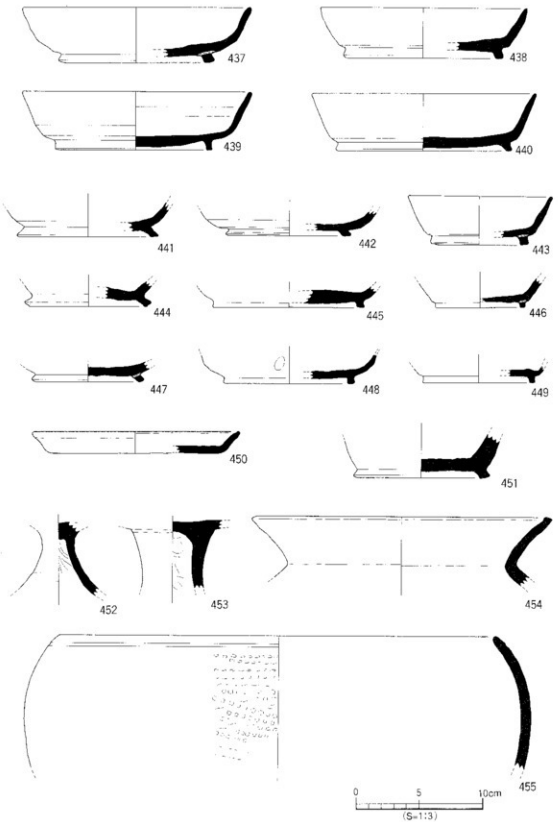
土師器：456～458は畿内産と思われるもので、平城Ⅰないし平城Ⅱに比定され、8世紀前葉になる。459は蓋で、460は内面に一段の暗文をもつ。8世紀前半。461は坏ないし皿となるもので、時期は不明。462～464は皿で、8世紀中葉。465・466は高台付の坏ないし皿で、8世紀中ごろ。467は高坏の坏部で、8世紀中ごろ。468は甕で、8世紀代か。469は高台付の容器で、鉢の可能性がある。焼成は硬く、須恵器に似る。

瓦：470・471は丸で、細縄痕と布目痕がみられる。

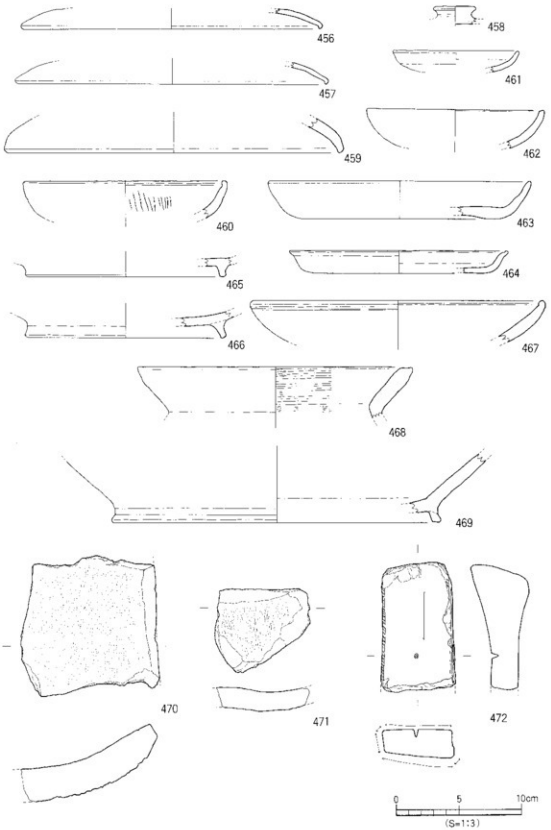
石器：472は砥石で、砥面が5面にある。小穴がみられる。重さは294.4gである。



第49図　包含層出土遺物実測図（古代）（1）



第50図　包含層出土遺物実測図(古代)(2)



第51図　包含層出土遺物実測図(古代)(3)

4．中世・近世（第52～54図）

本時期に該当する遺構はない。遺物は、第Ⅱ・Ⅲ層より土師器・陶器・陶磁器がコンテナ4箱分（39×55×15cm）出土している。

塊（473）　473は塊である。輪高台がつく塊で、10世紀後半。

坏（474～479）　474は円盤高台がつくもので、11世紀前半。475～479は17世紀前半以降のもので、475は口縁部が外傾、476・477は内湾、478・479は外傾・外反して立ち上がる。

皿（480～483）　480と483は同転糸切り痕をもつ。また、483は底部中央に焼成後の小円孔がみられる。中世後半～近世。

土釜（484～487）　484～486は口縁部外面に三角形、487は丸みのある四角形を呈する凸帯を貼り付ける。15世紀末～16世紀前半。

羽釜（488・489）　488は短く三角形を呈するツバ、489は薄く長いツバをもつ。時期は判断できなかった。

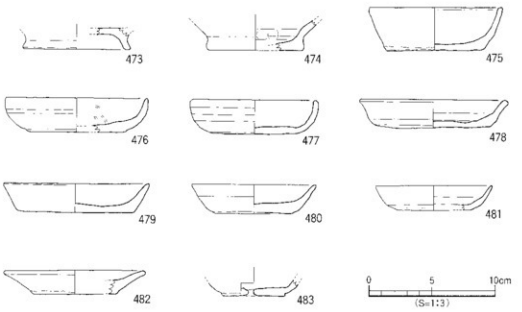
甕（490）　「く」の字状を呈する口縁部をもつ。中世。

釜（491・492）　491は内耳をもつものである。492は「く」の字状に折れ曲がる口縁部をもつ。江戸。

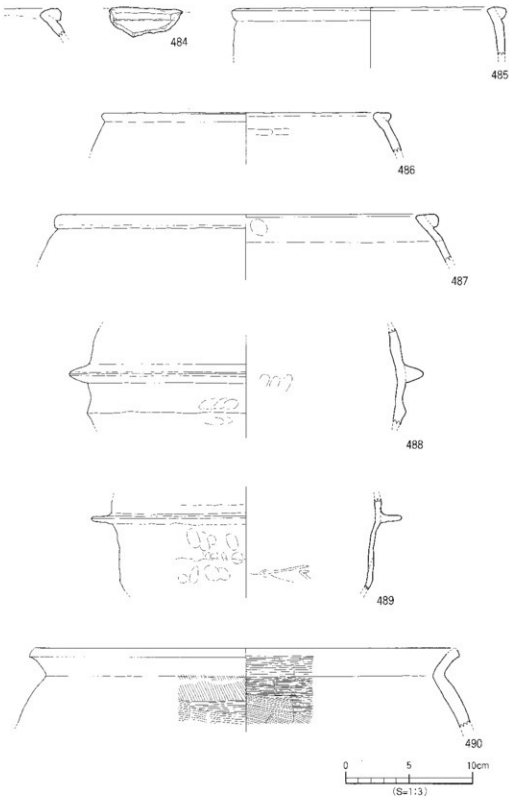
擂り鉢（493・494）　口縁部は直立し、口縁端部と外面には凹線をもつ。内面には櫛目がある。17世紀前半。

火鉢（495）　三角形状を呈する低い脚部をもつ。江戸。

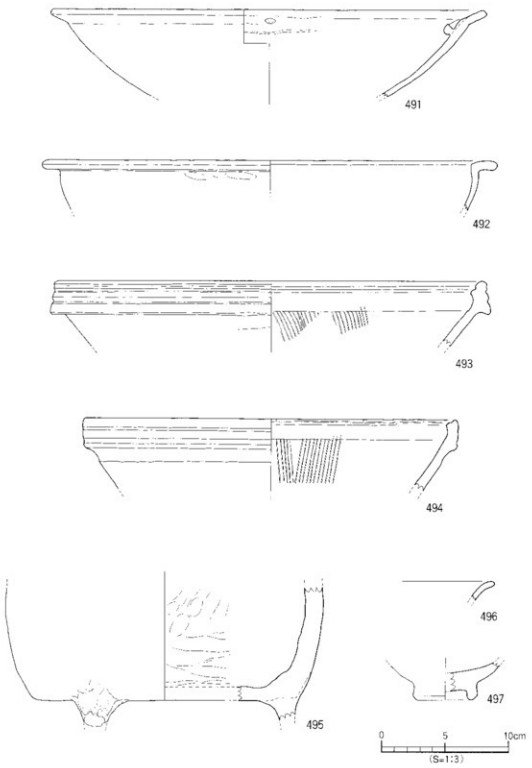
貿易陶磁器（496・497）　青磁碗で、497は高台内面、底部外面には釉がみられない。16世紀前後。



第52図　包含層出土遺物実測図（中近世）（1）



第53図　包含層出土遺物実測図（中近世）（2）



第54図　包含層出土遺物実測図（中近世）（3）

遺構・遺物一覧（作成者：梅木謙一・水口あをい）

法量欄　（　）：復元推定値

形態・施文欄　土器の各部位名称を略記。例）口→口縁部、胴上→胴部上位、柱→柱部、脚→裾部、胴底→胴部～底部。

胎土・焼成欄　胎土欄では混和剤を略記した。例）砂→砂粒、長→長石、石→石英、密→精製土。（　）中の数値は混和剤粒子の大きさを示す。例）石・長（1～4）→「1～4mm大の石英・長石を含む」である。

焼成欄の略記について。◎→良好、○→良、△→不良

表1　竪穴式住居址一覧

竪穴(SS)	時期	平面形	規模 長さ×幅×深さ（m）	床面積（㎡）	主柱穴（本）	内部施設 高床	土坑	炉	カマド	周壁溝	備考
1	弥生後期後葉	隅丸長方形	3.60×2.79×0.13	10.04	2						
2	弥生終末	長方形	5.79×4.77×0.40	27.61				○			
3	弥生終末	隅丸長方形	3.98×2.85＋α×0.13	11.34	2			○			
4	弥生後期後葉	隅丸長方形	3.90×3.73×0.24	14.54	2			○			
5	弥生終末	円形	6.49×2.67×0.33	(31.19)	3						推定直径6.6m
7	弥生後期後葉	円形	5.60×1.96×0.20	(35.23)	2					○	SD1に切られる。推定直径6.7m
8	弥生後期後葉	隅丸長方形	4.10×3.60×0.10	13.19	2			○		○	SD1に切られる。

表2　掘立柱建物址一覧

掘立	方位	規模（間）	桁行 実長(m)	桁行 柱間寸法(m)	梁行 実長(m)	梁行 柱間寸法(m)	床面積（㎡）	備考	時期
6		5×α	11.62	2.36・2.3・2.32・2.32・2.32	1.76	1.76			6C代

表3　土坑一覧

土坑(SK)	地区	平面形	断面形	規模 長さ×幅×深さ（m）	埋土	出土遺物	時期	備考
1	A区	楕円形	逆台形状	0.97×0.66×0.19	黒褐色シルト	弥生	弥生後期後半	
2	A区	楕円形	逆台形状	1.2×0.72×0.46	暗茶褐色シルト		弥生後期後葉	SD2を切る。
3	A区	楕円形	逆台形状	1.46×0.74×0.15	黒色粘質土	弥生	弥生後期後半	
4	A区	円形	逆台形状	1.54×1.49×1.15		弥生	弥生後期後葉～終末	
5	A区	楕円形	逆台形状	1.62×1.23×0.19		弥生	弥生終末	
8	A区	楕円形	袋状	1.15×0.99×0.53		弥生	弥生終末	
9	B区	隅丸方形	逆台形状	0.98×0.85×0.19			弥生後期後半	SD1に切られる。
10	B区	長方形	逆台形状	1.70×0.73×0.16		弥生	弥生後期後半	SD1に切られる。
11	B区	長方形	逆台形状	1.19×0.97×0.26		弥生	弥生後期後半	SD1に切られる。
12	B区	長方形	逆台形状	1.33×0.79×0.28		弥生	弥生後期後葉	SD1に切られる。
13	B区	楕円形	逆台形状	1.02×0.70×0.19			弥生後期後葉	SD1に切られる。

表4　溝一覧

溝(SD)	地区	断面形	規模 長さ×幅×深さ（m）	埋土	出土遺物	時期	備考
1	B区	逆台形状	25.5×1.0×0.32		弥生	弥生後期終末	SB7・8・SK9～13を切る。

表5　SB4出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
1	壺	口径(20.0) 残高 22.0	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	(山)ヨコナデ (胴)ハケ	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1~5) ○	黒斑	
2	壺	口径(21.8) 残高 6.6	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ(1部ナデ) (胴)ハケ(8本/cm)	ハケ(1部ナデ)	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎		
3	壺	口径(22.0) 残高 6.9	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	ハケ	明褐色 明褐色	石・長(1~2) ◎		
4	壺	口径(18.2) 残高 15.6	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1~4) ◎	煤	
5	壺	口径(16.0) 残高 10.0	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(山)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	(口)ハケ(6本/cm) (胴)ハケ(4本/cm)	淡褐色 淡褐色	石・長(1~4) 金◎		
6	壺	底径 5.2 残高 31.6	あいまいなたちあがりをもつ平底の底部。長胴。	ハケ	ハケ	淡茶褐色 灰黄褐色	石・長(3) 雲○	煤	
7	壺	口径(17.3) 残高 9.6	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸い。肩部が幅く張る。	ハケ	(口)ハケ (胴)マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	砂粒 ◎		
8	壺	口径(18.1) 残高 9.6	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸い。肩部が弱く張る。	ハケ	(山)ハケ(6本/cm) (胴)ハケ→ナデ(1部ケズリ)	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) 金◎		
9	壺	口径(19.5) 残高 21.5	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~3) 安山岩◎		
10	壺	口径(20.1) 残高 3.3	稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ	ハケ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~2) ○		
11	壺	口径(19.1) 残高 12.0	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(マメツ)	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
12	壺	口径(17.5) 残高 7.7	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口~胴)ハケ(9本/cm)	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
13	壺	口径 16.4 器高 26.6 底径 4.9	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。平底。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	(山)ヨコナデ (胴上)ハケ→ナデ (胴下)ヘラケズリ	淡茶褐色 黒褐色	石・長(1~5) 金◎	煤	9
14	壺	口径(18.1) 残高 12.0	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	淡茶褐色 淡黄色	石・長(1~4) 金○	煤	
15	壺	口径(17.0) 残高 6.5	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ	ハケ	褐色 褐色	石・長(1~3) ○		
16	壺	口径(16.4) 残高 7.0	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ(マメツ)	(山)ハケ→ヨコナデ (胴)ナデ	褐色 乳褐色	石・長(1~4) ○		
17	壺	口径(17.6) 残高 8.6	稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	(口~胴)ハケ(6本/cm)	(口~胴)ハケ	褐色 褐色	石・長(1~3) ◎		
18	壺	口径 15.6 器高 23.4 底径 3.6	あいまいな稜をもって外反する口縁部。肩部に面をもつ。長胴。直立してたちあがる平底。	(口)ヨコナデ (胴上)ハケ→ヨコナデ (胴中)ハケ	(口)ハケ (胴下)ハケ (胴中)ヘラケズリ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~6) ◎		9
19	壺	口径(13.4) 残高 7.5	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(7本/cm)	(口)ヨコナデ (胴)ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
20	甕	口径(14.0) 残高 5.3	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ	(上)ハケ(ヨコ) (胴)ハケ(タテ6本/cm)	灰褐色 茶褐色	砂粒 ◎		
21	甕	口径(13.1) 残高 8.3	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸い。	ナデ	(口)ハケ→ナデ (胴上)ナデ上げ (胴中)ハケ(5本/cm)	灰黄褐色 灰黄茶色	石・長(1~3) ◎		
22	甕	口径 12.8 残高 21.3 底径 4.6	稜をもって外反する口縁部。肩部に弱い張りをもつ。底部は、わずかにくびれる上げ底。	(口)ハケ→ナデ (胴)ハケ	(口)ヨコナデ (胴上)ハケ→ナデ (胴下)ハケ	茶褐色 灰黄色	石・長(1~5) 金 ○		9
23	甕	口径(14.8) 残高 11.0	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は丸い。	(口)ハケ→ナデ (胴)ナデ	ハケ	黄褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
24	甕	底径 6.7 残高 16.9	大型品。あいまいな立ち上がりをもつ上げ底。	タタキ→ハケ	ハケ→ナデ	暗茶褐色 暗灰褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
25	甕	底径 4.4 残高 13.6	直立してたちあがる上げ底。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	淡黄褐色 灰色	石・長(1~4) ○	黒斑	
26	甕	底径 5.5 残高 13.7	直立してたちあがる上げ底。	ハケ	ハケ	黒褐色 淡褐色	石・長(1~5) ◎	煤	
27	甕	底径 3.7 残高 21.0	肩部が強く張る。たちあがりをもつ上げ底。	マメツ(ハケ)	ハケ	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) ○	黒斑	
28	甕	底径 4.6 残高 9.4	たちあがりをもつ上げ底。	ハケ(マメツ)	マメツ	灰黄褐色 黒灰色	石・長(1~3) ◎		
29	甕	底径 (4.7) 残高 5.3	たちあがりをもつ上げ底。	ハケ→ミガキ	ナデ(1部ケズリ)	淡茶褐色 暗灰褐色	石・長(1~4) ◎		
30	甕	底径 4.4 残高 5.8	大きくくびれる上げ底。	マメツ	ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) ○		
31	甕	口径(27.2) 残高 3.4	口縁端部はやや厚く、外面に指頭痕をもつ。口縁端部は面をなす。	(上)(胴)ナデ (口)ハケ	ハケ→ナデ	茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~3) 金 ◎		9
32	壺	口径(16.8) 器高 55.6 底径 10.5	複合口縁部に櫛描き波状文2段。頸部に斜格子目の刺目凸帯。胴中位やや上に最大径をもつ。	(口)ハケ→施文 (胴)ハケ (胴)ハケ→ミガキ	ハケ	茶褐色 黒灰色	石・長(1~3) ◎	黒斑	10
33	壺	口径(15.0) 残高 11.2	櫛描き直線文5条1組が3段。櫛描き波状文5条1組。	(口)ヨコナデ→施文 (胴)ハケ	(口)ヨコナデ (胴)マメツ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) 金 ◎		
34	壺	口径(21.2) 残高 12.0	複合口縁部は無文。	(上)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	(口)ハケ (胴)ハケ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~4) 金 ○		
35	壺	口径(19.5) 残高 15.2	複合口縁部は無文。頸部に「ノ」の字状の刺目凸帯。	(口)ハケ(7本/cm)→ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	(口)ハケ(8本/cm・1部ナデ) (胴)ハケ(10本/cm)	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金 ○		
36	壺	口径(21.2) 残高 6.0	複合口縁部は大きく外反する。無文。	(口)ハケ→ヨコナデ	(上)ハケ(5本/cm・1部ヨコナデ)	明褐色 乳黄茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
37	壺	口径(19.4) 残高 3.4	複合口縁部は無文。	ハケ→ヨコナデ	マメツ(ハケか?)	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) 金 ◎		
38	壺	口径(18.2) 残高 4.5	複合口縁部は端部が外反する。無文。	(上)ヨコナデ (胴)ハケ→ヨコナデ	ヨコナデ	淡茶褐色 乳褐色	石・長(1~3) ◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
39	壺	口径(18.4) 残高 6.0	複合口端部は無文。	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ヨコナデ	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~6) ◎		
40	壺	口径(16.5) 残高 5.1	口縁端部を一部欠く。複合口縁部は無文。	マメツ	ナデ	黄褐色 灰黄色	石・長(1~4) ○		
41	壺	口径(10.3) 残高 5.7	複合口端部は無文。	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ハケ(9本/cm)	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) マメツ	淡茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~3) 金◎		
42	壺	口径 15.0 器高 37.8 底径 6.0	肩部が強く張る。厚い底部は、一部が凹む。複合口縁部には5条の横描き波状文。頸部には「ノ」字状の刻目凸帯。	(ⅰ) ヨコナデ→塩文 (ⅱ) ハケ(1部ナデ) (ⅲ) ハケ→ミガキ	(ⅰ) ナデ (ⅱ) ハケ (ⅲ) ハケ→ナデ上げ	乳茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) 金◎		10
43	壺	口径 10.8 残高 11.5	直立する頸部。複合口縁部は無文。頸部には斜格子目の刻目凸帯。	(ⅰ) ヨコナデ(1部ミガキ) (ⅱ) ハケ→ミガキ (ⅲ) ハケ	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ハケ (ⅲ) ナデ	淡褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) 金◎		
44	壺	口径 12.2 残高 7.5	複合口縁部は無文。頸部には斜格子目文の刻目凸帯。	(ⅰ) ハケ→ヨコナデ (ⅱ) ハケ	(ⅰ) ナデ (ⅱ) ハケ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~4) ◎		
45	壺	口径(12.0) 残高 6.6	複合口縁部は直立ぎみにたちあがる。無文。	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ハケ(1部ヨコナデ)	マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) 金◎	黒斑	
46	壺	口径(10.9) 残高 6.9	口縁部は上方に拡張。口縁端部に2条の太沈線。頸部には浅い沈線文2条以上。	(ⅰ) ヨコナデ→塩文 (ⅱ) ハケ(10本/cm)	(ⅰ) ヨコナデ (ⅱ) ハケ→ナデ	淡褐色 灰褐色	石・長(1~3) ◎		
47	壺	残高 6.0	複合口縁部は欠損する。頸部には断面三角形の凸帯。	(ⅱ) ハケ→ナデ	(ⅱ) ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
48	壺	口径 (8.4) 器高 15.6 底径 3.8	短かく外反する口縁部。肩部が張り、底部は平底。	マメツ	(ⅰ) ナデ (ⅱ) ハケ→ナデ	淡黄褐色 乳灰色	石・長(1~4) 金◎	黒斑	11
49	壺	口径(13.0) 残高 14.3	短かく外反する口縁部。	ハケ	(ⅰ) ハケ→ヨコナデ (ⅱ) ハケ→ナデ上げ	黄褐色 黄灰褐色	石・長(1~4) 金◎		
50	壺	口径(13.0) 残高 9.8	短かく外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	(ⅰ) マメツ (ⅱ) ハケ→ミガキ	(ⅰ) マメツ (ⅱ) 工具痕あり	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~4) ○		
51	壺	口径(10.7) 残高 6.2	短かく外反する口縁部。口縁端部は丸い。	ハケ	(ⅰ) ハケ (ⅱ) ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長(1~2) 金◎		
52	壺	口径(12.2) 残高 5.0	直立し外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ→ミガキか?	マメツ	淡茶色 白黄色	石・長(1~3) ◎		
53	壺	口径(13.9) 残高 4.7	外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(ⅰ上) ハケ→ヨコナデ (ⅰ下) ハケ(9本/cm)	(ⅰ上) ヨコナデ (ⅰ下) ハケ(8本/cm)	黄茶色 黄茶色	石・長(1~2) 金◎		
54	壺	口径 (7.6) 残高 10.4	外傾してたちあがる口縁部。肩部が張る。	マメツ	マメツ	明茶褐色 明茶褐色	石・長(1~2) ◎		
55	壺	口径 (9.7) 残高 5.3	頸部下端に1条の沈線文をもつ。	ミガキ	ハケ→ミガキ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金◎		
56	壺	口径(15.1) 残高 3.3	外反する口縁部。口縁端部はナデにより拡張し、端面は凹む。	ハケ(9本/cm・1部ヨコナデ)	ハケ(1部ヨコナデ)	茶褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) 金◎		
57	壺	口径(16.0) 残高 5.5	外傾し外反する口頸部。口縁端部は面をもつ。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
58	壺	口径(10.2) 残高 7.0	直立し、短く外反する口縁部。口縁外面には2条の沈線文。	ハケ(10本／cm)	ハケ(10本／cm) →ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1～4) 金◎		
59	壺	口径(17.3) 器高 36.4 底径 5.0	外傾し、外反する口縁部。頸部下端には明瞭な稜をもつ。肩部が張り、平底。	(口縁)ヨコナデ (頸)ハケ (胴)ハケ→ミガキ	(頸上)ハケ・ヨコナデ (頸下)ハケ (胴)ナデ(1部ハケ)	白黄褐色 黄灰褐色	石・長(1～2) ◎		11
60	盤	口径(11.4) 器高 25.2 底径 2.3	外傾し、外反する口縁部。肩部は張り、底部は小さい平底。	(口縁)ヨコナデ (胴)マメツ (脚)ハケ→ミガキ	(口縁)ヨコナデ (胴)ナデ上げ (脚)ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2) 金◎		11
61	壺	口径(13.4) 残高 23.8	外傾し、外反する口縁部。肩部は強く張る。	ハケ→ミガキ	(胴)ナデ (底)ハケ(1部ナデ)	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) 金◎		
62	壺	底径 3.2 残高 22.5	外傾する長い頸部。肩部は張り、底部は小さく狭い平底。	ハケ→ミガキ	(頸)ナデ (胴下)ナデ上げ (脚上)ハケ(4本／cm)	褐色 暗茶褐色	石・長(1～2) 金◎		
63	盤	底径 4.6 残高 19.0	直立する長い脚部。肩部は張り、底部は平底。	(脚)ハケ (脚上)ハケ (脚下)ハケ→ミガキ	(脚)ハケ(1部ナデ) (胴)ハケ→ナデ (工具痕)	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) 金◎	黒斑	
64	壺	底径 4.8 残高 14.8	肩部は強く張り、底部は大きな平底。	ハケ(8本／cm)	ハケ(10本／cm・1部ナデ)	黄茶色 灰黄茶色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
65	壺	底径 6.4 残高 23.6	内傾する長い頸部。肩部は張り、底部は大きな平底。	ハケ	ナデ(マメツ)	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1～5) 金◎		
66	壺	底径 2.0 残高 21.5	直立する長い頸部。胴部中位が張り、底部は丸みのある平底。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～5) ○	黒斑	
67	壺	底径 6.2 残高 29.5	直立する長い頸部。胴部は中位やや上が張り、底部は大きい平底。	(頸)ハケ (胴)ハケ(マメツ)	ナデ	淡褐色 黒灰色	石・長(1～3) ◎	黒斑	
68	壺	底径 4.0 残高 12.5	扁平球の胴部。頸部下端に斜格子目の刺目凸帯。肩部は張り、底部は大きい平底。	ミガキ	ハケ(1部ナデ)	淡黄褐色 暗灰色	石・長(1～2) 金◎	黒斑	
69	壺	残高 15.0	外傾する長い頸部。頸部下端には三角凸帯2条。	ハケ	ハケ→ナデ	褐色 褐色	石・長(1～4) 金◎	黒斑	
70	壺	残高 14.0	直立する長い頸部。頸部下端には斜格子目刻目凸帯。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	淡黄褐色 灰色	石・長(1～4) 金◎		
71	壺	残高 7.5	外傾してたちあがる頸部。	ハケ(1部ミガキか?)	(頸)ハケ (胴)ハケ→ナデ	黄褐色 黄茶色	石・長(1～3) 金◎		
72	壺	残高 6.4	外傾してたちあがる頸部。	(頸)ハケ (胴)ハケ→ミガキ	(頸)マメツ (胴)ハケ→ナデ?	黄茶色 乳茶色	石・長(1～4) 金◎		
73	壺	残高 9.5	外反する頸部。頸部下端には三角形の凸帯を1条もつ。	(頸)ハケ (胴)ハケ→ミガキ	(頸)ハケ(8本／cm) (胴)ハケ→ナデ	茶褐色 灰色	石・長(1～4) 金◎		
74	壺	残高 8.5	外反する頸部。頸部下端には三角形の凸帯を1条もつ。	ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	茶褐色 淡褐色	石・長(1～4) ◎		
75	壺	残高 5.5	頸部下端には斜格子目の幅広凸帯1条。刻目には木口痕。	マメツ	ハケ(7本／cm・マメツ)	淡褐色 乳褐色	石・長(1～4) ◎		
76	壺	残高 3.5	頸部下端には斜格子目の幅広凸帯1条。刻目には木口痕。	マメツ	マメツ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1～4) ○		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
77	壺	残高 2.2	頸部下端には斜格子目の刻目凸帯1条。刻目には織り目痕。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金 ◎		
78	壺	残高 3.5	頸部下端には「ノ」の字状の刻目凸帯1条。線刻あり。刻目には木口痕。	ハケ(マメツ)	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
79	壺	残高 6.5	外傾する頸部。「ノ」の字状の刻目凸帯1条。刻目には織り目痕。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
80	壺	残高 5.0	肩部に無軸刻状文。刻目には木口痕。	ハケ	ナデ	淡茶褐色 灰茶褐色	石・長(1~2) ○		
81	壺	残高 11.5	頸部には横描き直線文6条以上。頸部下端には三角凸帯1条。肩部には横描き直線文6条1組。	ハケ→ミガキ	ナデ	暗茶褐色 黒褐色	石・長(1~3) ◎		
82	壺	底径 (9.4) 残高 9.4	たちあがりをもつ大きな平底。	ハケ→ミガキ	ハケ(6本/cm)	茶褐色 灰色	石・長(1~3) 金 ◎		
83	壺	底径 8.9 残高 5.0	たちあがりをもつ大きな平底。わずかに上げ底。	ハケ(7本/cm)	ハケ→ミガキ	明褐色 淡黄褐色	石・長(1~8) 金 ○		
84	壺	底径 7.1 残高 6.4	厚い平底。	ハケ	ハケ	淡黄褐色 灰色	石・長(1~4) ○		
85	壺	底径 4.6 残高 14.2	あいまいな稜をもつ底部。胴部下半にはふくらみをもつ。	ハケ→ミガキ	ハケ(7本/cm)	茶褐色 淡褐色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑	
86	壺	底径 6.1 残高 7.5	たちあがりをもつ平底。	ハケ	ハケ→ナデ	淡黄褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
87	壺	残高 7.2	2条1単位の線刻。	マメツ	ナデ	淡茶褐色 淡褐色	石・長(1~2) ◎		11
88	壺	残高 5.2	有軸の木葉文状の線刻。	ハケ→ミガキ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) ◎	黒斑	11
89	壺	残高 2.1	頸部に凸帯と小円形の浮文をもつ。	マメツ	ナデ	茶褐色 乳褐色	石・長(1~2) ◎		11
90	鉢	口径 33.2 器高 30.2 底径 6.6	ゆるやかに外反する口縁部。肩部が強く張る。底部はたちあがり、上げ底。	(口)(底) ヨコナデ (胴) ハケ	(口) ヨコナデ (胴) ハケ (底) ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	12
91	鉢	口径(29.5) 残高 13.3	あいまいな稜をもって外反する口縁部。	(口) ヨコナデ (胴) ハケ	(口) ハケ→ヨコナデ (胴) ハケ	褐色 灰白色	石・長(1~5) 金 ◎		
92	鉢	口径(20.9) 残高 8.2	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口) ハケ (胴) ハケ→ミガキ	(口) ハケ (胴) ミガキ	茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~3) ◎		
93	鉢	口径(18.9) 残高 2.1	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	マメツ	ナデ	明茶褐色 明茶褐色	砂粒 ◎		
94	鉢	底径 1.9 残高 5.4	底部は小さく突出し、平底。口縁部は直立し、外反する。	ハケ→ミガキ	マメツ	明黄褐色 乳黄灰色	石・長(1~4) ◎		
95	鉢	底径 1.5 残高 11.5	頸が強くしまり、肩部に張りをもつ。底部は小さい平底。	ハケ→ナデか?	ミガキ	明黄褐色 暗茶褐色	石・長(1~3) 金 ◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(6)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
96	鉢	口径(14.8) 器高 14.7 底径 5.4	ゆるやかに外反する口縁部。底部はあいまいなたちあがりをもち、上げ底。	ナデ(工具痕あり)	(1)ヨコナデ (2)ナデ上げ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~4) 金 ○	黒斑	
97	鉢	口径 (9.1) 器高 3.0 底径 6.8	直口口縁。底部はたちあがりをもち、上げ底。	ナデ(マメツ)	ナデ	茶褐色 黒褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	
98	鉢	口径 9.1 器高 9.9 底径 3.5	直口口縁。口縁端部は丸い。平底。	ナデ(工具痕あり)	ハケ(5本/cm・1部ナデ)	淡茶色 淡茶褐色	石・長(1~2) 金 ◎		
99	鉢	口径 (9.6) 器高 5.2 底径 3.8	直口口縁。口縁端部は丸い。平底。	ハケ(4本/cm)	ナデ	茶褐色 灰褐色	砂粒金 ◎		
100	鉢	底径 3.4 残高 3.8	底部はたちあがりをもち、上げ底。	ミガキ	ハケ(9本/cm)	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 金 ○	黒斑	
101	鉢	底径 3.0 残高 4.8	底部はあいまいなたちあがりをもち、平底。	マメツ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○		
102	鉢	底径 2.1 残高 1.6	底部は小さく突出する厚い平底。	ハケ→ミガキ	ナデ	暗茶色 灰茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
103	鉢	口径(14.8) 器高 11.3 底径(12.7)	台付鉢。直口口縁。口縁端部は面をもつ。	ミガキ	ハケ→ミガキ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
104	鉢	残高 9.0	台付鉢。台部は上げ底。	ハケ→ミガキ	ミガキ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	
105	鉢	残高 4.0	台付鉢。	ミガキ	マメツ	褐色 明褐色	石・長(1~2) ○		
106	鉢	底径(16.8) 残高 2.6	脚付鉢。脚部片。裾部に円孔(φ1.2cm)。脚端部は面をもつ。	ミガキ(1部ナデ)	ヨコナデ	淡褐色 乳褐色	石・長(1~3) ○		
107	高坏	底径(17.4) 残高 20.5	ゆるやかに外反する口縁部。脚部には円孔(φ1.7cm)が1段3ケ。	(1)ハケ→ミガキ (2)ハケ→ミガキ (3)ヨコナデ	(1)ハケ→ミガキ (2)シボリ痕 (3)ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~2) 金 ◎		12
108	高坏	口径(26.4) 残高 4.2	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~2) 金 ◎		
109	高坏	残高 3.3	稜をもって外反する口縁部。	マメツ	マメツ	淡黄褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
110	高坏	残高 2.5	稜をもって外反する口縁部。	マメツ	マメツ	乳茶褐色 乳黄色	石・長(1~2) ○		
111	高坏	底径(17.1) 残高 13.8	裾部は短かくゆるやかに開く。円孔(φ1.8cm)は1段4ケ。充填。	ハケ→ミガキ	(脚上)ミキ取り→ナデ (脚下)ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
112	高坏	残高 10.5	円孔(φ1.8cm)は1段3ケ。充填。	ハケ(マメツ)	(脚上)シボリ痕 (脚中)ハケ (脚裾)ヨコナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
113	高坏	残高 9.5	円孔(φ1.8cm)は1段2ケ以上。充填。	ハケ→ミガキ	ナデ	暗茶褐色 暗褐色	密　金 ◎		
114	高坏	残高 7.8	円孔(φ1.8cm)は4ケ以上。充填。	ハケ→ミガキ	(脚上)シボリ痕 (脚中)ハケ(8本/cm)	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) 金 ◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(7)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
115	高坏	残高 12.7	円孔(φ1.3cm)は1段3ケ。充填。	ハケ→ミガキ	(坏底)ミガキ (脚上)ナデ (脚中)ハケ→ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) ◎		
116	高坏	残高 7.8	円孔は1ケ以上。充填。	ハケ→ミガキ	(坏底)ハケ→ミガキ (脚)ナデ	淡黄色 淡褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
117	高坏	残高 10.5	円孔(φ1.2cm)は1段4ケ。充填。	ハケ	(脚上)シボリ痕 (脚中)ハケ	淡褐色 灰褐色	石・長(1~3) ◎		
118	高坏	残高 9.0	充填。	ハケ(10本/cm)→ミガキ	(坏底)ハケ(9本/cm) (脚)シボリ痕	淡褐色 灰褐色	石・長(1~3) ◎		
119	高坏	口径(17.7) 器高 15.0 底径(12.6)	棱をもって外反する口縁部。円孔(φ1.4~1.8cm)は2段3ケ。充填。	(坏)ハケ→ミガキ (脚)ハケ→ミガキ	(坏)ハケ→ミガキ (脚)ナデ(1部工具痕)	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) 金 ◎		12
120	高坏	残高 6.0	円孔(φ1.0cm)は1段4ケ。充填。	ハケ(6本/cm)→ミガキ	(坏底)ナデ (脚上)シボリ痕 (脚中)ハケ(6本/cm)	淡褐色 淡褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
121	高坏	残高 6.7	充填。	マメツ	ナデ	暗灰褐色 黒褐色	石・長(1~4) 金 ◎		
122	高坏	残高 4.9	円孔(φ1.6cm)は1段3ケか。	マメツ	マメツ	乳褐色 淡褐色	石・長(1~3) ◎		
123	高坏	残高 5.8	円孔(φ0.6cm)は1段8ケ。	ハケ→ミガキ	(坏底)ナデ (脚上)ナデ (脚中)ハケ→ヨコナデ	褐色 褐色	石・長(1~4) 金 ◎		
124	高坏	口径 13.2 器高 8.8 底径 9.4	あいまいな棱をもって外反する口縁部。脚部は「ハ」の字状に開く。	(口)ナデ(沈線痕跡有) (坏底)ハケ (脚)1部ハケ	(坏)ハケ (脚上)ナデ (脚中)ハケ	明黄褐色 暗茶褐色	石・長(1~2) 金 ◎		12
125	器台	口径(28.2)	口縁部は垂下する。端面には櫛描き波状文4条。	(口縁)ヨコハケ→施文	ハケ→ミガキ	褐色 乳褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
126	器台	口径(27.0) 残高 1.8	口縁部は垂下する。端面には沈線文4条。	ヨコナデ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		
127	器台	残高(27.5)	柱部には円孔(φ1.3cm)4段以上。	ハケ(8本/cm)→ミガキ	(柱上)ハケ (柱中)ナデ	褐色 褐色	石・長(1~5) 金 ◎		
128	器台	底径(24.4) 残高 23.0	円孔(φ1.3cm)3段以上。1段に5ケ。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		12
129	器台	底径(18.8) 残高 17.0	円孔(φ2.0cm)2段3ケ。	ハケ→ミガキ	(柱上)ナデ (柱下)ハケ	淡茶褐色 淡黄褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
130	器台	口径(15.6) 残高 8.2	口縁部は上方に拡張。口縁端面には棒状浮文2ケ1組が推定で6ケ所。柱部には円孔2段以上。	(口縁)ヨコナデ (脚)ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	明褐色 明褐色	石・長(1~3) ◎		
131	器台	底径(25.1) 残高 6.5	円孔(φ1.6cm)は2段以上。1段に推定6ケ。	ミガキ	(柱下)ハケ (脚)マメツ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~3) 金 ◎		
132	器台	口径 19.4 器高 15.0 底径(18.5)	円孔(φ2.2cm)は2段4ケ。	ハケ→ミガキ	(口)ミガキ (脚)ハケ→ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~4) ◎		12
133	器台	底径(14.6) 残高 11.4	円孔(φ1.4cm)は2段。1段に推定4ケ。	ハケ→ミガキ	ナデ(1部工具痕あり)	乳褐色 乳褐色	石・長(1~4) ◎		

SB 4 出土遺物観察表　土製品

(8)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
134	器台	底径(14.4) 残高 15.9	ゆるやかに開く裾部。	ハケ→ナデ(マメツ)	ハケ→ナデ(マメツ)	茶褐色 明茶褐色	石・長(1~7) 金雲◎		
135	支脚	底径(12.8) 残高 12.5	受部は「I」字状に一部切り取られている。	ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金雲◎		
136	支脚	残高 9.6	受部は「U」字状に一部切り取られている。	ハケ→ナデ	ナデ	灰褐色 黄褐色	石・長(1~2) 金雲◎		
137	ミニチュア	口径 7.4 器高 11.5 底径 2.1	ゆるやかに外反する口縁部。肩部は張り、底部は平底。	(ニ)ヨコナデ (ホ)ハケ(14本/cm)	(ト)ハケ→ヨコナデ (ヘ)ハケ→ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) 金◎		
138	ミニチュア	口径 (4.9) 器高 9.1 底径 2.4	内傾する長い頸部。口縁部はわずかに外反する。底部は平底。	(ハ)ヨコナデ (ヌ)ハケ→ミガキ	(チ)ヨコナデ (ル)ナデ	淡茶色 淡茶褐色	石・長(1~2) ◎		
139	土製品	器高 10.2 底径 6.0	鳥形土製品。底部はたちあがる。注口部は、口縁部がわずかに外反する。	ナデ	ナデ	黄灰色 淡黄褐色	石・長(1~3) ◎	黒斑	13
140	ミニチュア	口径 3.6 器高 5.3 底径 1.5	山線痕は内傾する。指頭痕が著しい。	ナデ	ナデ	黒褐色 黒褐色	砂粒 金◎		

表 6　SB 4 出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
141	石庖丁	完存	結晶片岩	4.6	8.7	0.69	53.5	未製品	13
142	石庖丁	完存	結晶片岩	5.1	8.9	0.7	61.3	未製品	13
143	敲石	2/3	砂岩系	8.1	6.4	4.9	262.4		13
144	砥石			8.1	7.3	3.0	189.4		13
145	台石	約1/4	不明	16.0	14.6	4.5	1460		13

表 7　SB 1 出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
146	甕	口径(17.2) 残高 5.3	棱をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ(1部ヨコナデ)	(ロ)ハケ (ル)ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金◎		
147	甕	口径(12.4) 残高 6.8	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		
148	甕	底径 3.3 残高 16.0	底部はあいまいなたちあがりをもつ上げ底。	ハケ(7本/cm)	ハケ(9本/cm)	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
149	甕	底径 (6.1) 残高 6.4	底部はあいまいなたちあがりをもつ上げ底。	ハケ(1部ナデ)	マメツ	灰黄褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) ◎		
150	甕	底径 4.6 残高 2.5	底部はくびれの上げ底。	ナデ	ナデ	淡黄色 暗灰色	石・長(1~3) ◎		

SB 1 出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
151	壺	口径(13.8) 残高 3.4	複合口縁。複合口縁部は無文。	(ロ)ナデ (頸)ハケ→ナデ	ヨコナデ	淡黄茶褐色 灰黄色	石・長(1~4) ○		
152	壺	口径(14.3) 残高 5.5	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ(マメツ)	(ロ)ナデ (胴)ハケ	黄白色 黄白色	石・長(1~4) ○		
153	壺	口径(10.3) 残高 4.8	ゆるやかに外反する口頸部。口縁端部は丸い。	(ロ)ハケ→ヨコナデ (頸)ハケ	(ロ)ヨコナデ (胴)ナデ	黄灰色 灰黄茶色	石・長(1~2) ○		
154	壺	口径 (9.6) 残高 18.3	外傾する口頸部。口縁端部は丸い。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	茶褐色 赤褐色	石・長(1~4) 含 ○	黒斑	
155	壺	残高 5.6	底立する扁い胴部。胴部下端には「ノ」の字状の刻目凸帯。刻目には木口痕。	ハケ	ナデ	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~2) 多 ○		
156	壺	残高 1.9	胴部下端には斜格子目の刻目凸帯。	斜格子目文	ナデ	黄褐色 灰色	石・長(1~2) ○		
157	壺	残高 6.3	胴部下端には斜格子目の刻目凸帯。刻目には木口痕。	ハケ(12本/cm)	ハケ→ナデ	灰黄茶色 灰茶色	石・長(1~4) ○		
158	壺	底径 (7.1) 残高 5.2	底部はわずかにたちあがりをもち、平底。	ハケ	ナデ	暗黄色 黄茶色	石・長(1~5) ○	黒斑	
159	壺	底径 (9.3) 残高 5.9	底部は大きな平底。	ナデ	マメツ	暗茶褐色 灰茶色	石・長(1~3) ○	黒斑	
160	鉢	口径(16.3) 器高 12.1 底径 1.6	稜をもって外反する口縁部。底部は小さく突出し、平底。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ	(口)ハケ→ナデ (頸)ハケ	灰黄茶色 暗灰茶色	石・長(1~3) ○		
161	鉢	残高 4.3	脚付鉢。円孔は2ケ以上。	ハケ→ミガキ	(外)ミガキ (脚)ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○		
162	高坏	口径(22.6) 残高 6.0	内湾ぎみに外傾してたちあがる口縁部。器壁は薄い。	ハケ	ハケ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~2) ○		
163	高坏	口径(26.5) 残高 7.8	稜をもって外反する口縁部。充塡。	(口)マメツ (杯底)ハケ→ミガキ?	(口)ハケ→ミガキ? (杯底)マメツ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~4) 多 ○		
164	高坏	底径(17.3) 残高 16.5	円孔(φ1.9cm)は3段3ケ。充塡。	ミガキ	(脚下)シボリ痕 (脚下)ハケ (脚柱)ハケ→ヨコナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○		
165	高坏	底径(17.6) 残高 14.6	円孔(φ2.0cm)は3段3ケ。円孔は交互に配する。充塡。	マメツ	マメツ	明褐色 明褐色	石・長(1~5) ○		
166	器台	口径(26.1)	受部端は上下に拡張。端面には太沈線2条。	(口縁)マメツ (脚)ヨコナデ	マメツ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~4) 多 ○		

表 8　SB 2 出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面) 色調(内面)	胎土 焼成	備考	図版
167	坐	口径(25.4) 残高 5.7	あいまいな稜をもって外反する口縁部。山形端部は面をもつ。	ハケ(7本/cm・1部ナデ)	ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○		
168	台	口径(22.8) 残高 4.2	あいまいな稜をもって外反する口縁部。	ハケ(1部マメツ)	(口)ハケ (脚)ナデ	褐色 黄茶色	石・長(1~2) 含 ○		

SB 2 出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
169	壺	口径(16.2) 残高 13.2	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	タタキ	㉑ ハケ(9本/cm) ㉒ ハケ→ナデ	灰黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) 金雲 ○		
170	壺	口径(17.0) 残高 4.6	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	マメツ	⑪ ハケ ㉔ ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1~4) ○		
171	壺	口径(14.8) 残高 4.2	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(1部ナデ)	㉓ ヨコナデ ㉕ マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~8) 金雲 ○		
172	壺	底径 4.6 残高 11.0	底部はくびれの上げ底。	ハケ	ナデ	灰茶褐色 黄茶色	石・長(1~5) ○		
173	壺	底径 4.0 残高 4.0	底部はたちあがり上げ底。	ナデ	ナデ	明茶褐色 暗灰色	石・長(1~5) ○		
174	壺	残高 2.9	細長頸壺。沈線又は7条以上。	ナデ→施文	ナデ	灰黄茶色 灰黄色	石・長(1~3) 金雲 ○		
175	壺	底径 5.9 残高 4.2	やや厚い半底。	ミガキ	ナデ	暗茶褐色 灰茶色	石・長(1~3) ○		
176	鉢	口径(19.2) 残高 4.2	直口口縁。口縁部は面をもつ。	ナデ	ナデ	淡褐色 淡黄色	密 ○		
177	鉢	口径(17.6) 残高 4.7	直口口縁。口縁部は面をもつ。	タタキ	ハケ	乳茶褐色 乳黄茶色	石・長(1~3) ○		
178	鉢	口径(10.6) 残高 3.8	直口口縁。口縁部は面をもつ。	ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金雲 ○		
179	鉢	底径 (5.5) 残高 2.4	底部は、稜をもって平底となる。	マメツ	マメツ	淡黄茶色 淡黄茶色	石・長(1~2) 金雲 ○		
180	鉢	底径(14.9) 残高 1.6	脚付鉢。円孔が1ケ以上。	ハケ→ミガキ	ハケ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) 金雲 ○		
181	器台	口径(27.0) 残高 1.5	口縁端部は上下に拡張。口縁端面は沈線4条。	⑰ 施文 ㉖ ハケ→ヨコナデ	ミガキ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~3) ○		
182		底径 3.6 残高 6.1	底部はたちあがりをもち、厚い上げ底。	ハケ(1部ヨコナデ)	ハケ	灰茶褐色 灰茶褐色	密 ○		
183	ミニチュア	口径 (3.7) 器高 5.6 底径 1.4	ゆるやかに外反する口縁部。長胴で、小さく突出する底部。	ハケ→ナデ	ナデ	乳褐色 淡茶色	石・長(1~2) 金雲 ○		
184	ミニチュア	口径 (2.5) 器高 3.2 底径 3.3	内傾してたちあがる胴部。底部は大きい平底。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) ○		

表 9　SB 2 出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ (cm)	法量 幅 (cm)	法量 厚さ (cm)	法量 重さ (g)	備考	図版
185	紡石	完存		16.4	3.2	3.7	243.9		
186	擦り石	完存		10.8	10.6	4.4	984.0	凝灰岩	

表10　SB３出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
187	壺	残高 5.5	複合口縁。複合口縁部は無文。	マメツ	マメツ	灰黄色 黄茶色	密 ○		
188	壺	口径(22.3) 残高 2.0	口縁端部は垂下する。口縁端面には櫛描き波状文７条１組。	(口縁) 施文 (頸) ハケ→ヨコナデ	ミガキ	灰黄色 灰黄色	石・長(1~3) 金 ○		
189	壺	残高 3.8	細長頸壺。細沈線17条以上。	施文	ナデ	褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金 ○		
190	壺	残高 6.4	頸部下端には「ノ」の字状の刻目凸帯。刻目には木口痕。	ハケ→ミガキ	ハケ(マメツ)	淡茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~5) 金 ○		
191	壺	底径 6.9 残高 4.3	底部はあいまいなたちあがりをもち、平底。	タタキ	ナデ	乳黄色 黒色	石・長(1~3) ○		
192	壺	底径 3.9 残高 2.0	平底。	タタキ？	ナデ	淡茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○		
193	壺	底径 (4.2) 残高 1.8	底部は小さくくびれる厚い平底。	ナデ	ナデ	黒褐色 明褐色	石・長(1~2) 金 ○		
194	甕	底径 1.8 残高 6.0	底部は小さく平底。	タタキ→ハケ	ナデ	黒灰色 乳黄色	密 ○		
195	鉢	口径(38.4) 残高 4.7	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ(1部ナデ)	ハケ(6本／cm)	乳灰黄色 乳灰黄色	石・長(1~2) ○		
196	鉢	口径(23.0) 残高 5.5	棱をもって大きく外反する長い口縁部。	(口) ハケ (脚) ハケ→ナデ	ミガキ？	黄茶色 明茶褐色	石・長(1~3) 金 ○		
197	鉢	口径(17.4) 残高 3.2	あいまいな棱をもって外反する口縁部。	タタキ	(口) ハケ (脚) ハケ→ナデ	乳黄茶色 乳灰黄色	石・長(1~3) 金 ○		
198	鉢	口径(14.7) 器高 7.7 底径 (4.4)	直口口縁。底部はたちあがりをもち、厚い平底。	タタキ	ハケ	淡茶褐色 暗灰茶色	石・長(1~4) ○		
199	鉢	底径(20.7) 残高 2.3	脚付鉢。円孔。脚端部は面をもつ。	ナデ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~9) ○		
200	高坏	口径(27.7) 残高 3.4	段をもって外反する口縁部。	ナデ	ナデ	乳茶褐色 乳黄茶色	石・長(1~2) 金 ○		
201	支脚	受部(11.5) 残高 3.1	受部片。傾斜部分をもつ。	ナデ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) 金 ○		
202	ミニチュア	底径 4.4 残高 3.1	底部はくびれる。	マメツ	マメツ	茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~4) ○		
203	不明	口径(22.3) 残高 2.3	口縁端部は面をもち、刻目を施す。刻目には木口痕。	ナデ	ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~5) 金 ○		

表11　SB３出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
204	砥石	完存		19.6	7.1	3.6~6.7	1190.0		

表12　SB 5 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
205	甕	口径(21.0) 残高 7.1	稜をもって外反する口縁部。口縁端部には面をもつ。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	乳褐色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
206	甕	口径(17.0) 残高 14.0	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	(口) ハケ→ヨコナデ (胴) ハケ	(口) ハケ (胴) ハケ(1部ナデ)	灰黄褐色 灰黄色	石・長(1~3) 金 ◎		
207	甕	口径(15.2) 残高 21.2	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	(口) ハケ→ヨコナデ (胴) ハケ(1部ミガキ)	(口) ハケ (胴) ハケ(1部ナデ)	黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) 金 ◎		
208	甕	残高 6.4	外反する口縁部。	タタキ→ハケ	マメツ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~6) ◎		
209	甕	底径 (4.9) 残高 3.6	底部は大きい平底。胴部下半にふくらみをもつ。	タタキ？→ハケ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~3) ◎		
210	甕	底径 (3.2) 残高 5.2	底部は平底。	ハケ	ナデ	暗灰黄色 暗灰黄色	石・長(1~2) ◎		
211	壺	口径(12.2) 残高 3.7	複合口縁。複合口縁部は大きく湾曲する。無文。	ハケ→ヨコナデ	ヨコナデ	黄褐色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		
212	壺	口径(15.0) 残高 5.2	ゆるやかに外反する口縁部。頸部に沈線2条。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~10) ◎		
213	壺	口径 8.8 残高 6.9	直立し、外反する口頸部。頸部下端は沈線3条(櫛か)。	(口胴) ハケ→ヨコナデ (胴) ハケ	ナデ	茶褐色 乳黄色	石・長(1~3) 金 ◎		
214	壺	底径 5.1 残高 10.6	あいまいなたちあがりをもつ底部。上げ底。	(胴) ハケ (底) ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) ◎		
215	鉢	底径 (5.6) 残高 5.1	底部は平底。	ハケ	ナデ	暗褐色 灰色	石・長(1~5) 金 ◎		
216	鉢	底径 1.7 残高 6.3	小さく突出する平底。	ハケ(6本／cm)	ナデ	暗灰色 灰色	石・長(1~2) 金 ◎		
217	高坏	残高 2.8	段をもって外反する口縁部。	ハケ(1部ナデ)	マメツ	乳茶褐色 乳茶色	石・長(1~2) ◎		
218	高坏	底径(18.0) 残高 3.0	ゆるやかに開く裾部。脚端部は面をもつ。	ハケ	ハケ(5本／cm)	乳茶色 乳褐色	石・長(1~2) ◎		
219	高坏	底径(16.0) 残高 2.5	ゆるやかに開く裾部。脚端部は面をもつ。	ハケ	ナデ	乳白色 乳白色	石・長(1~3) 金 ◎		
220	器台	口径(29.8) 残高 1.5	受端部は垂下する。端面には沈線6条。	ヨコナデ	マメツ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~2) ◎		
221	器台	口径(30.4) 残高 1.6	受端部は上下に拡張する。端面には沈線2条と竹管文入り円形浮文。	ナデ	ナデ	黄茶褐色 淡灰茶褐色	石・長(1~5) 金 ◎		
222	土玉	直径 2.7	中実の土製品。	ナデ		淡灰黄色 淡灰黄色	石・長(1)金 ◎		

表13　SB 7 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
223	炭	口径(22.2) 残高 4.2	外反するLI線部。LI線端部は面をもつ。	(ナ) ハケ→ヨコナデ (ハ) ハケ	ハケ→ヨコナデ	茶褐色 茶黄色	石・長(1~3) ○		
224	壺	底径 3.4 残高 7.6	底部は平底。	マメツ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○		
225	炭	底径 (6.4) 残高 2.3	底部はわずかにたちあがりをもつ。上げ底。	マメツ	ナデ	黒灰色 黒色	石・長(1~2) ○		
226	壺	LI径(16.5) 残高 7.8	複合口縁。複合口縁部は無文。	(ナ) ハケ→ヨコナデ (ハ) マメツ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○		
227	壺	口径(15.4) 残高 4.6	複合LI縁。複合LI縁部は無文。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 黄灰色	石・長(1~2) 密 ○		
228	壺	底径 4.3 残高 12.0	肩部が張る。底部は半底。	ミガキ	ハケ(1部ナデ)	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) ○		
229	壺	底径 4.9 残高 6.5	底部は平底。	マメツ	マメツ	乳黄色 灰黄色	石・長(1~4) ○		
230	鉢	口径(26.2) 残高 3.0	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ	ハケ(7本/cm)	乳黄茶色 灰黄茶色	石・長(1~4) ○		
231	高坏	口径(24.9) 残高 3.5	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ヨコナデ	ミガキ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~2) 密 ○		
232	高坏	底径(17.2) 残高 11.9	円孔(ø1.4cm)は1段4ケ。充填。	ハケ	(脚上) ナデ (脚下) ハケ→ナデ (脚裾) ヨコナデ	乳茶色 淡茶褐色	石・長(1~5) 密 ○		

表14　SB 8 出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
233	鉢	LI径 16.6 器高 8.8 底径 6.7	台付鉢。稜をもって外反する口縁部。底部はくびれの上げ底。	(口) ヨコナデ (胴) ハケ (底) ナデ	(口) ヨコナデ (胴) ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○	黒斑	

表15　SK 1 ～ 5 出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
234	鉢	口径(11.7) 残高 2.5	直口口縁。	ハケ→ヨコナデ	ハケ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) 密 ○	SK1	
235	鉢	底径(14.6) 残高 1.7	脚付鉢。脚端部は面をもつ。	ハケ→ミガキ	ナデ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~2) 密 ○	SK1	
236	鉢	底径(15.8) 残高 2.2	脚部片か。端部は面をもつ。	ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1) ○	SK1	
237	壺	LI径 (5.7) 残高 4.7	直立し、外反する口頸部。	ハケ(1部ナデ)	ナデ	黄茶褐色 黄茶褐色	密 密 ○	SK3	
238	高坏	口径(30.8) 残高 1.4	口縁端部は上下に拡張する。	マメツ	ミガキ	乳灰黄色 灰茶褐色	石・長(1~3) ○	SK3	

SK1～5出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
239	甕	口径(20.9) 残高 4.8	ゆるやかに外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(い)ハケ→ヨコナデ (ろ)ハケ(10本/cm)	(に)ハケ→ヨコナデ (ほ)ハケ(6本/cm)	灰黄茶色 黄茶褐色	石・長(1～3) ○	SK4	
240	皿	口径(14.8) 残高 5.9	稜をもって外反する口縁部。	(は)ハケ→ヨコナデ (へ)ハケ	(と)マメツ (ち)ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) 金○	SK4	
241	甕	口径(16.5) 残高 4.5	稜をもって外反する口縁部。口縁部は面をなす。	(り)ハケ→ヨコナデ (ぬ)ハケ	ハケ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1～2) ○	SK4	
242	甕	口径(13.6) 残高 3.7	稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ(マメツ)	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～2) ○	SK4	
243	甕	底径 (4.8) 残高 6.3	底部は平底。	マメツ	ハケ	茶褐色 暗褐色	石・長(1～3) 金○	SK4	
244	壺	口径 15.7 残高 8.7	複合口縁。複合口縁部は無文。	(る)ハケ→ヨコナデ (わ)ハケ[指ヨコナデ]	(を)ヨコナデ (か)ハケ	灰黄茶色 灰茶褐色	石・長(1～3) ○	SK4	
245	壺	口径(13.0) 残高 1.6	外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	マメツ	マメツ	乳茶色 乳茶色	石・長(1～2) ○	SK4	
246	壺	底径 (7.2) 残高 3.3	底部は平底。	マメツ	マメツ	里灰茶色 灰茶色	石・長(1～2) 金○	SK4	
247	壺	底径 (5.7) 残高 4.1	底部は丸みをもつ平底。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	灰褐色 灰黄茶色	石・長(1～4) ○	SK4	
248	高坏	底径(16.8) 残高 11.7	円孔(φ1.4cm)は1段3ケ。充塡。	ハケ→ナデ	ナデ	淡褐色 淡褐色	石・長(1～1) 金○	SK4	
249	高坏	残高 11.2	円孔(φ1.2cm)は1段3ケ。充塡。	ハケ→ミガキ	(ね)ハケ→ミガキ (の上)ナデ (の中)ハケ→ナデ	乳黄茶色 乳黄灰色	石・長(1～3) 金○	SK4	
250	高坏	残高 5.1	充塡。	ハケ→ミガキ	ナデ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1～3) 金○	SK4	
251	鉢	底径(20.6) 残高 3.3	脚付鉢。裾部は逆「ハ」の字状に開く。端部は面をもつ。	ハケ→ナデ	ミガキ？	淡黄茶色 淡黄茶色	石・長(1～3) ○	SK4	
252	高坏	底径(19.6) 残高 6.0	裾部は二段になる。円孔(φ1.4cm)は2段となる。	(ほ下)ハケ→ミガキ (ほ絞)ハケ→ミガキ	ナデ	淡明褐色 淡茶褐色	石・長(1～3) 金○	SK4	
253	甕	口径 14.0 残高 10.6	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(に)ハケ→ヨコナデ (り)ハケ (ぬ)ハケ(11本/cm)	(ち)ハケ (ち)ハケ→ナデ	黄茶褐色 乳茶褐色	石・長(1～4) 金○	SK5	
254	甕	口径(14.8) 残高 5.1	稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	(り)ハケ (ぬ)タタキ	(と)マメツ (ち)ハケ	淡灰黄色 淡黄茶色	石・長(1～3) 金○	SK5	
255	甕	口径(16.2) 残高 2.1	口縁端部は面をもつ。	マメツ	ハケ→ナデ	黄茶色 黄茶色	石・長(1～2) 金○	SK5	
256	坏	底径 2.5 残高 1.2	底部は丸みのある平底。	ハケ	ハケ→ナデ	暗灰色 白灰色	石・長(1～4) 金○	SK5	
257	壺	底径 8.2 残高 9.7	底部はやや厚い平底。	ハケ	ハケ→ナデ	淡黄茶色 灰黄色	石・長(1～4) ○	SK5	

SK1～5出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
258	鉢	底径 4.3 残高 8.5	底部はあいまいなたちあがりをもつ平底。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	黄茶色 灰茶色	石・長(1～4) ○	SK5 黒斑	
259	壺	底径 8.5 残高 4.5	底部はあいまいなたちあがりをもつ平底。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	黄茶褐色 灰黄茶色	密 ○	SK5	
260	壺	底径 (6.4) 残高 4.8	底部は丸みをもち平底。	タタキ→ハケ	ハケ	暗黄茶色 明灰色	石・長(1～2) ○	SK5	
261	壺	底径 (4.0) 残高 6.2	底部は厚い平底。	ハケ	ハケ→ナデ	暗茶褐色 暗茶褐色	石・長(1～3) ○	SK5	
262	壺	底径 4.2 残高 5.6	底部は厚い平底。	ハケ(6本／cm)	ハケ	黄茶色 黄茶色	石・長(1～3) ○	SK5 黒斑	
263	壺	底径 3.4 残高 3.8	底部はあいまいなたちあがりをもつやや厚い上げ底。	ケズリ	ハケ	孔灰褐色 淡乳黄色	石・長(1～2) ○	SK5	
264	壺	残高 5.3	肩部下端には羽状文状の刻目凸帯1条。刻目には木口痕。	ハケ→ナデ	(胴)ナデ (頸)ハケ	茶褐色 褐色	石・長(1～3) ○	SK5	
265	鉢	口径(11.3) 器高 4.8 底径 2.2	直口口縁。あいまいな平底。	ナデ	ハケ(5本／cm)	孔灰黄色 黄茶色	石・長(1～2) ○	SK5	
266	鉢	底径 3.7 残高 3.6	直立するたちあがりをもつ上げ底。	ナデ	ナデ(工具痕)	暗茶色 黄褐色	石・長(1～4) ○	SK5	
267	高坏	底径(21.0) 残高 3.9	裾部は二段になる。	(脚上)ハケ→ナデ (脚裾)ヨコナデ	ハケ→ヨコナデ	黄灰色 灰黄褐色	石・長(1～5) ○	SK5	
268	器台	残高 10.9	円孔(φ1.2cm)は3段以上。底縁文は4条1組で2段以上。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) ○	SK5	
269	支脚	底径(15.2) 残高 10.0	ゆるやかに開く裾部。脚端部はあいまいな面をもつ。	ハケ	(柱中)ナデ (柱根)ハケ	暗灰色 暗灰色	石・長(1～6) ○	SK5	
270	支脚	底径(13.7) 残高 7.1	ゆるやかに開く裾部。脚端部は丸みをもつ。	ハケ(マメツ)	ナデ	乳黄茶色 乳黄色	石・長(1～4) ○	SK5	
271	支脚	口径 11.3 器高 15.6 底径 11.2	完形品、受部は一部が「U」の字状になる。	ナデ	(受)ハケ(5本／cm) (支)ナデ (脚)ハケ	淡褐色 淡褐色	石・長(1～3) ○	SK5 黒斑	

表16　SK5出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
272	敲石	完存		9.2	8.9	4.0	480		
273	砥石	約1／3		11.0	11.0	7.2	1210.0		

SK8～12出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
274	鉢	口径(38.2) 残高 5.3	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	淡黄茶色 黄茶色	石・長(1～4) ○	SK8	
275	壺	底径 (4.2) 残高 2.8	底部は平底となる。	ナデ	ナデ	灰黄色 淡乳黄色	石・長(1～3) ○	SK10	

SK 8 ～12出土遺物観察表　土製品　(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
276	壺	底径 (7.6) 残高 6.6	底部はあいまいなたちあがりをもち、平底。	マメツ	ナデ	淡黄褐色 灰黄色	石・長(1～3) 金 ◎	SK10	
277	高坏	残高 7.2	円孔をもつ。	ミガキ(マメツ)	ナデ(マメツ)	淡乳褐色 淡乳褐色	石・長(1～3) ◎	SK10	
278	高坏	底径(21.2) 残高 1.6	ゆるやかに開く裾部。脚端部は面をもつ。	ヨコナデ	ミガキ	灰黄茶色 灰黄茶色	石・長(1) 金 ◎	SK11	
279	壺	口径 (8.0) 残高 10.8	内傾する頸部に直立する口縁部。口縁端部は丸い。	(口縁)ヨコナデ (肩)ハケ(6本/cm)	(口縁)ヨコナデ (肩)ナデ	乳茶褐色 黒褐色	石・長(1～2) ◎	SK12	
280	壺	底径 (4.0) 残高 8.3	底部は平底。	ナデ	ハケ→ナデ	灰茶褐色 暗茶褐色	石・長(1～2) 金 ◎	SK12	

表18　SD 1 出土遺物観察表　土製品　(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
281	甕	口径(26.6) 残高 6.5	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部には面をなす。	(口縁)ハケ→ヨコナデ (口)ハケ(5本/cm) (肩)ハケ	ハケ(7本/cm)	黄褐色 黄褐色	石・長(1～3) ◎		
282	甕	口径(27.4) 残高 5.0	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(マメツ)	ハケ	淡黄茶色 灰黄茶色	石・長(1～5) ◎		
283	甕	口径(19.0) 残高 8.8	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ→ヨコナデ (肩)ナデ	マメツ	黄茶褐色 茶褐色	石・長(1～5) ◎		
284	甕	口径(22.3) 残高 10.7	稜をもって外反する口縁部。内面の屈曲部下には段をもつ。	マメツ	マメツ	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) ◎		
285	甕	口径(17.9) 残高 7.4	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(7本/cm)	(口)ハケ(7本/cm) (肩)ハケ(5本/cm)	軒黄褐色 灰色	石・長(1～4) 金 ◎		
286	甕	口径(16.2) 残高 9.2	稜をもって外反する口縁部。	(口縁)ハケ→ヨコナデ (肩)ハケ(マメツ)	ハケ(マメツ)	茶褐色 茶褐色	石・長(1～4) 金 ◎		
287	甕	口径(15.3) 残高 9.3	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ	ハケ	暗灰色 暗灰色	石・長(1～3) ◎		
288	甕	口径(18.8) 残高 6.5	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	ハケ(7本/cm)	ハケ(7本/cm)	茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) ◎		
289	甕	口径(18.2) 残高 4.0	稜をもって外反する口縁部。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	灰茶褐色 茶褐色	石・長(1～3) ◎		
290	甕	口径(16.0) 残高 6.4	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ	ハケ(9本/cm)	灰黄褐色 灰色	石・長(1～5) ◎		
291	甕	口径(14.9) 残高 4.2	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸みをもつ。	ハケ(9本/cm)	ハケ(8本/cm)	茶褐色 淡黄茶色	石・長(1～2) ◎		
292	甕	口径 16.4 器高 24.7 底径 3.0	稜をもって外反する口縁部。肩部に「ノ」の字の刻突文列。刺突文には木口痕。底部は上げ底。	(口)ハケ→ヨコナデ (肩)ハケ	(口)ハケ→ヨコナデ (肩)ハケ(1部ナデ)	茶褐色 茶褐色	石・長(1～4) 金 ◎	黒斑	14
293	甕	口径(13.2) 残高 5.6	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(マメツ)	(口)マメツ (肩)ナデ	茶褐色 淡黄褐色	石・長(1～5) ◎	黒斑	

SD 1 出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面) (内面)	胎土 焼成	備考	図版
294	甕	口径(16.4) 残高 15.7	あいまいな稜をもって外反する口縁部。胴上半の張りが強い。	マメツ	(口)マメツ (胴)ナデ	茶褐色 淡灰褐色	石・長(1~4) 全 ○	黒斑	
295	甕	口径(13.0) 残高 6.8	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(6本/cm)	ハケ(7本/cm)	灰黄褐色 茶褐色	石・長(1~3) 全 ○		
296	甕	口径(11.4) 残高 4.1	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ(6本/cm)	ハケ(6本/cm)	暗灰褐色 黄茶色	石・長(1~2) 全 ○		
297	甕	口径(10.9) 残高 6.0	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸い。	(口)ヨコナデ (胴)ハケ(マメツ)	(口)ハケ(5本/cm) (胴)ハケ→ナデ	灰茶色 黄茶色	石・長(1~4) 全 ○		
298	甕	口径(12.1) 残高 5.7	あいまいな稜をもって外反する口縁部。口縁端部は丸い。	(口)ハケ→ヨコナデ (胴)ハケ	ハケ	黒灰色 黄茶褐色	石・長(1~4) ○	黒斑	
299	甕	底径 2.6 残高 10.7	底部はわずかに上げ底。器壁は厚い。	ハケ(8本/cm)	ハケ→ケズリ	灰褐色 暗灰褐色	石・長(1~4) ○		
300	甕	底径 2.0 残高 17.2	肩部が強く張る。底部は厚く、小さい上げ底。	ハケ	(胴上)ハケ(8本/cm) (胴下)ハケ→ナデ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~5) ○	煤	
301	甕	底径 3.4 残高 10.2	底部はわずかにたちあがり、上げ底となる。	ハケ(マメツ)	マメツ	灰黄褐色 淡灰色	石・長(1~4) ○	黒斑	
302	甕	底径 4.1 残高 12.1	底部はわずかにたちあがり、上げ底となる。	ハケ	(胴中)ハケ (胴下)ナデ	暗灰褐色 暗灰色	石・長(1~4) 全 ○		
303	甕	底径 4.4 残高 5.4	底部は上げ底。	ハケ(マメツ)	マメツ	灰黄褐色 暗茶褐色	石・長(1~2) ○		
304	甕	底径 2.8 残高 8.4	底部はわずかにたちあがり、上げ底となる。	ハケ(8本/cm)	ハケ→ナデ	暗灰茶色 暗灰茶色	雲 ○		
305	甕	底径 6.2 残高 8.2	底部は平底。	ハケ(4本/cm)	ハケ(5本/cm) →ナデ	灰黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) 全 ○		
306	甕	底径 (3.2) 残高 9.5	底部は厚い平底。	ハケ	ナデ	淡黄茶色 茶褐色	石・長(1~2) ○		
307	甕	底径 4.7 残高 7.7	底部は厚い平底。	ハケ(6本/cm)	ハケ(10本/cm・1部ナデ)	灰黄褐色 灰黄褐色	石・長(1~2) ○		
308	甕	底径 (3.1) 残高 6.5	底部は平底。	ハケ	ハケ	暗灰褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○		
309	甕	底径 4.0 残高 6.3	底部はたちあがり、平底となる。	ハケ(7本/cm・1部ナデ)	ハケ(1部ナデ)	黒灰色 黄茶色	石・長(1~5) 全 ○		
310	甕	口径(12.5) 残高 4.3	外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	ハケ→ヨコナデ	ヨコナデ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) ○		
311	瓷	口径(25.6) 残高 4.3	ゆるやかに外反する口縁部。頸部に「ノ」の字状の刻目凸帯。刻目には木口痕。	ハケ(マメツ)	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1) 全 ○		
312	壺	口径(14.4) 残高 5.4	複合口縁。櫛描き直線文5条1組が2段。櫛描き波状文5条1組、直線文6条1組。	ヨコナデ→施文	ヨコナデ	茶褐色 淡黄褐色	石・長(1~2) ○		

SD 1 出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
313	壺	口径 14.6 残高 7.0	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ハケ→ミガキ (頸)ハケ(マメツ)	ナデ	黄褐色 黄褐色	石・長(1~8) 金 ○		
314	壺	口径(20.6) 残高 5.4	複合口縁。複合口縁部には太沈線3条。	ヨコナデ	ハケ→ナデ	暗茶褐色 乳褐色	密 金 ○		
315	壺	口径 17.4 残高 8.8	複合口縁。複合口縁部には櫛描き波状文4条1組。頸部下端に斜格子目の刻目凸帯文。	(口)マメツ (頸)ハケ→ヨコナデ	ナデ(1部ハケ)	黄茶色 黄茶色	石・長(1~5) 金 ○		
316	壺	口径(18.4) 残高 6.1	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ハケ(5本/cm) (頸)ハケ(7本/cm)	ハケ(6本/cm・1部ナデ)	黄茶色 灰黄色	石・長(1~2) 金 ○		
317	壺	口径(18.9) 残高 3.5	複合口縁。複合口縁部には櫛描き波状文3条1組。	ナデ→施文	ナデ	淡灰褐色 黄褐色	石・長(1~4) ○		
318	壺	口径(12.7) 残高 5.5	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) 金 ○		
319	壺	口径(15.0) 残高 3.4	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ	ハケ→ヨコナデ	灰黄褐色 黄茶褐色	石・長(1~3) ○		
320	壺	口径(17.5) 残高 5.4	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ヨコナデ (頸)ハケ	(口)ヨコナデ (頸)ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~3) ○		
321	壺	口径(14.2) 残高 4.1	複合口縁。複合口縁部は無文。	マメツ	ハケ→ナデ	淡灰茶色 乳黄色	石・長(1~2) ○		
322	壺	口径(13.3) 残高 6.4	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ハケ→ヨコナデ (頸)ハケ	(口)ハケ (頸)ハケ→ナデ	黄茶色 黒褐色	石・長(1~2) ○		
323	壺	残高 6.1	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ナデ (頸)ハケ(4本/cm)	ハケ(5~7本/cm)	茶褐色 黄茶褐色	密 ○		
324	壺	口径(12.4) 残高 3.0	複合口縁。複合口縁部は櫛描き波状文4条1組。	ナデ→施文	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ○		
325	壺	残高 7.1	複合口縁壺の頸部。頸部に三角形の凸帯。	ハケ	ナデ	淡黄茶色 淡茶褐色	石・長(1~2) ○		
326	壺	残高 5.9	複合口縁壺の頸部。頸部下端に刻目凸帯。凸帯上はナデ円む。	(口)マメツ (頸)ハケ(4本/cm)	(口)マメツ (頸)ミガキ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) ○		
327	壺	残高 6.2	複合口縁壺の頸部。頸部下端には斜格子の刻目凸帯。刻目には木口痕。	ハケ→ナデ	(口)ハケ→ナデ (頸)ナデ	淡褐色 乳褐色	石・長(1~4) ○		
328	壺	残高 7.4	複合口縁壺の頸部。頸部下端には「ノ」の字状の刻目凸帯。	マメツ	マメツ	黄灰褐色 茶褐色	石・長(1~5) ○		
329	壺	口径 (9.8) 残高 19.4	直立する長い頸部に、短く外反する口縁部。	ナデ	ナデ(1部ハケ)	淡黄色 暗灰色	石・長(1~4) ○		
330	壺	口径(12.4) 残高 4.4	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ(1部ヨコナデ)	ハケ	黄茶色 淡黄茶色	石・長(1~3) ○		
331	壺	口径(12.8) 残高 4.9	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ→ヨコナデ	ハケ→ナデ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) ○		

SD1出土遺物観察表　土製品

(4)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
332	壺	口径(17.7) 残高 8.1	口縁部はゆるやかに外反する。	(口縁)ハケ→ヨコナデ (頸)ハケ(6本/cm)	ハケ(7本/cm・マメツ)	淡黄褐色 黄茶褐色	石・長(1~3) 金○		
333	壺	口径(13.1) 残高 6.4	口縁部は短く外反する。口縁端部は面をもつ。	(口縁)ハケ→ヨコナデ (口)ハケ	ハケ→ナデ	鮭黄茶色 暗灰黄色	砂粒 ○		
334	壺	口径(7.6) 残高 5.5	口縁部は内湾してたちあがる。口縁端部は丸い。	ナデ	ナデ	灰茶褐色 乳褐色	石・長(1~2) ○		
335	壺	口径(6.8) 残高 9.0	口頸部は直立してたちあがる。口縁端部は面をもつ。	ハケ→ミガキ	ナデ(1部ヨコナデ)	淡黄茶色 淡黄色	砂粒 金○		
336	壺	残高 9.8	胴部は長く直立する。胴部下端には「ノ」の字状の刺目凸帯。	ハケ(マメツ)	ナデ(マメツ)	茶褐色 黄灰茶色	石・長(1~6) 金○		
337	壺	残高 5.6	櫛描き直線文5条1組と「ノ」の字状の刺突文列1段。	ハケ	ナデ(1部ハケ)	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) ○		
338	壺	残高 (2.7)	「ノ」の字状の刺突文列1段。	マメツ	ナデ	褐色 褐色	石・長(1~2) 金○		
339	壺	底径 4.4 残高 20.3	胴部は長く直立する。胴部は中位が張り、底部は突出する広い平底。	ハケ	ハケ(1部ナデ)	淡褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 金○		
340	壺	底径 4.8 残高 16.6	胴部は胴部に張りをもつ。底部は平底。	ハケ(6本/cm・マメツ)	ナデ(1部ハケ)	黄茶色 黒灰色	石・長(1~4) ○		
341	壺	底径 1.8 残高 8.7	胴部は最平球で、底部は、小さく突出する平底。	ミガキ	ナデ	淡黄茶色 暗黄灰色	石・長(1~3) 金○		
342	壺	底径 (5.3) 残高 14.3	底部はたちあがりをもち、厚い平底。	ハケ(8本/cm)→ミガキ一部ナデ	ハケ(7本/cm) ナデ	淡黄茶色 黒茶色	砂・長(1~5) 金○	黒斑	
343	壺	底径 5.1 残高 10.9	底部はあいまいなたちあがりをもち、半底となる。	ハケ→ミガキ	ハケ(14本/cm・1部ナデ)	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~4) 金○	黒斑	
344	壺	底径 (8.7) 残高 4.0	底部は小さくたちあがり、大きな平底となる。	ハケ(1部ナデ)	ナデ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~4) ○		
345	壺	底径 (8.8) 残高 8.1	底部は厚い平底。	ナデ(工具痕)	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	砂・長(1~3) ○		
346	壺	底径 7.3 残高 10.4	底部は中央がやや上がる。	マメツ	マメツ	淡茶色 乳茶色	石・長(1~5) ○	黒斑	
347	壺	底径 3.4 残高 9.7	底部は厚く平底。	(胴中)ハケ(8本/cm) (胴下)ナデ(工具)	ハケ(9本/cm・1部ナデ)	乳茶褐色 黄茶褐色	砂粒 ○	黒斑	
348	壺	底径 4.4 残高 11.3	胴部は下半部にふくらみをもつ。底部は平底。	ミガキ	ナデ	乳茶褐色 暗灰色	石・長(1~5) 金○	黒斑	
349	壺	底径 2.4 残高 6.2	底部は小さい凹み底となる。	ハケ(1部ナデ)	ハケ→ナデ	暗茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) 金○	黒斑	
350	壺	口径(18.3) 残高 2.5	壺ないし器台。口縁部は拡張し、端面には3条の沈線と刺目の棒状浮文。	ナデ→施文	ヨコナデ	黄茶色 黄茶色	石・長(1~4) ○		

SD 1 出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
351	壺	残高 4.3	頸部片。刻目凸帯2条。	マメツ	マメツ	淡黄茶色 淡黄茶色	石・長(1~2) ○		
352	鉢	口径(34.9) 残高 7.8	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	ナデ	ハケ	淡黄褐色 暗灰褐色	石・長(1~3) 金○		
353	鉢	口径(26.1) 残高 9.7	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ(9本/cm)	ハケ(8本/cm)	灰茶褐色 灰茶褐色	砂粒 金○		
354	鉢	口径(23.1) 器高 7.7 底径 4.6	口縁部はあいまいな稜をもって外反する。底部は短くたちあがり、平底。	ハケ→ミガキ	マメツ	乳茶褐色 乳茶褐色	心・長(1~4) ○		
355	鉢	口径(19.7) 残高 8.9	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	(ア) ヨコナデ (イ) ナデ(工具痕)	(ウ) ミガキ→1部ナデ (エ) ミガキ	淡黄褐色 暗灰褐色	石・長(1~3) 金○		
356	鉢	口径(17.0) 残高 8.1	口縁部はあいまいな面をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ	(ウ) ヨコナデ (エ) マメツ	茶褐色 黄茶色	石・長(1~3) 金○		
357	鉢	口径(15.8) 残高 4.6	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	(ア) ヨコナデ (オ) ハケ(マメツ)	(イ) ヨコナデ (カ) ハケ(マメツ)	淡黄茶色 乳黄色	石・長(1~2) 金○		
358	鉢	残高 6.6	口縁部は稜をもって外反する。胴上位が張る。	(ア) ハケ→ヨコナデ (キ) ハケ→ミガキ	(イ) ヨコナデ (ク) ナデ	淡灰黄褐色 淡灰黄褐色	石・長(1~4) 金○		
359	鉢	底径 1.9 残高 8.5	胴上位は張り、底部はたちあがり、平底となる。	ハケ(マメツ)	ハケ→ナデ	乳褐色 淡灰色	心・長(1~3) 金○	黒鹿	
360	鉢	口径(13.2) 残高 5.2	直口口縁。口縁端部はあいまいな面をもつ。	ナデ	ハケ	暗乳茶色 灰黄茶色	石・長(1~2) ○		
361	鉢	口径 (6.4) 残高 5.7	胴部は内湾ぎみにたちあがる。口縁部はわずかに外反する。	ナデ	ナデ	淡灰黄色 淡灰黄色	石・長(1~2) ○		
362	鉢	底径 (4.4) 残高 2.4	底部はたちあがり、上げ底となる。	ハケ→ミガキ 1部ナデ(指頭痕)	ミガキ	灰褐色 淡茶褐色	心・長(1~2) 金○	黒鹿	
363	鉢	底径 (7.0) 残高 4.7	底部はたちあがり、上げ底となる。	ハケ(9本/cm) 1部ナデ(指頭痕)	ハケ→ナデ	灰黄茶色 黄茶色	石・長(1~3) 金○		
364	鉢	底径 6.1 残高 5.4	底部はくびれ、平底となる。	ハケ 1部ナデ(指頭痕)	ハケ	灰黄色 暗茶褐色	砂粒 金○	黒斑	
365	鉢	底径 6.0 残高 5.0	底部はあいまいなたちあがりをもち、上げ底となる。	ハケ 1部ナデ(指頭痕)	ハケ	灰黄茶色 茶褐色	心・長(1~3) ○		
366	鉢	底径 3.4 残高 5.3	底部はくびれ、平底となる。	ハケ(マメツ)1部ナデ(指頭痕)	ナデ	灰黄茶色 茶褐色	砂粒 ○		
367	鉢	底径 4.5 残高 4.6	底部はたちあがり、上げ底となる。	ナデ(指頭痕)	ナデ	灰茶褐色 灰黄色	石・長(1~2) ○		
368	鉢	底径 3.2 残高 5.1	底部はたちあがり、上げ底となる。	ナデ(マメツ)	マメツ	茶褐色 茶褐色	心・長(1~2) ○		
369	鉢	残高 8.7	台付鉢。大きくくびれる、上げ底をもつ。	ハケ	ハケ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~3) 金○		

SD 1 出土遺物観察表　土製品

(5)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
370	鉢	底径 7.4 残高 5.9	台付鉢。大きくくびれる上げ底をもつ。	ハケ(1部ヨコナデ)	ハケ→ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~2) ◎	黒斑	
371	鉢	残高 3.4	台付鉢。大きくくびれる上げ底をもつ。	マメツ	マメツ	淡黄茶色 茶褐色	心・長(1~3) ◎		
372	鉢	底径(12.5) 残高 1.9	脚付鉢。有軸有状文充填の三角文をもつ。	マメツ	ハケ→ヨコナデ	淡黄茶色 淡黄茶色	石・長(1~2) 金 ◎		14
373	高坏	LI径(19.4) 残高 4.3	口縁部は外面に稜をもって大きく開く。	ミガキ	ナデ	茶褐色 黒褐色	石・長(1~3) ◎		
374	高坏	口径(16.2) 残高 5.4	口縁部は外面に稜をもって大きく開く。	マメツ	マメツ	乳黄茶色 乳黄茶色	石・長(1~4) ◎		
375	高坏	残高 3.1	LI縁部は外面に段をもって大きく開く。	ミガキ(1部ヨコナデ)	ハケ→ミガキ	黒灰色 淡黄色	石・長(1~2) 金 ◎		
376	高坏	残高 2.2	屈曲部は、成形時の粘土貼り付けの段をもつ。	ハケ(マメツ)	マメツ	茶褐色 淡茶褐色	砂粒 ◎		
377	高坏	残高 13.9	円孔(φ1.7cm)は4ケ2段。充填。	ハケ→ミガキ	(脚下)シボリ痕 (脚中)ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
378	高坏	残高 5.3	円孔(φ0.7cm)は2ケ以上。	ミガキ	ナデ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		
379	高坏	底径(12.6) 残高 2.2	円孔(φ0.9cm)は2ケ以上。	ハケ	ハケ→ヨコナデ	茶褐色 暗褐色	心・長(1~2) 金 ◎		
380	高坏	残高 12.3	柱部と裾部の境に明瞭な稜をもつ。	ハケ→ミガキ	(杯底)ミガキ (脚)1部ナデ (裾)ハケ→ナデ	茶褐色 茶褐色	密 ◎		
381	高坏	残高 12.5	裾部は2段となる。半截竹管文2列。上段には円孔。	ミガキ	ハケ→ナデ	淡茶色 淡茶色	石・長(1~2) 金 ◎		
382	高坏	残高 2.3	裾部は2段となる。竹管文2列。段上部には刻目。	ミガキ	ハケ	淡茶色 淡茶色	心・長(1~2) 金 ◎		
383	器台	口径(21.5) 残高 2.5	LI縁端部はやや拡張。	ナデ	ナデ	乳褐色 乳褐色	石・長(1~4) 金 ◎		
384	器台	LI径(22.4) 残高 4.7	口縁端部は垂下する。	(口縁)ヨコナデ (脚)ハケ	マメツ	黄茶色 白黄色	石・長(1~3) 金 ◎		
385	器台	口径(24.0) 残高 1.9	口縁端部は刻目をもつ。	ミガキ	ハケ→ミガキ	淡茶褐色 淡茶褐色	砂粒 金 ◎		
386	器台	口径(23.0) 残高 1.8	LI縁端部はわずかに拡張する。	ヨコナデ	ヨコナデ	淡褐色 淡褐色	砂粒 金 ◎		
387	器台	残高 17.0	円孔(φ1.2cm)は4ケ3段。	ハケ→ミガキ	ハケ→ナデ	黄褐色 黄褐色	心・長(1~3) 金 ◎		
388	支脚	底径(15.8) 残高5.1	裾部はゆるやかに開く。	ナデ	ナデ	乳茶色 乳茶色	石・長(1~4) 金 ◎		

表19　A・B区出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
389	甕	口径(17.5) 残高 7.9	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部はあいまいな面をもつ。	(山)ハケ→ヨコナデ (洞)タタキ→ハケ	(口)ハケ→ヨコナデ (洞)ハケ→ナデ	茶褐色 黄茶褐色	密 ○	A区	
390	甕	口径(16.3) 残高 6.3	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	(口)ハケ (洞)タタキ→ハケ	(口)ハケ (洞)ハケ→ナデ	茶褐色 淡茶褐色	砂粒 金 ○	A区	
391	甕	口径(12.6) 残高 10.7	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は一部が面となる。	(山)ハケ (洞)タタキ→ハケ	(口)マメツ (洞)ハケ→ナデ	暗灰茶色 暗茶色	石・長(1~7) ○	A区	
392	甕	口径(12.0) 残高 6.2	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	(口)ヨコナデ (洞)タタキ→ハケ	(山)ハケ→ヨコナデ (洞)ハケ	乳黄茶色 乳灰茶色	石・長(1~2) ○	A区	
393	甕	口径(10.8) 残高 5.0	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は丸い。	(口)ヨコナデ (洞)ハケ→ナデ	ハケ	灰茶褐色 灰黄茶色	石・長(1~3) ○	A区	
394	壺	口径(5.4) 残高 5.4	細長頸壺。細沈線20条。	ミガキ	ナデ(工具痕)	淡黄色 淡茶色	石・長(1~2) ○	A区	
395	壺	口径 20.8 器高 34.0 底径 4.7	復元完形品。口縁部は大きく開き、端部は面をもつ。底部は丸みをもつ平底。	(山)(洞)ハケ→ヨコナデ (洞)ハケ (洞)タタキ→ハケ	ハケ	淡茶色 黒褐色	石・長(1~2) 金 ○	黒斑 A区	14
396	鉢	口径(18.7) 残高 4.4	直口口縁。口縁端部は丸い。	ハケ→ナデ	ハケ→ナデ	黒茶色 乳黄茶褐色	石・長(1~3) ○	A区	
397	鉢	口径(46.2) 残高 13.4	稜をもって外反する口縁部。口縁端部は面をもつ。	(山)ヨコナデ (洞)タタキ→ハケ	(口)ハケ (洞)ミガキ	淡茶色 乳茶色	石・長(1~6) ○	A区	
398	器台	口径(27.0)	口縁端部は垂下する。	ヨコナデ	ハケ	灰茶褐色 暗灰色	石・長(1~4) ○	A区	
399	器台	口径(30.8)	口縁端部は拡張する。端面には櫛描き波状文と竹管文いり円形浮文。	ハケ→施文	ハケ→ミガキ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~4) 金 ○	A区	
400	器台	口径(22.6)	口縁端面には半截竹管文3段。	ヨコナデ→施文	マメツ	黄茶褐色 黄茶褐色	石・長(1~2) 金 ○	A区	
401	器台	口径(32.2)	口縁上面には櫛描き波状文4条。	ハケ	ハケ→施文	乳黄茶色 灰茶色	砂粒 ○	A区	
402	支脚	底径 (8.4) 器高 5.7	受部は傾斜する。	ハケ→ナデ	ナデ	淡茶褐色 淡茶褐色	長(5) 金 ○	A区	
403	甕	底径 1.9 器高 17.6	口縁部は稜をもって外反する。底部は丸みのある平底。	ハケ(マメツ)	ハケ→ナデ	乳黄茶色 乳灰茶色	石・長(1~4) ○	B区	
404	甕	口径(13.0) 残高 7.9	口縁部はあいまいな稜をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ(6本/cm)	(口)ハケ(7本/cm) (洞)ハケ(6本/cm)→ナデ	黄茶色 黄白色	石・長(1~4) 金 ○	B区	
405	壺	口径(13.4) 残高 3.5	複合口縁。複合口縁部は無文。	(口)ヨコナデ (洞)ハケ→ナデ	ナデ	淡茶色 淡黄色	石・長(1~3) ○	B区	
406	壺	口径(21.0) 残高 6.4	複合口縁。複合口縁部には木口による「ノ」の字状文列3段。接合部外面上は刻目。	マメツ	マメツ	黄茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ○	B区	
407	壺	底径 6.6 残高 10.8	底部は、あいまいなたちあがりをもち上げ底。	ハケ	ハケ→ナデ	茶褐色 淡褐色	石・長(1~6) ○	黒斑 B区	

A・B区出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
408	鉢	口径(27.2) 残高 11.3	口縁部は稜をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	ハケ(8本/cm)	(ハ) ハケ(9本/cm) (ナ) ハケ(8本/cm)→ナデ	淡黄茶色 淡黄茶色	石・長(1~3) ◎		B区
409	鉢	口径(18.9) 残高 7.2	口縁部は稜をもって外反する。器厚は薄い。	(ヨ) ハケ→ヨコナデ (ハ) ハケ(13本/cm)	(ヨ) ハケ→ヨコナデ (ナ) ハケ(10本/cm)	灰褐色 茶褐色	石・長(1~3) ◎		B区
410	高坏	残高 17.5	内孔(φ2.0cm)は3段で、上部より2ヶ、3ヶ、4ヶ。充填。	ハケ→ミガキ	(ミガキ)ミガキ (ケズリ)ケズリ (ナデ)ナデ (ハケ)ハケ	淡茶色 淡茶色	石・長(1~2) 金◎		B区
411	器台	口径(24.0)	口縁端部は垂下する。端面には半截竹管文3段と円形浮文。	ヨコナデ	マメツ	黄白色 黄茶色	石・長(1~3) 金◎		B区
412	器台	底径(18.8) 残高 3.6	脚部はゆるやかに開く。脚端部は面をもつ。	ハケ→ヨコナデ	ハケ→ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~3) ◎		B区

表20　B区出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
413	石庖丁	完存	結晶片岩	7.6	4.4	0.8	36.2	未製品	14
414	石庖丁	完存	安山岩系	8.9	4.5	1.3	63.8	未製品	14

表21　地点不明出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
415	壺	口径(10.8) 残高 6.6	複合口縁。複合口縁部には2条1組の波状文。	(ヨ) ハケ→施文 (ハ) ハケ	ナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 金◎		
416	壺	口径(8.4) 残高 4.7	複合口縁。複合口縁部には擬描き波状文(4条1組)。	(ヨ) ヨコナデ→施文 (ミ) ハケ→ミガキ	(ヨ) ヨコナデ (ハ) ハケ	茶褐色 茶褐色	石・長(1~2) 金◎		
417	壺	口径(14.2) 残高 13.9	頸部は内傾し、口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は面をもつ。	(ヨ) ヨコナデ (マ) マメツ(工具痕)	マメツ(1部ナデ)	茶褐色 黄灰色	石・長(1~3) ◎		
418	壺	残高 11.0	頸部下端に斜位子の刻目をもつ。	マメツ	ナデ	乳灰色 淡茶褐色	石・長(1~4) ○		
419	壺	底径(5.6) 残高 7.0	底部はあいまいなたちあがりをもつ。上げ底。	ハケ	ハケ→ナデ	暗褐色 黒灰色	石・長(1~4) ○		
420	壺	底径 2.5 残高 9.3	胴部下半はふくらみ、底部は丸みをもつ平底。	ハケ(8本/cm)	ハケ(1部ナデ)	淡茶褐色 淡茶褐色	小・長(1~3) 金◎	黒斑	
421	鉢	口径(21.0) 残高 5.1	直口口縁。口縁端部は面をもつ。	(ヨ) ヨコナデ (ハ) ハケ(6本/cm)	(ヨ) ヨコナデ (ハ) ハケ(5本/cm)	黄灰色 黄灰色	石・長(1~3) 金◎		
422	鉢	口径(28.9) 残高 4.3	直口口縁。口縁端部は面をもつ。	ハケ→ミガキ	ハケ→ミガキ	灰黄茶色 茶褐色	石・長(1~2) ◎		
423	鉢	口径(17.7) 残高 3.5	口縁部は稜をもって外反する。	マメツ	(ヨ) ハケ→ヨコナデ (ハ) ハケ	乳黄茶色 褐色	砂粒 ◎		
424	鉢	底径(5.9) 残高 3.0	底部はたちあがりをもつ平底。	マメツ	マメツ	灰褐色 黒褐色	石・長(1~6) 金○	黒斑	
425	鉢	底径(9.2) 残高 5.7	底部はたちあがりをもつ上げ底。	ハケ	ナデ	乳褐色 灰黄褐色	石・長(1~3) 金○		

表22　掘立6出土遺物観察表　土製品

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
426	坏身	口径(13.3) 残高 3.1	マメツ著しい。受け部は丸みをもち、内傾してたちあがる。	回転ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	石・長(1) ◎		

表23　包含層(古代)出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
427	坏蓋	口径(17.8) 器高 2.4	天上部はやや丸みをもつ。口縁端部は内方へ屈曲する。	(天) 回転ヘラ削り2/3 (口) 回転ナデ	回転ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1) ◎		
428	坏蓋	口径(19.5) 残高 0.8	口縁端部は内方へ屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡青灰色	石・長(1~2) ◎		
429	坏蓋	つまみ径 3.5 残高 2.0	扁平な擬宝珠様のつまみ。	(つまみ) 回転ナデ (天) 回転ヘラ削り	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
430	坏蓋	つまみ径 2.6 残高 1.9	扁平な擬宝珠様のつまみ。	(つまみ) 回転ナデ (天) 回転ヘラ削り	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密 ○		
431	坏身	口径(12.2) 残高 1.5	たちあがりは短かく内傾。端部は丸い。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
432	坏身	残高 2.8	たちあがりは短かく内傾。	(口) 回転ナデ (底) 回転ヘラ削り1/2	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ◎		
433	坏	口径(13.0) 器高 4.6	やや平らな底部。口縁部は上外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
434	坏	残高 4.0	丸みのある底部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
435	坏	口径(10.3) 器高 4.2 底径 (7.2)	底部は平坦で、口縁部は直立ぎみにたつも、なお上外方へ開く。	(口) 回転ナデ (底) マメツ	マメツ	乳灰色 乳灰黄色	石・長(1~2) ○		
436	坏	口径(13.0) 器高 3.0 底径 (9.4)	底部は平坦で、口縁部は上外方に直線的に開く。	回転ナデ	回転ナデ	灰黄色 淡黄灰色	石・長(1~2) ○		
437	坏	口径(17.6) 器高 4.4 底径(10.9)	高台のつく坏。高台は「ハ」の字状につく。端部は内端面が接地する。	(口) 回転ナデ (底) ナデ	回転ナデ	灰色 乳灰色	石・長(1~2) ◎		
438	坏	口径(15.8) 器高 4.0 底径(12.0)	高台のつく坏。高台は「ハ」の字状につく。端部は内端面が接地する。	(口) 回転ナデ (底) ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	石・長(1~2) ◎		
439	坏	口径 17.8 器高 4.5 底径 11.5	高台のつく坏。口縁部はわずかながらS字形のカーブを描く。高台の接地面は垂平化する。	(口) 回転ナデ (底) 回転ヘラ削り	(口) 回転ナデ (底) ナデ	灰色 灰色	密 ◎		
440	坏	口径(17.3) 器高 4.6 底径(13.2)	高台のつく坏。口縁部はわずかに外方へ開く。高台の接地面は垂平化。	(口) 回転ナデ (底) ナデ	(口) 回転ナデ (底) ナデ	灰色 灰色	石・長(1~3) ◎		
441	坏	底径(10.8) 残高 2.8	高台のつく坏。接地面は段をもち、内端部が接する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
442	坏	底径 (9.0) 残高 2.0	高台のつく坏。接地面は段をもち、内端部が接する。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	石・長(1~2) ◎		
443	坏	底径 (8.0) 残高 1.5	高台のつく坏。マメツ著しい。内端部が接する。	回転ナデ	ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ◎		

包含層(古代)出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調 (外面)/(内面)	胎土 焼成	備考	図版
444	坏	底径 (9.3) 残高 1.9	高台のつく坏。接地面は外端部がわずかに上外方へ突出する。	回転ヘラ削り	ナデ	乳灰色 乳灰色	密 ○		
445	坏	底径(12.4) 残高 1.7	高台のつく坏。接地面は垂平になる。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	砂粒 ○		
446	坏	底径 (9.9) 残高 2.2	高台のつく坏。接地面は外端部がわずかに上外方に突出する。	回転ナデ	回転ナデ	乳灰色 乳灰色	密 ○		
447	坏	口径(11.0) 器高 3.8 底径 (6.5)	高台のつく小型の坏。口縁部は上外方に開く。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰褐色 淡灰褐色	石・長(1) ○		
448	坏	底径 (6.9) 残高 2.3	高台のつく小型の坏。接地面は垂平になる。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	石・長(1) ○		
449	坏	底径 (8.6) 残高 1.3	高台のつく小型の坏。接地面は垂平になる。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
450	皿	口径(15.9) 器高 1.7 底径(13.2)	口縁部は端部が外反ぎみにたちあがる。	回転ナデ	回転ナデ	乳黄灰色 乳黄灰色	密 ○		
451	盌	底径(10.7) 残高 3.5	高台付の盌か。接地面は、内端部が接する。	回転ナデ	回転ナデ	青灰色 青灰色	密 ○		
452	高坏	残高 6.8	無盌高坏の脚部。	回転ナデ	回転ナデ	灰色 灰色	密 ○		
453	高坏	残高 5.4	人型の高坏脚部片。	回転ナデ	回転ナデ	淡灰色 淡灰色	密 ○		
454	壺	口径(22.6) 残高 5.1	口縁部はゆるやかに外反する。口縁端部は内側に小さく突出部をもつ。	マメツ	マメツ	淡灰色 淡灰色	密 ○		
455	鉢	口径(34.0) 残高 10.5	口縁部は内湾してたちあがり、端部は丸みをもつ。	(口縁)回転ナデ (胴)タタキ	回転ナデ	灰茶色 灰茶色	石・長(1~2) ○		
456	坏蓋	口径(23.4) 残高 1.6	鍔内産。口縁端部は内方に屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	茶色 茶色	密 ○		
457	坏蓋	口径(24.4) 残高 1.7	鍔内産。口縁端部は内方に屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	茶色 茶色	密 ○		
458	坏蓋	つまみ径 2.2 残高 1.4	鍔内産。大きく扁平なつまみ。	回転ナデ	マメツ	茶色 茶色	密 ○		
459	坏蓋	口径(26.4) 残高 2.7	口縁端部は内方に屈曲する。器壁が厚い。	回転ナデ	回転ナデ	淡茶褐色 乳黄茶色	石・長(1~2) ○		
460	坏	口径(15.5) 残高 3.0	口縁部は内湾してたちあがり、端部は内方に突出する。一段の暗文がある。	回転ナデ	回転ナデ→暗文	淡茶褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) ○		
461	坏	口径 (9.7) 残高 1.7	坏ないし皿。口縁部は内湾しながらたちあがる。	回転ナデ	回転ナデ	黄橙色 黄橙色	密 ○		
462	坏	口径(14.0) 残高 3.0	口縁部は内湾してたちあがり、端部は面をもち、内傾する。	回転ナデ	回転ナデ	淡橙色 淡橙色	石・長(1~2) ○		

包含層(古代)出土遺物観察表　土製品

(3)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
463	皿	口径(20.6) 器高 3.0 底径(16.5)	口縁部は内湾してたちあがる。端部は丸い。	㈠ 回転ナデ ㈡ 回転ヘラ切り	回転ナデ	灰褐色 暗褐色	密 金◎ ○		
464	皿	口径(16.9) 器高 1.8 底径(13.5)	口縁部は端部が外反してたちあがり、内側には凹みをもつ。	回転ナデ	回転ナデ	乳茶褐色 乳茶褐色	石・長(1~2) ◎		
465	坏	底径(15.4) 残高 1.5	高台のつく坏。接地面はナデ凹み、内端部が稜する。	回転ナデ	回転ナデ	乳茶色 乳茶色	粗 ◎	丹彩	
466	坏	底径(15.7) 残高 2.1	高台のつく坏。接地面は丸みをもち、内端部が稜する。	回転ナデ	回転ナデ	黄茶褐色 茶褐色	密 ◎		
467	高坏	口径(22.1) 残高 2.5	高坏の坏部。口縁部は内湾してたちあがり、端部は内方に屈曲する。	回転ナデ	回転ナデ	淡赤褐色 淡褐色	密 ◎		
468	甕	口径(20.4) 残高 4.1	口縁部は棱をもって外反する。口縁端部は面をもつ。	マメツ	ハケ(4本/cm)	茶褐色 茶褐色	石・長(1~4) ◎		
469	鉢	底径(26.0) 残高 5.4	高台付鉢か。底恋質にちかい。接地面は外端部がわずかに外方に突出する。	回転ナデ	回転ナデ	淡黄色 淡黄色	密 ◎		
470	瓦	残長 10.4 残幅 9.7 厚さ 2.5	細縄目痕。布目痕。	タタキ(1部糸切り痕)	布目痕	淡灰色 淡灰色			14
471	瓦	残長 6.6 残幅 2.5 厚さ 1.7	綱縄口痕。	タタキ	布目痕	淡灰色 淡灰色			14

表24　包含層(古代)出土遺物観察表　石製品

番号	器種	残存	材質	法量 長さ(cm)	法量 幅(cm)	法量 厚さ(cm)	法量 重さ(g)	備考	図版
472	砥石	約1/2		10.2	5.9	1.9~4.8	294.4		14

表25　包含層(中近世)出土遺物観察表　土製品

(1)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	(外面)色調 (内面)	胎土 焼成	備考	図版
473	坏	底径 (8.2) 残高 1.7	輪高台のつく坏。「ハ」の字状で、高い高台。	マメツ	マメツ	橙褐色 橙褐色	密 ○		
474	坏	底径 (7.6) 残高 2.4	円盤高台のつく坏。高台は、やや「ハ」の字状にたちあがる。	回転ナデ	回転ナデ	茶色 白茶色	石・長(1~2) 金◎ ◎		
475	坏	口径(10.4) 器高 3.4 底径 7.7	口縁部は内湾して直立ぎみにたちあがる。底部はヘラ切り。	㈠ 回転ナデ ㈡ ヘラ切り	回転ナデ	乳黄褐色 乳褐色	石・長(1~2) ◎		
476	坏	口径(10.7) 器高 2.7 底径 7.4	口縁部は内湾して直立ぎみにたちあがる。底部は糸切りか。	㈠ 回転ナデ ㈡ 回転糸切り	回転ナデ	茶褐色 茶褐色	密 ◎		
477	坏	口径 (9.3) 器高 2.7 底径 (6.4)	口縁部は内湾し、直立してたちあがる。底部はヘラ切りの可能性をもつ。	㈠ 回転ナデ ㈡ ヘラ切り	回転ナデ	淡黄褐色 淡茶褐色	石・長(1~3) 金◎ ◎		
478	坏	口径 11.4 器高 2.3 底径 9.2	口縁部は外反してたちあがる。底部はヘラ切り。	㈠ 回転ナデ ㈡ ヘラ切り	回転ナデ	暗灰褐色 灰褐色	石・長(1~2) ◎		
479	坏	口径 11.4 器高 2.4 底径 9.2	口縁部は直線的で、外傾してたちあがる。底部は切りはなし小明。	㈠ 回転ナデ	回転ナデ	乳黄茶色 乳黄茶色	密 ◎		

包含層(中近世)出土遺物観察表　土製品

(2)

番号	器種	法量(cm)	形態・施文	調整 外面	調整 内面	色調(外面)(内面)	胎土 焼成	備考	図版
480	皿	口径(9.8) 器高 2.2 底径 (6.3)	口縁部は内湾ぎみに外傾してたちあがる。底部は糸切り。	(ロ)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	淡茶色 淡茶色	密 ○		
481	皿	口径(12.4) 器高 2.6 底径 (6.7)	口縁部は内湾し外傾してたちあがる。底部は糸切り。	(ロ)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	白茶色 白茶色	密 ◎		
482	皿	口径(11.2) 器高 1.9 底径 6.5	口縁部は外反してたちあがる。	回転ナデ	回転ナデ	黄茶色 黄茶色	密 ◎		
483	皿	底径 5.0 残高 1.3	底部は糸切り。中央部に焼成後の内孔(φ4.5mm)をもつ。	(胎)回転ナデ (底)回転糸切り	回転ナデ	淡橙色 淡橙色	石・長(1~2) ◎		
484	釜	残高 2.3	口縁部は内湾し、外面には断面三角形の凸帯を貼り付ける。	ナデ	ナデ	暗黄褐色 暗黄褐色	石・長(1~3) ◎		
485	釜	口径(21.1) 残高 3.8	口縁部は内湾し、外面には断面三角形の凸帯を貼り付ける。	ナデ	マメツ	灰茶色 灰黄茶色	石・長(1~2) ◎		
486	釜	口径(22.4) 残高 3.1	口縁部は内湾し、外面には断面三角形の凸帯を貼り付ける。	ナデ	マメツ	暗黄茶色 暗黄茶色	石・長(1~2) 雲◎	煤	
487	釜	口径(26.4) 残高 3.9	口縁部は内湾し、外面には断面三角形の凸帯を貼り付ける。	ナデ	ナデ	暗茶褐色 淡灰褐色	石・長(1~3) 雲◎		
488	釜	残高 7.2	胴部は直立し、鍔は外方に長くのびる。	ナデ	ナデ	淡灰褐色 灰茶褐色	石・長(1~4) ◎		
489	釜	残高 7.6	胴部はやや丸みをもち、鍔は断面三角形を呈する。	ナデ	ナデ	灰色 黄灰色	石・長(1~2) ◎		
490	釜	口径(43.6) 残高 8.2	口縁部は外反し、口縁端部は面をもつ。	(ロ)ヨコナデ (胴)ハケ(6本/cm)	ハケ(6本/cm)	黒灰色 黒灰色	石・長(1~4) ◎		
491	鍋	口径(33.8) 残高 6.9	口縁部はゆるやかに外反し、内側には内耳をもつ。	マメツ	ナデ	淡灰褐色 乳灰色	密 雲○	黒斑	
492	鍋	口径(32.2) 残高 3.9	口縁部は逆「L」字状に折り曲げられる。	ナデ	ヨコナデ	黒灰色 灰黄茶色	密 雲◎		
493	擂鉢	口径(32.6) 残高 5.2	口縁外面は3条の凹線をもつ。頸部は段となる。内面は櫛描きの条線。	(ロ)ヨコナデ (胴)ケズリ	ヨコナデ	褐色 茶色	密 雲◎		
494	擂鉢	口径(29.0) 残高 5.5	口縁外面は面をもち2条の凹線をもつ。頸部は段となる。胴部内面には櫛描きの条線。	(ロ)ヨコナデ (胴)ナデ	(ロ)ヨコナデ (胴)ナデ	茶色 赤茶色	密 ◎		
495	火鉢	底径(20.7) 残高 11.6	逆台形状の脚部をもつ。	ナデ	ナデ	黒灰色 黒色	石・長(1~2) 雲◎		
496	碗	残高 1.6	貿易陶磁器。青磁碗。口縁端部は外反し、丸い。	釉付着	釉付着	淡緑色 淡緑色	密 ◎		
497	碗	底径 (5.0) 残高 3.0	貿易陶磁器。青磁碗。高台の内面と底部外面は施釉がない。	釉付着	釉付着	淡緑色 淡緑色	密 ◎		

第Ⅲ章　自然科学分析

－中村松田遺跡出土の炭化材樹種同定－

株式会社　古環境研究所

1．試　料（第5・20図）

試料は中村松田遺跡出土炭化材で、試料1　SB1炭C、試料2　SB4内炭No.1、試料3　SB4内炉址No.1、試料4　SB4内炭No.3、試料5　SB4内炭No.4の合計5点である。

2．方　法

試料は割折して新鮮な基本的三断面（木材の横断面、放射断面、接線断面）を作製し、落射顕微鏡によって75～750倍で観察した。樹種同定は解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

3．結　果

結果は表26に示し、主要な分類群の顕微鏡写真を示す。以下に同定根拠となった特徴を記す。

表26　中村松田遺跡出土炭化材の樹種同定結果

試　料	樹　種	（和名／学名）
試料1　SB1炭C	不明広葉樹	
試料2　SB4内炭No.1	ヒノキ	Chamaecyparis obtusa Endl.
試料3　SB4内炉址No.1	ニレ属	Ulmus
試料4　SB4内炭No.3	アカマツ	Pinus densiflora Sied. et Zucc.
試料5　SB4内炭No.4	ニレ属	Ulmus

1）アカマツ　Pinus densiflora Sied. et Zucc.　マツ科（第55図-1）

仮道管、放射柔細胞、放射仮道管及び垂直、水平樹脂道を取り囲むエピセリウム細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行は急である。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は窓状である。放射仮道管の内壁には著しい鋸歯状肥厚が存在する。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型であるが、水平樹脂道を含むものは紡錘形を呈する。

以上の形質よりアカマツに同定される。アカマツは、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。常緑高木で、高さ40m、径2mに達する。材は重硬な良材で水湿によく耐え、広く用いられる。

2）ヒノキ　Chamaecyparis obtusa Endl.　ヒノキ科（第55図-2）

仮道管、樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はゆるやかで、晩材部の幅はきわめて狭い。樹脂細胞がみられる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は、ヒノキ型で１分野に２個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で、１～15細胞高である。

以上の形質よりヒノキに同定される。ヒノキは福島県以南の本州、四国、九州、屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で、通常高さ40m、径1.5mに達する。材は木理通直、肌目緻密で強靭、耐朽、耐湿性も高い。良材であり、建築など広く用いられる。

3）ニレ属　Ulmus　ニレ科（第55図-3）

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が１～３列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して花束状、接線状、斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で、小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性で、すべて平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で、１～５細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりニレ属に同定される。ニレ属にはハルニレ、オヒョウなどがあり、北海道、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉の高木である。材は器具、旋作、薪炭などに用いられる。

4）不明広葉樹

小片であるため、広葉樹の特徴が観察されるのみである。

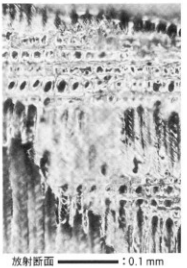
4．所　見

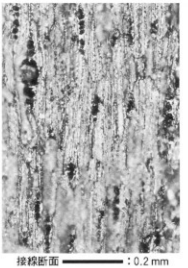
同定の結果、アカマツ、ヒノキ、ニレ属、不明広葉樹の４分類群が認められた。アカマツ、ヒノキ、ニレ属はいずれも本遺跡の周辺を含む温帯域に生育する樹木である。

参考文献

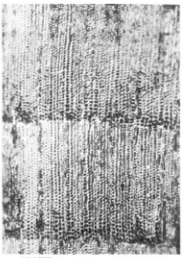
佐伯　浩・原田　浩　1985　「針葉樹材の組織」『木材の構造』文永堂出版，P.20-48.
佐伯　浩・原田　浩　1985　「広葉樹材の組織」『木材の構造』文永堂出版，P.49-100.

横断面 ：0.4mm

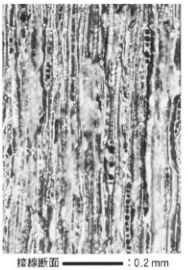

放射断面 ：0.1 mm


接線断面 ：0.2 mm

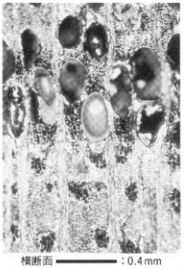
1．試料 4　SB 4 内炭No.3　アカマツ

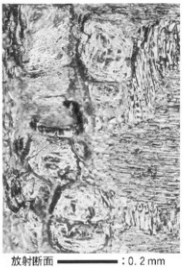

横断面 ：0.4mm

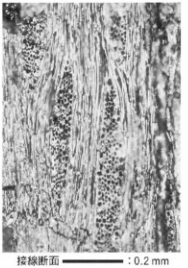
放射断面 ：0.1 mm


接線断面 ：0.2 mm

2．試料 2　SB 4 内炭No.1　ヒノキ


横断面 ：0.4mm


放射断面 ：0.2 mm


接線断面 ：0.2 mm

3．試料 3　SB 4 内炉址No.1　ニレ属

第 55 図　中村松田遺跡出土炭化材の顕微鏡写真

第Ⅳ章　調査の成果と課題

中村松田遺跡の調査は、古墳時代集落の範囲や構造を解明することを主目的として始めた。調査の結果、当地には古墳時代の遺構や遺物は希薄であり、その一方、弥生時代後期の遺構や遺物を多数検出することになった。また、古代～近代の遺物が少数ながら得られた。

弥生時代　竪穴式住居址７棟、溝２条、土坑11基は、全てが弥生時代後期後葉から終末期に時期比定されるものである。これ等の遺構は、切り合いや出土遺物より３グループに分かれた。１段階は後期後葉のＳＢ４・７・８、２段階は後期後葉から終末に移行する時期のＳＢ１・５、ＳＤ１、３段階は終末期のＳＢ２・３である。なお、土坑は住居や溝以上に時期比定が難しいが、ＳＫ９～13は１段階、ＳＫ２～４は２段階、ＳＫ５は３段階に属するであろう。

また、竪穴式住居址は平面形態により円形と長方形に２大別できた。円形は２棟で、直径５～６ｍ、面積34～35㎡、多数の主柱穴をもつ。一方、長方形は５棟で、規模には面積が10～14㎡と27㎡のものがある。主柱穴は２基で、ＳＢ１を除き中央に炉をもつ。このうちＳＢ２・４の炉には、炭や灰が分布する領域がある。

屋外施設では、ＳＢ１～５の周辺（１ｍ以内）に、直径10㎝内外の小穴が多数検出され注目される。小穴は住居址外の一定範囲内で検出されることより、住居に伴う施設として理解されるが、それ以上のことは判断できない。

出土物では、ＳＢ４とＳＤ１から多量の土器が出土している。ＳＢ４では遺物が住居址の検出面から基底部まで、さらに住居中央部を中心に折り重なるように出土した。出土品は完形品が稀少で、多くが大型破片であった。よって、出土物は出土状況と遺存状況より順次廃棄したものと推察できる。このような出土品（出土状況）は、筋違Ｆ遺跡ＳＢ５、松山大学構内遺跡ＳＢ７でみられ、松山平野の弥生時代後期の廃棄形態を示すものである。

古墳時代～古代　掘立柱建物址ＳＢ６は、時期が６世紀以降であることは明らかだが、時期を特定するにはいたらなかった。市内検出の掘立柱建物から推察すると、方位が北からやや東にふること、柱掘り方が長方～方形、規模が30～40㎝代であることより、古代に時期比定される可能性をもっている。石手川から川附川に挟まれた地域には、この様な大規模建物は検出例がないため、時期や機能についての解明は必須であり、課題としておきたい。

古代の遺物では、平城Ⅰ～Ⅱ式に比定される土師器456～458が注目される。松山平野では、奈良からの搬入例は稀であり貴重な資料である。さらには、７～８世紀の須恵器・土師器の出土量は、集落出土数としては多く、集落の充実度がうかがえる。今後は、平野東部の小野地区や南部の砥部地区にある窯址との関係を追究していきたい。

自然科学分析　ＳＢ１・４出土の木炭について樹種同定を行った。ＳＢ１は出土状況より住居の施設材、ＳＢ４は廃棄材と考えられるものである。本件は、弥生時代後期の植生を考えるための分析であり、今後とも継続して樹種同定を進めていきたい。

以上、調査結果についてまとめを行った。本調査では、釜ノ口遺跡の弥生時代後期集落が広く展開していることを示す資料を得ることができた。今後は、釜ノ口遺跡の８次にわたる調査を整理し、中村から小坂に存在した弥生時代集落の構造を理解していかなければならない。

写真図版

写真図版例言

1．遺構の撮影は、調査担当者が行った。

2．遺物の撮影は、大西が行った。

使用機材：

カ メ ラ	トヨ／ビュー45G
レ ン ズ	ジンマーS240㎜F5.6 他
ストロボ	コメット／CA-32　2灯・CB2400　2灯（バンク使用）
スタンド他	トヨ／無影撮影台・ウエイトスタンド101
フィルム	白　黒　プラスXパン4×5
	カラー　エクタクロームEPP4×5

3．遺構写真の焼き付け及び遺物写真のフィルム現像・焼き付けは、大西が行った。
（凸黒に限る。）

使用機材：

引 伸 機	ラッキー450MD
	ラッキー90MS
レ ン ズ	エル・ニッコール135㎜F5.6A
	エル・ニッコール50㎜F2.8N
印 画 紙	インフォードマルチグレードⅢRC

【参考】『埋文写真研究』Vol.1～7

〔大西 朋子〕

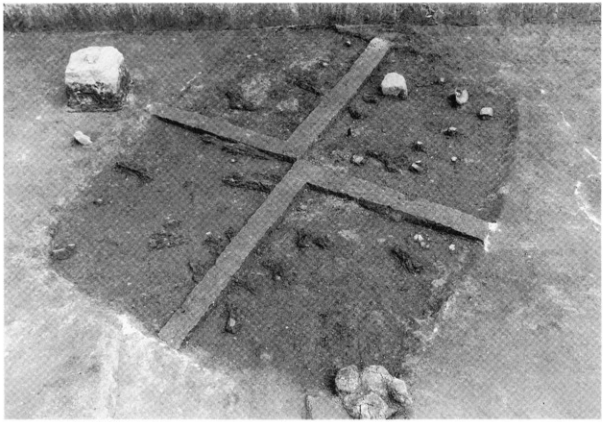
1．A区遺構検出状況（南より）

2．B区遺構検出状況（南より）

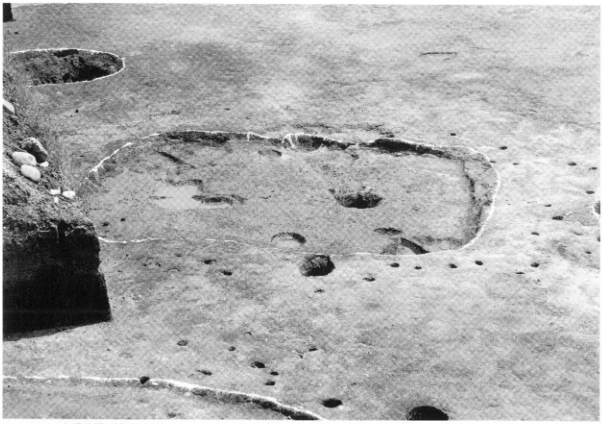
1．ＳＢ４遺物出土状況①（南東より）

2．ＳＢ４遺物出土状況②（北東より）

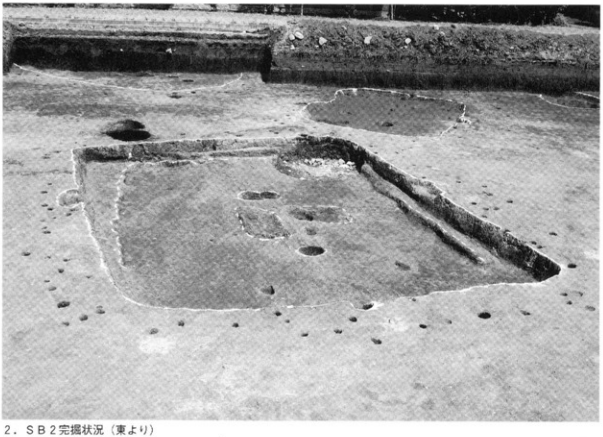
1．ＳＢ４遺物出土状況③（北東より）



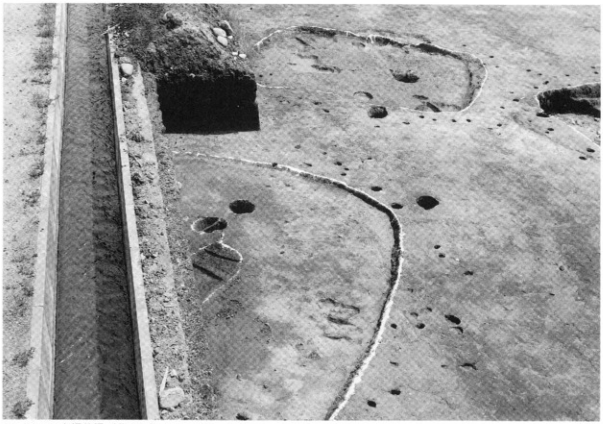
2．ＳＢ１遺物出土状況（南西より）



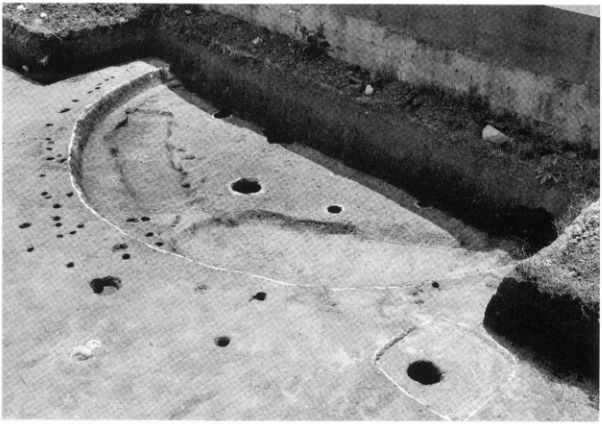
1．ＳＢ１完掘状況（北東より）



2．ＳＢ２完掘状況（東より）



1．ＳＢ３完掘状況（北より）



2．ＳＢ５完掘状況（北より）

図版六

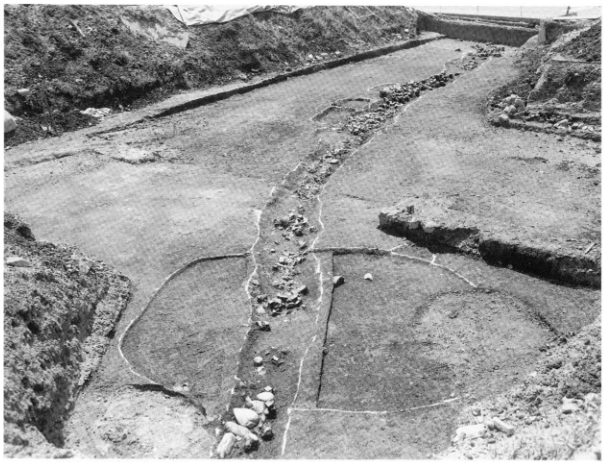
1．ＳＢ５・掘立６完掘状況（南より）

2．ＳＢ７完掘状況（北東より）

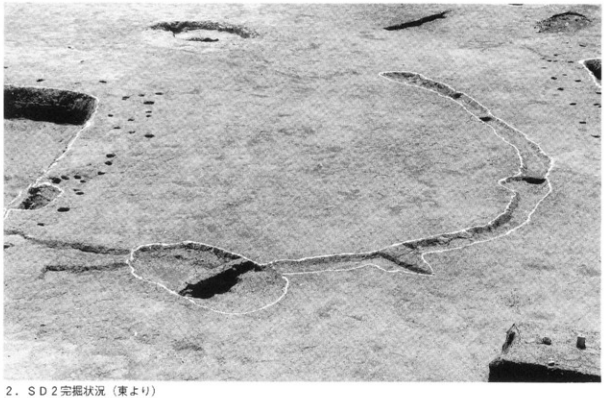
1．ＳＢ８完掘状況（北より）

2．ＳＫ９～13完掘状況（北より）

図版八



1．ＳＤ１遺物出土状況（南より）



2．ＳＤ２完掘状況（東より）

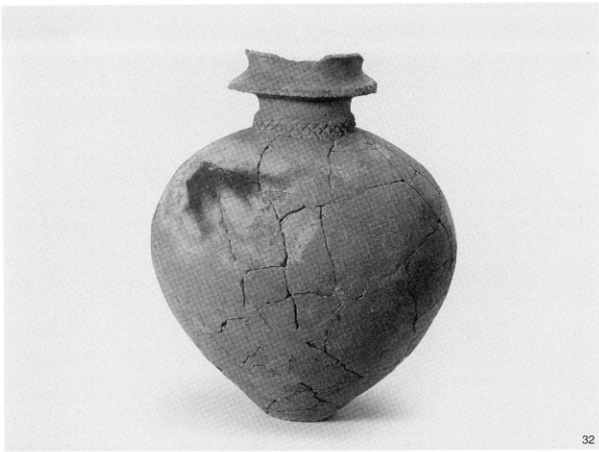
13

18

22

31

1．ＳＢ４出土遺物①

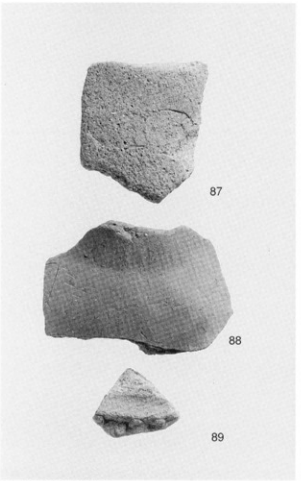


32

42

1．ＳＢ４出土遺物②

48


87
88
89

59

60

1．ＳＢ４出土遺物③

90

107

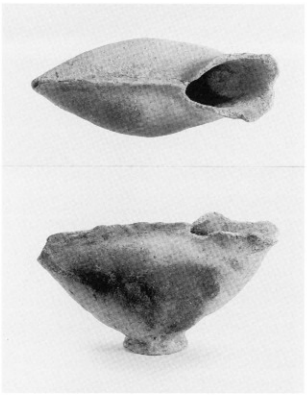
119

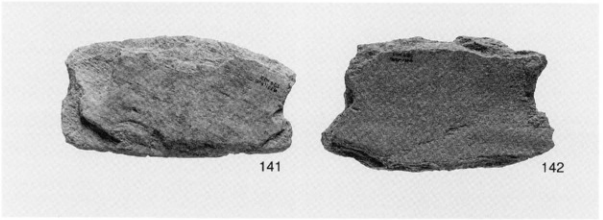
124

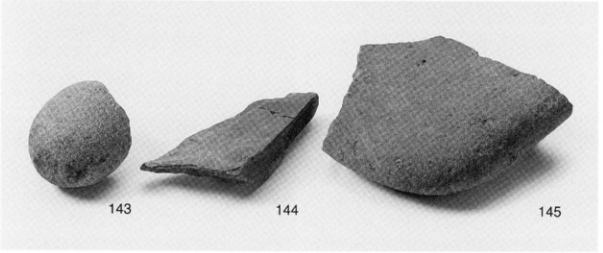
132

128

1．ＳＢ４出土遺物④







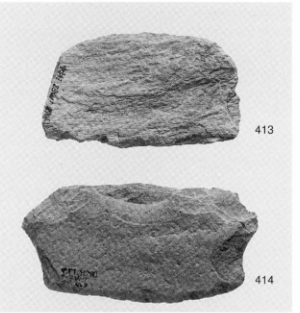
1．ＳＢ４出土遺物⑤

292

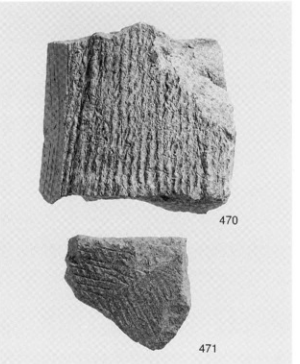
395

472

372


413

414


470

471

1．ＳＤ１出土遺物（292・372）　Ａ区出土遺物（395）　Ｂ区出土遺物（413・414）
包含層(古代)出土遺物（470～472）

抄　　録

ふりがな	なかむらまつだいせき
書名	中村松田遺跡
副書名	
巻次	
シリーズ名	松山市文化財調査報告書
シリーズ番号	第59集
編著者名	梅木謙一
編集機関	財団法人　松山市生涯学習振興財団埋蔵文化財センター
所在地	〒791 松山市南斉院町乙67－6　TEL089－923－6363
発行年月日	西暦　1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
中村松山 （なかむらまつやま）	松山市中村町 （まつやましなかむら）	38201		33°49′50″	132°46′51″	19870311～ 19870530	1,400	宅地開発

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
中村松田	集落	弥生 古墳 古代 中世 近世	竪穴住居、土坑、溝、掘立柱建物	弥生土器、石器、土師器、須恵器、陶磁器、瓦	土器廃棄住居 鳥形(袋状)土製品 古代土師器(畿内産) 貿易陶磁器

松山市文化財調査報告書　第59集

中村松田遺跡

平成9年3月31日　発行

編集・発行　松山市教育委員会
〒790 松山市三番町6丁目7－11
TEL　(089) 948－6605

財団法人 松山市生涯学習振興財団
埋蔵文化財センター
〒791 松山市南斎院町乙67番地6
TEL　(089) 923－6363

印刷　岡田印刷株式会社
〒790 松山市湊町7丁目1－8
TEL　(089) 941－9111